

授 業 概 要

平成24年度

群馬医療福祉大学 短期大学部

〒371-0823 群馬県前橋市川曲町191-1

TEL 027-253-0294

FAX 027-254-0294

授 業 概 要

平成 24 年度

授業概要の活用にあたり

この授業概要（英語では Syllabus）は、今年度開設する授業科目について、学生諸君が授業を受講する際に参考になるように、各科目担当教員が執筆したものです。

授業内容は、基礎教養科目と専門科目からなっています。

各授業の概要の中には、授業のねらい・授業のながれ・履修上の注意・評価の方法・教科書・参考書などが述べられています。学生諸君は自主的、意欲的に学習に取り組むためにこの授業概要を十分に活用して下さい。

群馬医療福祉大学 短期大学部 教務課

目 次

(基礎科目)

スポーツ・レクリエーション実技	1
情報処理演習(Word & Excel)	3
英語Ⅰ	5
健康論	6
道德教育研究	7
英語Ⅱ	8
心理学	9
社会学	10
法学	11

(介護福祉士指定科目)

社会福祉施設経営論	13
介護保険請求制度論	15
介護の基本Ⅰ(1)	17
介護の基本Ⅰ(2)	19
介護の基本Ⅱ(ICFの理解と介護)	21
コミュニケーション技術	23
生活支援技術Ⅰ(介護技術演習)	25
生活支援技術Ⅱ(介護技術演習)	27
生活支援技術Ⅳ(被服住居)	29
生活支援技術Ⅴ(総合)	31
介護過程の展開Ⅰ(1)	33
介護過程の展開Ⅱ	35
介護総合演習Ⅰ	37
介護総合演習Ⅱ	39
認知症の理解と介護	41
障害の理解と介護	43
こころとからだのしくみⅠ(1)	45
人間の尊厳と自立	47
人間関係とコミュニケーション	48
社会福祉概論	49
老人福祉論Ⅰ	50
老人福祉論Ⅱ	51
障害者福祉論Ⅰ	52
障害者福祉論Ⅱ	53
社会調査	54
障害者スポーツ論	55
生活支援技術Ⅲ(栄養調理)	56
介護過程の展開Ⅰ(2)	57
介護実習Ⅰ	58

介護実習Ⅱ	59
介護実習Ⅲ	60
発達と老化の理解Ⅰ(高齢者)	61
発達と老化の理解Ⅱ(障害者)	62
発達と老化の理解Ⅲ	63
こころとからだのしくみⅠ(2)	64
こころとからだのしくみⅡ	65

(専門科目)

アクティビティ・サービス援助技術	67
予防介護演習	69
相談援助の基盤と専門職	71
社会保障	73
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	75
社会福祉特講Ⅰ	77
社会福祉特講Ⅱ	79
レクリエーション活動援助法	81
介護福祉特講Ⅰ	83
介護福祉特講Ⅱ	85
基礎演習	87
総合演習	89
ボランティア活動Ⅰ	91
ボランティア活動Ⅱ	93
医療事務実務	95
整容技術演習	96
福祉住環境論	97
手話	98
点字	99
相談援助演習Ⅰ	100
地域福祉の理論と方法	101
低所得者に対する支援と生活保護制度	102
臨床心理学	103

(その他の科目)

基礎学力養成講座	105
共通試験対策講座	107
公務員試験対策講座Ⅰ	108
公務員試験対策講座Ⅱ	109
就職指導	110

群馬医療福祉大学短期大学部介護福祉学科 開講科目一覧

領域	授業科目の名称	開講年次	単位数			時間数	対象コース等	対象とする資格 (介護福祉士国家資格を除く)	
			必修	選択	コース必修				
基礎科目	英語 I	1	2			30			
	健康論	1	2			30			
	スポーツ・レクリエーション実技	1	2			60			
	道徳教育研究	1	2			30			
	英語 II	2		2		30			
	心理学	1		2		30			
	社会学	2		2		30	2科目4単位以上必修		
	情報処理演習	1		2		60		マイクロソフトオフィススペシャリスト	
	法 学	1		2		30			
		人間の尊厳と自立 (哲学)	1	2			30		
人間と社会		人間関係とコミュニケーション	1	2			30		
	社会の理解	社会福祉概論	1	2			30		
		老人福祉論 I	1		2		30	高齢福祉コース 老人福祉論 I・II 必修	
		老人福祉論 II	2		2		30	障害福祉コース 障害者福祉論 I・II 必修	
		障害者福祉論 I	1		2		30	総合福祉コース 1科目2単位以上必修	
		障害者福祉論 II	2		2		30		
	選択科目	社会福祉施設経営論	2		2		60	福祉総合コース必修	
		社会調査	1		2		30		
		介護保険請求制度論	2		2		60	高齢福祉コース必修	介護保険事務士
		障害者スポーツ論	2		2		30	障害福祉コース必修	障害者スポーツ指導員 2級
介護福祉士指定科目	介護	介護の基本 I (1)	1	2			60		
		介護の基本 I (2)	1	2			60		
		介護の基本 II (ICF の理解と介護)	2	2			60		
		コミュニケーション技術	1	2			60		
		生活支援技術 I (介護技術演習)	1	2			60		
		生活支援技術 II (介護技術演習)	1	2			60		
		生活支援技術 III (栄養調理)	2	2			60		
		生活支援技術 IV (被服住居)	2	2			60		
		生活支援技術 V (総合)	2	2			60		
		介護過程の展開 I (1)	1	2			60		
	介護過程の展開 I (2)	1	1			30			
	介護過程の展開 II	2	2			60			
	介護総合演習 I	1	2			60			
	介護総合演習 II	2	2			60			
	介護実習 I	1	2			50			
	介護実習 II	2	4			200			
	介護実習 III	2	4			200			
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解 I	4	2			30	25年度開講 (24年度1年生は2年次に履修)	
		発達と老化の理解 II	4	2			30	25年度開講 (24年度1年生は2年次に履修)	
		発達と老化の理解 III	1・2	2			30	24年度のみ1・2年合同で履修	
認知症の理解と介護		1	4			60			
障害の理解と介護		1	4			60			
こころとからだのしくみ I (1)		2	4			60			
こころとからだのしくみ I (2)		1	2			30			
こころとからだのしくみ II		2	2			30			
専門科目	高齢福祉コース	アクティビティサービス援助技術	2		2		60		アクティビティ・ワーカー
		医療事務実務	2		2		60		医療事務
		整容技術演習	2		2		60	高齢福祉コース・障害福祉コースは2科目4単位以上	健康管理士
		予防介護演習	2		2		60	履修	福祉住環境コーディネーター 3級
		福祉住環境	2		1		60		
		手話	2		1		30		
	福祉総合コース	点字	2		1		30		
		相談援助演習 I	2		2		30	福祉総合コース及び編入希望者選択必修	社会福祉士国家試験受験資格
		相談援助の基盤と専門職	2		4		60		社会福祉士国家試験受験資格
		社会保障	2		4		60		社会福祉士国家試験受験資格
		地域福祉の理論と方法	2		2		30		社会福祉士国家試験受験資格
	各コース共通	児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度	2		2		30	福祉総合コース	社会福祉士国家試験受験資格
		低所得者に対する支援と生活保護制度	2		2		30	3科目3単位以上履修	社会福祉士国家試験受験資格
		社会福祉特講 I	1		1		60		
		社会福祉特講 II	2		1		60		
その他	レクリエーション活動援助法	1		1		60	高齢福祉コース・障害福祉コースは1科目1単位以上履修	レクリエーション指導員	
	臨床心理学	1		1		30			
	介護福祉特講 I	1		1		60			
	介護福祉特講 II	2		1		60			
	基礎演習	1		2		60			
	総合演習	2		2		60			
	ボランティア活動 I	1		2		60			
	ボランティア活動 II	2			2	60	福祉総合コース及び編入希望者選択必修		
共通試験対策講座	2	-	-	-	-				

科目名	スポーツ・レクリエーション実技			担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本授業では、『身体運動』だけでなく、様々なスポーツ及びレクリエーションを通し、協力・強調・友愛などの意識を高め、学生生活の充実を図るとともにスポーツの楽しさを理解する。

■授業の概要

スポーツ及びレクリエーションをグループワークにより行い、生涯学習及び社会福祉現場での実践へ動機づけることで、健康の保持増進や、スポーツ及びレクリエーションの楽しさ・素晴らしさを授業で学び取る。また、実践においては各個人の身体的特性や能力に応じて展開する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション(評価・概要) 軽レクリエーション	授業時に指示
第2回	ドッチボール	授業時に指示
第3回	ドッチビー	授業時に指示
第4回	レクリエーション実技	授業時に指示
第5回	バドミントン 基本及びゲーム	授業時に指示
第6回	バドミントン ゲーム	授業時に指示
第7回	OMNIKIN KIN-BALLを使ったレクリエーション	授業時に指示
第8回	OMNIKIN KIN-BALLを使ったレクリエーション	授業時に指示
第9回	ペタンク	授業時に指示
第10回	レクリエーションを企画①	授業時に指示
第11回	レクリエーションを企画②	授業時に指示
第12回	ソフトバレーボール基本及びゲーム	授業時に指示
第13回	ソフトバレーボールゲーム	授業時に指示
第14回	レクリエーションを企画③	授業時に指示
第15回	レクリエーションを企画④ 前期総括 レポート提出	授業時に指示

■履修上の注意

原則体育着、体育館履きを着用とする。
各種目及びレクリエーションを積極的に取り組み楽しむことのできる学生であること。

■評価方法

出席点40%(遅刻及び早退は原点) 授業意欲・態度・取り組み40% レポート20%の総合評価とし、実技能力を基本としない。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	スポーツ・レクリエーション実技			担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本授業では、『身体運動』だけでなく、様々なスポーツ及びレクリエーションを通し、協力・強調・友愛などの意識を高め、学生生活の充実を図るとともにスポーツの楽しさを理解する。

■授業の概要

スポーツ及びレクリエーションをグループワークにより行い、生涯学習及び社会福祉現場での実践へ動機づけることで、健康の保持増進や、スポーツ及びレクリエーションの楽しさ・素晴らしさを授業で学び取る。また、実践においては各個人の身体的特性や能力に応じて展開する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション	授業時に指示
第17回	レクリエーション実技	授業時に指示
第18回	レクリエーションの実践①	授業時に指示
第19回	レクリエーションの実践②	授業時に指示
第20回	レクリエーションの実践③	授業時に指示
第21回	レクリエーションの実践④	授業時に指示
第22回	バスケットボール 基本及びゲーム	授業時に指示
第23回	バスケットボール 練習及びゲーム	授業時に指示
第24回	バスケットボール ゲーム	授業時に指示
第25回	室内ホッケー 基本及びルール説明	授業時に指示
第26回	室内ホッケー ゲーム	授業時に指示
第27回	フットサル 基本及びゲーム	授業時に指示
第28回	フットサル ゲーム	授業時に指示
第29回	レクリエーション実技	授業時に指示
第30回	後期総括 レポート提出	授業時に指示

■履修上の注意

原則体育着、体育館履きを着用とする。
各種目及びレクリエーションを積極的に取り組み楽しむことのできる学生であること。

■評価方法

出席点40%（遅刻及び早退は原点） 授業意欲・態度・取り組み40% レポート20%の総合評価とし、実技能力を基本としない。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	情報処理演習(Word & Excel)			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代社会において事務処理に欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。Microsoft 認定資格である MOS 試験合格の実力をつける。

■授業の概要

事務処理において比較的使用頻度の高い Word と Excel を Microsoft 認定のテキストを使用して活用できるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	コンテンツの作成1 文字列・記号・繰り返し使用する文字列の挿入と編集。	授業で行ったテキスト部分を最低2回は復習する。
第2回	コンテンツの作成2 特定コンテンツの選択。グラフィックの挿入。	授業で行ったテキスト部分を最低3回は復習する。
第3回	コンテンツの作成3 図表とグラフの作成。情報の検索・選択・挿入。	授業で行ったテキスト部分を最低4回は復習する。
第4回	コンテンツの作成4 集客広告の作成(1)。	授業で行ったテキスト部分を最低5回は復習する。
第5回	コンテンツの作成5 集客広告の作成(2)。	授業で行ったテキスト部分を最低6回は復習する。
第6回	コンテンツの書式設定1 文字・段落の書式設定。	授業で行ったテキスト部分を最低7回は復習する。
第7回	コンテンツの書式設定2 段組の設定と変更。ヘッダーとフッターの挿入。	授業で行ったテキスト部分を最低8回は復習する。
第8回	コンテンツの書式設定3 文書のレイアウトおよびページ設定の変更。	授業で行ったテキスト部分を最低9回は復習する。
第9回	コンテンツの整理 箇条書・段落番号の書式、アウトラインの作成。	授業で行ったテキスト部分を最低10回は復習する。
第10回	文書の書式設定と管理1 テンプレートを使用した新規文書の作成。	授業で行ったテキスト部分を最低11回は復習する。
第11回	文書の書式設定と管理2 適切な形式での文書保存・プレビュー。	授業で行ったテキスト部分を最低12回は復習する。
第12回	文書の書式設定と管理3 ウィンドウの変更と整理。フォルダーの整理。	授業で行ったテキスト部分を最低13回は復習する。
第13回	グループ作業1 校閲のための文書の回覧。コメントの挿入・表示・編集。	授業で行ったテキスト部分を最低14回は復習する。
第14回	グループ作業2 文書の比較と変更箇所の反映。変更履歴の記録。	授業で行ったテキスト部分を最低15回は復習する。
第15回	MOS (Word) 模擬試験と解説	模擬試験にそなえ、テキストの総復習。

■履修上の注意

演習は、毎回は前回までの成果を前提とした積み重ねとなるため、欠席で成果の途切れることのないよう心掛けること。

■評価方法

- ①平常点(出席状況・授業態度)(60%)
- ②課題の提出状況(40%)

■教科書

”よくわかる” マスター Word2003 問題集 (FOM 出版)
 ”よくわかる” マスター Excl2003 問題集 (FOM 出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	情報処理演習(Word & Excel)			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

現代社会において事務処理に欠かす事のできないパーソナルコンピュータの利用方法の習得を目的とする。Microsoft 認定資格である MOS 試験合格の実力をつける。

■授業の概要

事務処理において比較的使用頻度の高い Word と Excel を Microsoft 認定のテキストを使用して活用できるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	データとコンテンツの作成1 セルコンテンツの入力と編集。	授業で行ったテキスト部分を最低2回は復習する。
第17回	データとコンテンツの作成2 画像の挿入・配置・サイズの設定。	授業で行ったテキスト部分を最低3回は復習する。
第18回	データとコンテンツの書式設定1 書式の設定と変更。スタイルの設定と変更。	授業で行ったテキスト部分を最低4回は復習する。
第19回	データとコンテンツの書式設定2 行と列の書式の変更。シートの書式設定。	授業で行ったテキスト部分を最低5回は復習する。
第20回	ブックの管理1 テンプレートを使用した新規ブックの作成。	授業で行ったテキスト部分を最低6回は復習する。
第21回	ブックの管理2 適切な形式でデータ保存する操作。セルの挿入・削除・移動。	授業で行ったテキスト部分を最低7回は復習する。
第22回	ブックの管理3 ワークシートの整理。ウィンドウレイアウトのカスタマイズ。	授業で行ったテキスト部分を最低8回は復習する。
第23回	ブックの管理4 ハイパーリンクの作成と変更。データのプレビュー。	授業で行ったテキスト部分を最低9回は復習する。
第24回	ブックの管理5 ページ設定。データの印刷。	授業で行ったテキスト部分を最低10回は復習する。
第25回	データの分析1 「オートフィルタ」を使用したリストのフィルタ処理。	授業で行ったテキスト部分を最低11回は復習する。
第26回	データの分析2 数式の挿入と変更。	授業で行ったテキスト部分を最低12回は復習する。
第27回	データの分析3 統計関数・財務関数・論理関数の使用。	授業で行ったテキスト部分を最低13回は復習する。
第28回	データの分析4 ワークシートのデータをもとにした、図表とグラフの作成・変更。	授業で行ったテキスト部分を最低14回は復習する。
第29回	グループ作業 コメントの挿入・表示・編集。	授業で行ったテキスト部分を最低15回は復習する。
第30回	MOS (Excel) 模擬試験と解説	模擬試験にそなえ、テキストの総復習。

■履修上の注意

演習は、毎回は前回までの成果を前提とした積み重ねとなるため、欠席で成果の途切れることのないよう心掛けること。

■評価方法

- ①平常点(出席状況・授業態度)(60%)
- ②課題の提出状況(40%)

■教科書

”よくわかる” マスター Word2003 問題集 (FOM 出版)
 ”よくわかる” マスター Excl2003 問題集 (FOM 出版)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	英語 I		担当教員 (単位認定者)	稲村 善二	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

外国人の見た日本文化についてのエッセイを軸に、平易な英文を「読む」「聞く」「書く」「話す」へ発展させ、4技能の基礎力を養うことを主眼とする。

■授業の概要

300語程度のシンプルな英文。エクササイズはリスニングのほか、語句の選択問題から簡単な英作文まで様々なメニューで授業の展開をはかる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	毎回、本文のリーディングを繰り返し行い、各 lesson の練習問題を解いて、授業に臨むこと。
第2回	Cherry Blossoms Everywhere さくら、さくら、…	”
第3回	Home Away From Home 第二の我が家	”
第4回	Commuter Trains in Tokyo 東京の通勤事情	”
第5回	Rain, Rain, Go Away あした天気になあれ	”
第6回	Different Places, Different Things 所変われば品変わる	”
第7回	Hot Springs: The Perfect Stress Reliever 温泉でストレス解消	”
第8回	Tanabata, The Star Festival お星さまキラキラ	”
第9回	Fancy Fruit フルーツの王国からきて	”
第10回	The Grateful Crane ツルの恩返し	”
第11回	Kimono Show and Competition きもの装いコンテスト	”
第12回	Visiting a Japanese Home 日本の家庭を初体験	”
第13回	University Clubs サークルとクラブ	”
第14回	New Year お正月	”
第15回	Yummy, Yummy Food! ごちそうをどうぞ	”

■履修上の注意

授業は学生による発表を中心に進めるので、学生一人ひとりの積極性が望まれる。また、テキストに沿った形の演習形式を取るため、予習は欠かせない。

■評価方法

定期試験の成績 (60%)・出席状況 (20%)・授業への取り組み (20%) を総合的に評価する。

■教科書

Alison's Reports on Japan アリソンの日本滞在記 (三修社)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	健康論			担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく一人一人の取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康を実現することを図る。特に、日常生活の身体をとおして、健康を増進し発病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常の生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。

■授業の概要

人間にとって、健康を考えることの意味、予想される疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康との関わりと個人の自己管理、具体的な体力増進のための方法、運動の持つ文化性、生涯スポーツと健康づくり運動との関わりについて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション：健康を考える（意識、定義、人間の幸福）	健康について、自己の意見をまとめておく。
第2回	疾病予防論（感染症、生活習慣病）	疾病予防について、自己の意見をまとめておく。
第3回	メンタルヘルス論①（心身相関、精神障害）	メンタルヘルスについて、自己の意見をまとめておく。
第4回	メンタルヘルス論②（健康増進と予防）	健康増進について、自己の経験をまとめておく。
第5回	ヘルスマネジメント論①（意義、世界的潮流）	健康管理について、自己の意見をまとめておく。
第6回	ヘルスマネジメント論②（我が国の動向）	地域社会の健康管理について、予備知識を得ておく。
第7回	体力論（体力とは、体力診断、加齢と体力）	体力について、自己の意見をまとめておく。
第8回	運動処方論（考え方、実際、現実と課題）	運動処方について、自己の経験をまとめておく。
第9回	運動文化論（身体運動と文化）	運動文化について、自己の意見をまとめておく。
第10回	生涯スポーツ論①（地域社会とスポーツ行政）	生涯スポーツについて、自己の意見をまとめておく。
第11回	生涯スポーツ論②（地域スポーツと健康）	地域スポーツについて、予備知識を得ておく。
第12回	健康づくりと運動①（ラジオ体操の基礎理論と実践）	健康づくりの身体運動について、予備知識を得ておく。
第13回	健康づくりと運動②（ラジオ体操の応用理論と実践）	ラジオ体操の基礎理論と実技をまとめておく。
第14回	健康づくりと運動③（みんなの体操の理論と実践）	ラジオ体操の応用理論と実技をまとめておく。
第15回	まとめ	学習内容の確認

■履修上の注意

- ①生涯の健康づくりの基礎知識として取得し、日常生活に応用できる態度の受講を求める。
- ②一般教養「保健体育」の保健であり、積極的に授業に参加すること。また、毎回の授業終了後にコメントカードを提出する。
- ③健康づくりの運動では、実践時の内容を記述する。また、身体運動が十分できるよう運動着を着用して参加すること。
- ④講義で学習した内容に関して、新聞、ニュースなどで最新の情報に関することがあれば常に意識するように習慣づけること。

■評価方法

①平常点（授業への参加、取り組み）（40%） ②試験（60%）を総合して評価する。

■教科書

「健康論：三訂版」（UEC健康・スポーツ科学部会編：道和書院）

■参考書

「健康日本21」（健康づくり財団）等、授業の中で紹介する。

科目名	道徳教育研究			担当教員 (単位認定者)	中田 勝	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

<p>本学の学生として、恥じない美徳を身につける。</p>

■授業の概要

<p>伝統の建学精神の理解と実践を学習し、我が身の人格完成につとめるとともに、社会福祉、教育、看護の道を極め(含、短期大学部)、卒業後、社会に寄与する人を育成することを目標にする。</p>
--

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	本学の沿革、並びに講経について学んでゆく	テキストp1～p5
第2回	〃 (学問所の開学)	p4
第3回	〃 (古の人の志しについて)	p15
第4回	〃 (現代の人の更なる志しについて)	p15
第5回	建学精神の把握と実践、並びに先人の箴言について	p14～p35
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	教育理念の把握について、及び校歌、詩等について	p143を中心として
第10回	〃	〃
第11回	〃	〃
第12回	〃	〃
第13回	本学の特色を中心として学んでゆく	p67を中心として
第14回	〃	〃
第15回	王学各義(附編)	p97～p148

■履修上の注意

<p>1. 授業に集中して勉学すること。 2. 各自、ノートに大切な点を纏めておくこと。</p>
--

■評価方法

<p>定期試験(85%)、出席点・平常点(15%)を総合して評価。</p>

■教科書

<p>「咸有一徳・学校法人昌賢学園の全人教育」著者(鈴木利定学長・中田勝教授)</p>

■参考書

<p>講義中に適宜紹介。</p>

科目名	英語Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	グジェビック・マレク	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

受講生は初歩的で実的な英語の知識を次の事柄に関連して習得する。

- (1) 単語同士がつながった場合の発音、文中でのアクセント、イントネーション
- (2) 語彙一人間関係と社会に関する基本的な言葉と語句を練習する
- (3) 機能的な言語の構造—さまざまな社会生活の場面で相手の人が反応してくれて、意思の疎通がはかれるもの
- (4) 文法—英語の文法の基本的な原則を勉強する

■授業の概要

さまざまな方法でこうした事柄を表す言い方を勉強する。自己紹介、自分の趣味や興味のあること、学校や仕事の話をする場面、自分の願いや計画を述べたり、能力を表す言い方、前の出来事を表す言い方、提案をしたり、約束をする場面などが扱われる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション Being One of the Family (家族の成員がいる)	2ページの言葉に精通する。 2ページの質問に答えてみる。
第2回	Talking about people-relatives, friends, etc. (他の人について話す)	5,6ページの文法的な説明を復習する。 自己紹介する
第3回	Living in the Society (社会の中での生活)	9ページの言葉に精通する。 9ページの質問に答えてみる。
第4回	Talking about everyday life activities (動作が習慣的に繰り返して行なわれる場合)	12,13ページの文法的な説明を復習する。 10,11ページの文章を練習する。
第5回	Elderly people in Japan (日本に生きている高齢者)	18,19ページの文法的な説明を復習する。 16,17ページの練習の会話を暗記する。
第6回	Aging Societies (高齢者)	15ページの言葉に精通する。 15ページの質問に答えてみる。
第7回	The Archipelago of Longevity (どのように長生きするか)	21ページの言葉に精通する。 21ページの質問に答えてみる。
第8回	Talking about personality traits (習慣と人格)	22ページ1番目の練習の言葉に精通する。 24ページの文法的な説明を復習する。
第9回	Natural Disasters (自然災害)	27ページの言葉に精通する。 27ページの質問に答えてみる。
第10回	How our life may suddenly change (生活の状態を変えられる)	30ページの文法的な説明を復習する。 28ページの練習の例を暗記する。
第11回	A Visit to the Hospital (病気になる)	33ページの言葉に精通する。 33ページの質問に答えてみる。
第12回	Expressing one's plans and suggestions (計画を表す言い方)	36ページの文法的な説明精通する。 34ページ2番目の練習の例を暗記する。
第13回	Afraid to Drive (事故に関わる問題)	38ページの言葉に精通する。 38ページの質問に答えてみる。
第14回	Talking about past events (これまでの出来事を表す言い方)	41,42ページの文法的な説明精通する。 43ページの言葉に精通する。
第15回	Welfare programs—why important (社会福祉計画なぜ重要)	5～42ページの文法的な説明精通する。 2～40ページの練習を復習する。

■履修上の注意

会話のコースなので、次の点がとても重要。

- 授業に出席すること
- 授業の事柄を準備すること
- 練習に参加すること

■評価方法

1. 学んだ語彙と文法に関する定期試験の成績 (70%)
2. 授業への出席状況、積極的に参加しているかという点から総合的に評価する (30%)。

■教科書

『Social Welfare in Easy English. Practice and Report Materials』グジェビック・マレク著 (2011)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学			担当教員 (単位認定者)	島内 晶	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

心理学には哲学の文科的な学問の伝統と、物理学や生理学のような理科的な学問の気風が混在し、さらには医学的な理解も心理学に大きな影響を与えている。心理学全体を理解しようとするならばすべての領域における知識が必要となるのである。この授業ではこのような心理学の「扉」を叩いてみることを目的とする。

■授業の概要

心理学の各領域を網羅的に概説する。基礎心理学から応用心理学まで幅広い視点で学習を進め、心理学理論による人間理解と心理学的支援の方法について学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、心理学とはなにか	「心」とは何かを考えておくこと。
第2回	性格	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第3回	感情	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第4回	欲求と動機づけ	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第5回	感覚・知覚・認知	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第6回	学習	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第7回	記憶	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第8回	知能・創造性・思考	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第9回	人間関係と集団	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第10回	対人交流とコミュニケーション	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第11回	発達概念	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第12回	適応とストレス	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第13回	見立て・面接・心理療法	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第14回	脳と心	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第15回	総括	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合

■履修上の注意

- ・予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。授業には、遅刻、私語、居眠り等をせずに集中して臨むこと。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をしてとること。
- ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートや小テストを毎回行う予定である。

■評価方法

- ①平常点(出席状況、受講態度、授業時に課す課題、小テスト等)(40%) ②学期末試験(60%)
①～②を総合的に評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援—心理学』第2版 中央法規出版 2009年

■参考書

梅本堯夫 大山正 岡本浩一 共著 『心理学 心のはたらきを知る』サイエンス社 2002年

科目名	社会学			担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会学の歴史と人名について、理解して覚えることが期待される。学習効果として挙げられる。社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを授業の到達目標とする。

■授業の概要

ジェンダー、児童虐待、DVIについては、ビデオ学習も取り入れる。社会福祉士の受験科目である社会理論と社会システムで必要とされる人名や業績について包括的に学習する。また人口動態や社会指標では具体的なデータを取り上げて、説明を行う。社会福祉士の過去問題も授業では取り上げて、演習形式で学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	教科書の通読
第2回	ジェンダー	ジェンダーについて自分なりの意見をまとめる
第3回	児童虐待	児童虐待について自分なりの意見をまとめる
第4回	ドメスティック・バイオレンス	配偶者暴力について自分なりの意見をまとめる
第5回	高齢者虐待	高齢者虐待について自分なりの意見をまとめる
第6回	まとめ	配布資料の復習
第7回	問題演習	配布資料の予習
第8回	問題演習解説	演習問題の復習
第9回	組織	官僚組織、フォーマル・グループ、インフォーマルグループ
第10回	役割理論	役割理論について具体的な事例を考えてみる
第11回	社会学人名(1)	配布資料の復習
第12回	社会学人名(2)	配布資料の復習
第13回	まとめ	配布資料の復習
第14回	問題演習	配布資料の予習
第15回	問題演習解説	演習問題の復習

■履修上の注意

必要とされる予備知識については、教科書を事前に通読しておくことが望ましい。社会福祉士の試験では社会理論と社会システムは暗記すべき項目が比較的多いため、授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと暗記するように努めること。暗記は工夫すると覚えやすいので、授業の中でも紹介していく。
本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	法学			担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらいます。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	法学概論1(市民生活と社会規範)	教科書の1～8頁を読むこと
第2回	法学概論2(市民生活の各領域と主な関係法 以下)	教科書の9～20頁を読むこと
第3回	憲法1(総論、基本的人権総論(私人間効力あたりまで))	教科書の21～32頁を読むこと
第4回	憲法2(基本的人権総論(13条、14条)、精神的自由)	教科書の33～39頁を読むこと
第5回	憲法3(経済的自由、社会権)	教科書の40～45頁を読むこと
第6回	憲法4(上記以外の人権、国会、内閣)	教科書の46～58頁を読むこと
第7回	憲法5(裁判所、財政、地方自治)	教科書の59～70頁を読むこと
第8回	民法1(総則)	教科書の71～82頁を読むこと
第9回	民法2(物件)	教科書の83～94頁を読むこと
第10回	民法3(契約1)	教科書の95～108頁を読むこと
第11回	民法4(契約2、債権1)	教科書の109～117頁を読むこと
第12回	民法5(債権2)	教科書の118～128頁を読むこと
第13回	民法6(親族)	教科書の129～160頁を読むこと
第14回	民法7(相続)	教科書の161～180頁を読むこと
第15回	まとめ	ノート等を見直すこと

■履修上の注意

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。

■評価方法

試験(60%)、出席点(30%)授業態度(10%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館、2011年

■参考書

小六法(憲法・民法の掲載あるもの (例)有斐閣「ポケット六法」)

科目名	社会福祉施設経営論		担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学の基及び最新の経営理論も学ぶことができ、社会福祉施設の経営状況が判断できるようにする。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えてオリジナルの経営学等の基礎理解のためのレジュメを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。古典的経営学からコトラー等まで初心者でも理解できるような講義を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	指定テキストを読んでおく。
第2回	経営学と企業の特徴	経営学とは何か理解する。企業の分類を理解する。
第3回	経営理論の流れ1 経営学の発生	経営学の歴史的展開を理解する
第4回	経営理論の流れ2 古典理論	テイラーシステムを調べ、理解する。
第5回	経営理論の流れ3 古典から現代理論へ	さまざまな経営理論を調べ理解する。
第6回	経営理論の流れ4 ドラッカー、コトラー	コトラー等の理論を調べ理解する。
第7回	福祉サービスにおける組織・経営	福祉サービスの特徴を理解する。
第8回	社会福祉法人	社会福祉法人の特徴を理解する。
第9回	法人とは	法人の種類と特徴を理解する。
第10回	特定非営利活動法人	NPOの特徴を理解する。
第11回	戦略	さまざまな戦略理論を理解する。
第12回	事業計画	事業計画の流れを理解する。
第13回	組織論	理想的な組織について理解する。
第14回	管理運営の基礎理論	管理運営に必要な基礎理論を理解する。
第15回	まとめ	前期の内容を復習し、理解を深める。

■履修上の注意

簿記会計額や経営学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。必要に応じて理解補助の資料のプリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を80%、その他を10%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	社会福祉施設経営論		担当教員 (単位認定者)	高井 健二	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は一般企業と同様に経営センスが求められている。本講義を受講することで経営学の基及び最新の経営理論も学ぶことができ、社会福祉施設の経営状況が判断できるようにする。

■授業の概要

経営学や簿記会計、労働法などまったく学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにテキストに加えてオリジナルの経営学等の基礎理解のためのレジュメを配布する。経営や労働法規の苦手な人でも安心して受講してほしい。古典的経営学からコトラー等まで初心者でも理解できるような講義を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	リーダーシップ	多様なリーダーシップ論を理解する。
第17回	サービスマネジメント	サービスマネジメントについて理解する。
第18回	サービスの質の評価	第三者評価などの質の評価を理解する。
第19回	苦情対応とリスクマネジメント	クレーマー対策など危機管理を理解する。
第20回	人事・労務管理の基礎	人事労務管理に必要な基礎知識を学ぶ。
第21回	労働法1労働基準法	労働基準法について理解する。
第22回	労働法2労災法	労災法について理解する。
第23回	労働法3雇用保険法	雇用保険法について理解する。
第24回	人事労務管理	実際の人事労務管理を学ぶ。
第25回	人材育成	多様な人材育成法を学ぶ。
第26回	簿記会計の基礎	簿記会計の基礎的な仕組みを学ぶ。
第27回	簿記会計の基礎	簿記会計の基礎的な仕組みを学ぶ。
第28回	会計管理と財務管理	財務諸表の読み方を理解する。
第29回	情報管理	情報管理の実際と常用性を理解する。
第30回	まとめ	後期の内容を復習し、理解を深める。

■履修上の注意

簿記会計額や経営学等の基礎教育を受けていないものという前提で講義を行うが、広範な内容であるため基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。必要に応じて理解補助の資料のプリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を80%、その他を10%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『福祉サービスの組織と経営』中央法規

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	介護保険請求制度論			担当教員 (単位認定者)	関口喜久代	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢者や障害を持つ人を含め、すべての人間がその人らしく生活ができるように支援するための制度であることを理解する。福祉サービスの種類や利用方法を学ぶ。

■授業の概要

社会保障制度のひとつである、介護保険制度を理解する。介護保険の申請・利用方法やサービスの種類を理解し、サービスの利用料を算定し、レセプトを書き上げる作業を習得する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	介護保険制度の背景と仕組み	テキストP1～P71
第2回	介護サービスの種類と内容	テキストP34～P71
第3回	介護サービスの種類と内容	テキストP34～P71
第4回	保険給付の仕組み・介護報酬とは	テキストP34～P71
第5回	地域区分単価	テキストP6～P11
第6回	在宅サービス支給限度基準額	テキストP6～P11
第7回	その他の利用料	テキストP12～P62
第8回	居宅サービスの算定方法	テキストP63～P252
第9回	居宅サービスの算定方法	テキストP63～P252
第10回	居宅サービスの算定方法	テキストP63～P252
第11回	居宅サービスのレセプト作成	テキストP63～P252
第12回	居宅サービスのレセプト作成	テキストP63～P252
第13回	居宅サービスのレセプト作成	テキストP63～P252
第14回	施設サービスの算定方法	テキストP304～P350
第15回	施設サービスの算定方法	テキストP304～P350

■履修上の注意

誠意ある態度で受講を求めます。計算があるので、必ず電卓を用意すること。

■評価方法

筆記試験(60%)、授業への参加態度(40%)を総合して評価する。

■教科書

教科書は、介護保険事務士養成テキスト・(学科編・実務編) 介護給付費単位数等サービスコード表
介護報酬の算定構造

■参考書

授業の中で適宜紹介していく

科目名	介護保険請求制度論			担当教員 (単位認定者)	関口喜久代	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢者や障害を持つ人を含め、すべての人間がその人らしく生活ができるように支援するための制度であることを理解する。福祉サービスの種類や利用方法を学ぶ。

■授業の概要

社会保障制度のひとつである、介護保険制度を理解する。介護保険の申請・利用方法やサービスの種類を理解し、サービスの利用料を算定し、レセプトを書き上げる作業を習得する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	施設サービスのレセプト作成	テキストP 304 ~ P 350
第17回	施設サービスのレセプト作成	テキストP 304 ~ P 350
第18回	施設サービスのレセプト作成	テキストP 304 ~ P 350
第19回	施設サービスのレセプト作成	テキストP 304 ~ P 350
第20回	地域密着型サービス	テキストP 254 ~ P 302
第21回	地域密着型サービスのレセプト作成	テキストP 254 ~ P 302
第22回	認知症対応型共同生活介護施設の算定方法	テキストP 260 ~ P 269
第23回	認知症対応型共同生活介護施設のレセプト作成	テキストP 260 ~ P 269
第24回	介護予防サービスの算定方法	テキストP 63 ~ P 252
第25回	介護予防サービスのレセプト作成	テキストP 63 ~ P 252
第26回	公費の請求方法	テキストP 352 ~ P 359
第27回	練習問題	問題集
第28回	練習問題	問題集
第29回	模擬試験	問題集
第30回	模擬試験	問題集

■履修上の注意

誠意ある態度で受講を求めます。計算があるので、必ず電卓を用意すること。

■評価方法

筆記試験(60%)、授業への参加態度(40%)を総合して評価する。

■教科書

教科書は、介護保険事務士養成テキスト・(学科編・実務編) 介護給付費単位数等サービスコード表
介護報酬の算定構造

■参考書

授業の中で適宜紹介していく

科目名	介護の基本I(1)			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士国家資格が誕生した社会背景などを学び、その社会的役割を理解するとともに、知識・技術及び資格取得の意識を持つことができるようにする。

■授業の概要

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて理解し、介護の実践の基本的姿勢や介護の倫理などを学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション : 授業の進め方など	自分の将来像を考えまとめる。
第2回	介護福祉士のイメージ	自分の介護福祉士に対するイメージをまとめる。
第3回	介護の歴史① (明治～大正)	明治時代や大正時代の介護の捉え方をまとめる。
第4回	介護の歴史② (昭和から平成)	私たちの介護の捉え方をまとめる。
第5回	介護問題の背景① (平均寿命と老々介護など)	平均寿命等について整理し課題をまとめる。
第6回	介護問題の背景② (2015年の高齢者介護など)	2015年の高齢者介護について自己の意見をまとめる。
第7回	社会福祉士及び介護福祉士法①	介護福祉法の定めている目的や定義について、自己の意見をまとめる。
第8回	社会福祉士及び介護福祉士法②	介護福祉法の定めている義務規定についてまとめる。
第9回	専門職能団体の活動等	専門職能団体の役割について、まとめる。
第10回	介護サービスの特性	介護サービスに求められることについて、まとめる。
第11回	ケアマネジメントのしくみ	介護支援専門員によるケアマネジメントとその課題をまとめる。
第12回	介護サービスの歴史変遷	介護サービスの歴史的変遷について、自己の意見をまとめる。
第13回	介護サービスの種類	介護サービスの種類をまとめる。
第14回	居宅系介護サービス (高齢者)	居宅系サービスの提供の場とその特性をまとめる。
第15回	前期のまとめ	重要ポイントを整理し、まとめる。

■履修上の注意

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発となる。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。課題を提出すること。必要に応じて小テストを実施していく。

■評価方法

定期試験 60%、課題提出及び小テスト 40%

■教科書

介護の基本Ⅱ 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本I(1)			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士国家資格が誕生した社会背景などを学び、その社会的役割を理解するとともに、知識・技術及び資格取得の意識を持つことができるようにする。

■授業の概要

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通じて理解し、介護の実践の基本的姿勢や介護の倫理などを学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション	介護サービスについて振り返って、まとめる。
第17回	施設系介護サービス（高齢者）	介護保険法で定めている施設等についてまとめる。
第18回	居宅系介護サービス（障害者）	障害者自立支援法によるサービスの特徴をまとめる。
第19回	施設系介護サービス（障害者）	施設系介護サービスをまとめる。
第20回	連携と協働の理解	チームアプローチについてまとめる。
第21回	地域との連携と実際	身近なサービスや機関の所在地をまとめる。
第22回	ボランティアの役割	ボランティアの役割について、自己の意見をまとめる。
第23回	障害者の生活	先天的に脳性麻痺をもつA子さんの生活から理解できたことをまとめる。
第24回	地域包括支援センターについて	地域包括支援センターの役割と機能についてまとめる。
第25回	リスクマネジメントについて①	ケースカンファレンスについてまとめる。
第26回	リスクマネジメントについて②	身体拘束について、自己の意見をまとめる。
第27回	リスクマネジメントについて③	事故やトラブルを繰り返さないためにどうすれば良いかをまとめる。
第28回	介護者の安全について①	転倒事故をさまざまな角度から課題を分析してまとめる。
第29回	介護者の安全について②	介護職のかかわりについて、自己の意見をまとめる。
第30回	後期のまとめ	後期の重要ポイントをまとめる。

■履修上の注意

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発となる。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。課題を提出すること。必要に応じて小テストを実施していく。

■評価方法

定期試験 60%、課題提出及び小テスト 40%

■教科書

介護の基本Ⅱ 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本I(2)			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護を必要とする人の「生活の理解」や「自立支援」についての理解を深め、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした介護観を養う。

■授業の概要

生活者を理解し、自立支援、尊厳の保持について学習し、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践についての自分達の生活に照らして考えていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション:授業の進め方など	なぜ介護が必要になってきたと思いますか、自己の意見をまとめる。
第2回	介護の成り立ち	介護の歴史を振り返り、自立に向けた介護について、まとめる。
第3回	介護の見かた、考え方の変化	介護の見かたや考え方の変化について振り返り、自己の意見をまとめる。
第4回	利用者に合わせた生活支援	共感とは、どのようなことだと思いますか、自己の意見をまとめる。
第5回	自立に向けた支援 介護専門性	介護の専門性についてまとめる。
第6回	介護観とは	自分の介護観についてまとめる。(授業を受けてどのように考えるのか。)
第7回	介護の倫理観	なぜ、介護福祉士の仕事に倫理観が必要かをまとめる。
第8回	身体介護	身体介護とその意義についてまとめる。
第9回	相談援助	相談援助の三つの視点でまとめる。
第10回	よりよい介護を目指すために①	排泄介護の場面から介護を考えてまとめる。
第11回	よりよい介護を目指すために②	自立支援とは何かをまとめる。
第12回	尊厳を支える介護	事例から考える「尊厳」をまとめる。
第13回	ICFの考え方	ICFの視点から事例を分析する。
第14回	リハビリテーションと介護	ICFの視点から事例を分析する。
第15回	前期のまとめ	前期の重要ポイントをまとめる。

■履修上の注意

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発点である。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。課題を提出すること。必要に応じて小テストを実施していく。

■評価方法

定期試験 60%、課題提出及び小テスト 30%、出席 10%

■教科書

介護の基本I 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本I(2)			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護を必要とする人の「生活の理解」や「自立支援」についての理解を深め、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした介護観を養う。

■授業の概要

生活者を理解し、自立支援、尊厳の保持について学習し、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践についての自分達の生活に照らして考えていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション: 授業の進め方等	自分の生活を振り返りまとめる。
第17回	生活とは何か	家族等の生活の違いをまとめる。
第18回	生活の特性	生活の考え方や構成要素から生活の特性をまとめる。
第19回	年齢とともに変化する生活	生活活動と時間の違いをまとめる。
第20回	高齢者 障害者の暮らし①	障害を持って生きることとは何かをまとめる。
第21回	高齢者 障害者の暮らし②	高齢期の人々の暮らしを支える介護とは何かをまとめる。
第22回	「その人らしさ」の理解①	自分と祖父母等の生きてきた時代や文化をまとめる①
第23回	「その人らしさ」の理解②	自分と祖父母等の生きてきた時代や文化をまとめる②
第24回	介護に対する社会の理解	介護に対する社会の理解について、自己の意見をまとめる。
第25回	要介護者と生活環境の関連性	一番落ち着く生活の場とは何かをまとめる。
第26回	人的な生活環境	なじみの関係とは何かをまとめる。
第27回	生活障害の理解と生活ニーズ①	共同生活した場合に尊重してもらいたいことをまとめる。
第28回	生活障害の理解と生活ニーズ②	施設であなたが望むものは何ですか、自己の意見をまとめる。
第29回	生活障害の理解と生活ニーズ③	公費によって提供サービスされるべきものをまとめる。
第30回	後期のまとめ	後期の重要ポイントをまとめる。

■履修上の注意

介護の基本は、介護福祉士の役割を学ぶ出発点である。介護の意義や目的、介護福祉士の専門性を理解できるように授業に参加すること。課題を提出すること。必要に応じて小テストを実施していく。

■評価方法

定期試験 60%、課題提出及び小テスト 30%、出席 10%

■教科書

介護の基本I 中央法規出版

■参考書

印刷資料等

科目名	介護の基本Ⅱ (ICFの理解と介護)		担当教員 (単位認定者)	熊谷 瞳	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護活動の実施について、ケアの根拠を示すことは必須条件となる。ICF(国際生活機能分類)の視点によって根拠を示し、他職種との協働・連携における共通言語の理解を深めるとともに、個別援助計画立案の過程で活用できる事を目指す。

■授業の概要

ICF(国際生活機能分類)の理解は、介護福祉士が介護の専門職として提供するケアの根拠を示す場合に必須の要件となる。ICFの特徴について理解を深め、他職種間の共通言語としての視点を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	授業時に指示
第2回	ICFの基本的特徴	授業時に指示
第3回	生活機能とは	授業時に指示
第4回	活動とは ①	授業時に指示
第5回	活動とは ②	授業時に指示
第6回	参加とは ①	授業時に指示
第7回	参加とは ②	授業時に指示
第8回	心身機能と身体構造 ①	授業時に指示
第9回	心身機能と身体構造 ②	授業時に指示
第10回	背景因子とは	授業時に指示
第11回	環境因子とは ①	授業時に指示
第12回	環境因子とは ②	授業時に指示
第13回	個人因子とは ①	授業時に指示
第14回	個人因子とは ②	授業時に指示
第15回	前期まとめ	授業時に指示

■履修上の注意

- ・ ICFの理解は、介護福祉士の専門性を支える重要な知識である。したがって、予習・復習(課題)を繰り返し行い、授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。
- ・ この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・ 遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・ 出席不足となった場合、定期試験の受験は出来ず未習得となる。出席不足には注意すること。

■評価方法

定期試験80%、出席率を含む授業態度20%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅱ」

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	介護の基本Ⅱ (ICFの理解と介護)		担当教員 (単位認定者)	熊谷 瞳	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護活動の実施について、ケアの根拠を示すことは必須条件となる。ICF(国際生活機能分類)の視点によって根拠を示し、他職種との協働・連携における共通言語の理解を深めるとともに、個別援助計画立案の過程で活用できる事を目指す。

■授業の概要

ICF(国際生活機能分類)の理解は、介護福祉士が介護の専門職として提供するケアの根拠を示す場合に必須の要件となる。ICFの特徴について理解を深め、他職種間の共通言語としての視点を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	生活機能における相対的独立性①	授業時に指示
第17回	生活機能における相対的独立性②	授業時に指示
第18回	背景因子が生活機能に及ぼす影響 ①	授業時に指示
第19回	背景因子が生活機能に及ぼす影響 ②	授業時に指示
第20回	健康状態が生活機能に及ぼす影響 ①	授業時に指示
第21回	健康状態が生活機能に及ぼす影響 ②	授業時に指示
第22回	ICFの視点に立った介護のあり方①	授業時に指示
第23回	ICFの視点に立った介護のあり方②	授業時に指示
第24回	ICFの視点に立ったアセスメント①	授業時に指示
第25回	ICFの視点に立ったアセスメント②	授業時に指示
第26回	活動向上に向けた「よくする介護」の進め方 ①	授業時に指示
第27回	活動向上に向けた「よくする介護」の進め方 ②	授業時に指示
第28回	「目標」の大切さ	授業時に指示
第29回	生活不活発病(廃用症候群)と生活機能低下の悪循環	授業時に指示
第30回	後期まとめ	授業時に指示

■履修上の注意

- ・ ICFの理解は、介護福祉士の専門性を支える重要な知識である。したがって、予習・復習(課題)を繰り返し行い、授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。
- ・ この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・ 遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・ 出席不足となった場合、定期試験の受験は出来ず未習得となる。出席不足には注意すること。

■評価方法

定期試験80%、出席率を含む授業態度20%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅱ」

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	コミュニケーション技術			担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

コミュニケーションの意義や目的を理解し、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。

■授業の概要

演習での授業方法を中心にし、対人援助としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対するコミュニケーションの技法、ならびに介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション【自己紹介・授業説明】	介護とコミュニケーションの関係について理解する。
第2回	対人援助について	対人援助について理解を深める。
第3回	コミュニケーションについて	コミュニケーションについて理解を深める。
第4回	コミュニケーション技法について	どのような技法があるのかについて理解する。
第5回	介護福祉士におけるコミュニケーションの役割	介護福祉士としてのコミュニケーション実践について理解する。
第6回	価値観と受容について	人間の価値観について理解する。
第7回	自己覚知について	自分自身について理解し、援助へつなぐことができるようにする。
第8回	アクティブリスニングについて	「聴く」と「聞く」の違いについて理解する。
第9回	利用者のコミュニケーションについて	利用者がどのようなコミュニケーションを行っているのかについて理解する。
第10回	質問技法について	質問場面でどのように実践しているのかについて理解する。
第11回	共感的理解について	介護場面における共感とはどのようなことなのかについて理解する。
第12回	会話の分析	会話を振り返り、実践に活かすことができるようにする。
第13回	事例検討①	事前に事例を読み、理解を深める。
第14回	報告・連絡・相談	報告・連絡・相談について考える。
第15回	プロセスレコード	実際の場面を思い起こし、分析できる視点を持つておく。

■履修上の注意

講義中に演習等を行うため、遅刻や欠席をしないように注意すること。
また、毎回小テストを実施するため、予習・復習を徹底すること。

■評価方法

試験60%、出席状況・受講態度20%、小テスト20%

■教科書

「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」中央法規

■参考書

黒澤貞夫、小熊順子「コミュニケーション技術」建帛社

科目名	コミュニケーション技術			担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

コミュニケーションの意義や目的を理解し、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。

■授業の概要

演習での授業方法を中心にし、対人援助としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対するコミュニケーションの技法、ならびに介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	介護場面におけるコミュニケーション	利用者や家族とのコミュニケーションについて理解する。
第17回	プレゼンテーション①	言語化できるように準備する。
第18回	プレゼンテーション②	言語化できるように準備する。
第19回	利用者の特性に応じたコミュニケーション<コミュニケーション障害>	コミュニケーション障害について理解する。
第20回	利用者の特性に応じたコミュニケーション<高次脳機能障害、失語症>	高次脳機能障害、失語症について理解する。
第21回	利用者の特性に応じたコミュニケーション<視覚障害者、聴覚障害者、精神障害者>	視覚障害者、聴覚障害者、精神障害者について理解する。
第22回	利用者の特性に応じたコミュニケーション<知的障害者、認知症高齢者>	知的障害者、認知症高齢者について理解する。
第23回	事例検討①	事前に事例を読み理解を深める。
第24回	事例検討②	事前に事例を読み理解を深める。
第25回	事例検討③	事前に事例を読み理解を深める。
第26回	コミュニケーション障害の実際	DVDを通してコミュニケーションのあり方について理解を深める。
第27回	記録の実際①	介護福祉士における記録のあり方について理解する。
第28回	記録の実際②	記録の技法について理解する。
第29回	記録の実際③	記録の技法について理解する。
第30回	まとめ	コミュニケーション技法について総復習を行う。

■履修上の注意

講義中に演習等を行うため、遅刻や欠席をしないように注意すること。
また、毎回小テストを実施するため、予習・復習を徹底すること。

■評価方法

試験60%、出席状況・受講態度20%、小テスト20%

■教科書

「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」中央法規

■参考書

黒澤貞夫、小熊順子「コミュニケーション技術」建帛社

科目名	生活支援技術I (介護技術演習)		担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士として習得しなければならない援助技術を提供していく上での基本的な知識や技術に関する事柄を学ぶ。実践的に活用できる能力や、利用者の個性に対応できるための能力を習得する。

■授業の概要

日常生活をする上で、「移動」、「食事」、「排泄」、「入浴」という行為は、生活そのものである。介護を必要としている人は「安全で、安楽な、その人なりの方法」生活をしたいと考えており、自立支援に向けた生活を重視し、個性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための基礎となる知識と技術を習得していくことを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション・ガイダンス	予習
第2回	ベッドメイキングの意義と目的	資料
第3回	環境づくりとベッドメイキング	資料
第4回	アセスメントとは何か	テキストP7～P14
第5回	高齢者の疑似体験	体験学習
第6回	生活支援と福祉用具の活用	テキストP50～P65
第7回	福祉用具の展示場見学	見学学習
第8回	移動の意義と目的	テキストP88～P96
第9回	安全な「歩行」を支える介護・杖歩行	テキストP164～P177
第10回	移動・移乗における介護技術	テキストP97～P182
第11回	車椅子での移乗・移動介護	テキストP140～P163
第12回	感覚機能低下に配慮した移動技術	テキストP140～P163
第13回	安楽な「体位」保持と介護	テキストP133～P140
第14回	体位交換の介護	テキストP102～P132
第15回	入浴介護・機械浴・一般浴	テキストP215～P235

■履修上の注意

誠意ある態度で受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業終了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

教科書は、中央法規 「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術I・II」 2009年

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術I (介護技術演習)		担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士として習得しなければならない援助技術を提供していく上での基本的な知識や技術に関する事柄を学ぶ。実践的に活用できる能力や、利用者の個性に対応できるための能力を習得する。

■授業の概要

日常生活をする上で、「移動」、「食事」、「排泄」、「入浴」という行為は、生活そのものである。介護を必要としている人は「安全で、安楽な、その人なりの方法」生活をしたいと考えており、自立支援に向けた生活を重視し、個性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための基礎となる知識と技術を習得していくことを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	清潔の意義と目的・清拭の介護	テキストP 240 ～P 253
第17回	洗髪・部分浴の介護	テキストP 235 ～P 239
第18回	自立に向けた食事介護の意義と目的	テキストP 184 ～P 206
第19回	食事の基本的な知識・誤嚥の予防と対応	テキストP 184 ～P 206
第20回	認知症・視覚に障害を持つ利用者の食事介護	テキストP 184 ～P 206
第21回	排泄の意義と目的・排泄のメカニズム	テキストP 262 ～P 274
第22回	トイレの介護	テキストP 274 ～P 311
第23回	ポータブルトイレの介護	テキストP 274 ～P 311
第24回	オムツの当て方	テキストP 274 ～P 311
第25回	利用者の状態に応じた介護方法	テキストP 274 ～P 317
第26回	睡眠の意義と目的	テキストP 320 ～P 337
第27回	安楽の睡眠体位	テキストP 133 ～P 140
第28回	介護技術総合演習	復習
第29回	介護技術総合演習	復習
第30回	まとめ	まとめ

■履修上の注意

誠意ある態度で受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業終了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

教科書は、中央法規 「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術I・II」 2009年

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術Ⅱ (介護技術演習)		担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士として基本的な知識や技術に関する事柄を学ぶ。実践的に活用できる能力や、利用者の個性に対応できるための能力を習得する。

■授業の概要

日常生活を営む上で、「移動」、「食事」、「排泄」、「入浴」という行為は、生活そのものである。介護を必要としている人は「安全で、安心な、その人なりの方法」生活をしたいと考えており、自立支援に向けた生活を重視し、個性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための基礎となる知識や技術を習得することを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	高齢者の生活史を学び、理解する	レポート
第2回	ベッドメイキング	資料
第3回	ベッドメイキング	資料
第4回	アセスメントについての演習	テキストP7～P14
第5回	身じたくの介護・衣服着脱(全・部分介助)	テキストP16～P61
第6回	身じたくの介護・整容	テキストP16～P37
第7回	身じたくの介護・口腔ケア	テキストP38～P61
第8回	移動の介護・安全な杖歩行(視覚障害者)	テキストP164～P177
第9回	安全な車イスの介助方法を理解する①	テキストP140～P163
第10回	車イスの介助方法②	テキストP140～P163
第11回	車イスの介助方法③	テキストP140～P163
第12回	ベッド上での移動介助①	テキストP97～P132
第13回	ベッド上での移動介助②	テキストP97～P132
第14回	体位交換の介護	テキストP133～P140
第15回	入浴介護・機械浴・一般浴	テキストP215～P235

■履修上の注意

誠意ある態度で受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業終了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

中央法規「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 2009年

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術Ⅱ (介護技術演習)			担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士として基本的な知識や技術に関する事柄を学ぶ。実践的に活用できる能力や、利用者の個性に対応できるための能力を習得する。

■授業の概要

日常生活を営む上で、「移動」、「食事」、「排泄」、「入浴」という行為は、生活そのものである。介護を必要としている人は「安全で、安心な、その人なりの方法」生活をしたいと考えており、自立支援に向けた生活を重視し、個性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための基礎となる知識や技術を習得することを目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	高齢者の生活史を学び、理解する	清潔保持の介護・清拭
第17回	ベッドメイキング	洗髪・部分浴の介護
第18回	ベッドメイキング	自立に向けた食事介護・座位姿勢での介助
第19回	アセスメントについての演習	食事介護・臥床での食事介助
第20回	身じたくの介護・衣服着脱(全・部分介助)	食事介護・視覚に障害を持つ利用者への介助
第21回	身じたくの介護・整容	排泄介護・トイレ誘導の介助
第22回	身じたくの介護・口腔ケア	排泄介護・車イスでの介助
第23回	移動の介護・安全な杖歩行(視覚障害者)	排泄介護・オムツの当て方
第24回	安全な車イスの介助方法を理解する①	排泄介護・紙オムツの当て方
第25回	車イスの介助方法②	利用者の状態に応じた介護方法
第26回	車イスの介助方法③	睡眠介護
第27回	ベッド上での移動介助①	安楽の姿勢
第28回	ベッド上での移動介助②	介護技術総合演習
第29回	体位交換の介護	介護技術総合演習
第30回	入浴介護・機械浴・一般浴	まとめ

■履修上の注意

誠意ある態度で受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業終了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

中央法規「新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 2009年

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術Ⅳ (被服住居)		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士として生活支援を行うために必要な、生活全般に関する知識・技術を学際的に学ぶ。

■授業の概要

利用者の生活支援を行うためには家庭生活や日常生活そのものの本質を知り、生活に必要な用材とその基本的構造・それに伴う様々な機能を知ることが大切である。本講ではこの点をふまえ、「生活を科学する」ことをモットーとし、生活経営・衣生活・住生活についての講義と実習を行う。さらに、生活を「文化」の側面からとらえ、衣食住における日本独自の「文化」についても言及する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス 「生活を科学する」とは 「生活科学チェックテスト」	身近な生活の事象について疑問を持つ。
第2回	「生活科学チェックテスト」の解説をとおした「生活支援技術」についての理解	生活の中の科学について考える。
第3回	生活の経営 家族・家庭生活・生活設計 生活時間・ライフコース	人の一生について深く考える。
第4回	生活の経営 ライフコースの作成① 〈実習〉	人生の先輩にライフステージ・ライフイベントについて聴く。
第5回	生活の経営 ライフコースの作成② 〈実習〉	人生の先輩にライフステージ・ライフイベントについて聴く。
第6回	被服生活 被服の役割と機能	利用者の衣生活を考える。
第7回	被服生活 縫製の基礎① 〈実習〉	裁縫の基礎技能・用具に関する知識を身につける。
第8回	被服生活 縫製の基礎② 〈実習〉	裁縫の基礎技能・用具に関する知識を身につける。
第9回	被服生活 被服素材と品質表示	身近及び施設内の被服素材について観察する。
第10回	被服生活 被服素材の観察(紙オムツなど)〈実習〉	紙オムツを構造・素材の面から理解し、実践に役立てる。
第11回	被服生活 「装う」ことを通じての生活支援の技法	ファッションを支援に活かす方法を理解する。
第12回	被服生活 被服の管理(手入れ)〈洗浄理論〉 被服のサイズ	汚れ落としのメカニズムを科学的に理解し、生活に応用する。
第13回	被服生活 洗濯 〈実習〉	正しい洗濯の方法・干し方を理解する。
第14回	被服生活 アイロンかけ 被服の収納方法 〈実習〉	アイロンかけの科学・収納の工学を理解する。
第15回	被服生活 しみ抜き・漂白 〈実習〉	漂白剤の科学・しみ抜きの原理を理解する。

■履修上の注意

講義は各自メモを取りながら聴き、学んだ項目について教科書を読み復習すること。
実習はグループ学習の形態をとり、班ごとに課題が終了した時点で試問を行う(試問に通らなければ実習は終了しない)ので、メンバーと協力して真剣に取り組むこと。
期限を過ぎて提出されたレポート・作品等は一切評価の対象とはならない。

■評価方法

授業への参加態度(60%)、提出物(20%)、小テスト(20%)を総合して評価するが、出席を第一義とする。

■教科書

中川英子編『福祉のための家政学』(建帛社)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術Ⅳ (被服住居)		担当教員 (単位認定者)	山岸 裕美子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士として生活支援を行うために必要な、生活全般に関する知識・技術を学際的に学ぶ。

■授業の概要

利用者の生活支援を行うためには家庭生活や日常生活そのものの本質を知り、生活に必要な用材とその基本的構造・それに伴う様々な機能を知ることが大切である。本講ではこの点をふまえ、「生活を科学する」ことをモットーとし、生活経営・衣生活・住生活についての講義と実習を行う。さらに、生活を「文化」の側面からとらえ、衣食住における日本独自の「文化」についても言及する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	生活経営 高齢者の生活史 〈実習〉	身近な高齢者に対するインタビューするための方法・内容を考える。
第17回	生活経営 高齢者の生活史 〈実習〉	インタビューを通して知った高齢者の内実について理解する。
第18回	生活経営 高齢者の生活史 〈実習〉	インタビューを通して知った高齢者の内実について理解する。
第19回	生活の経営 介護現場のビジネスマナー 〈実習〉	丁寧語・尊敬語・謙譲語がいつでも正しく使えるよう練習する。
第20回	生活の経営 居室における買い物 〈実習〉	食料品・生活用品の価格を正しく知り、生活に役立てる。
第21回	住生活 快適な室内環境（光・温度・音・換気など）	住生活を快適にするための知識を身につける。
第22回	住生活 快適な室内環境① 〈実習〉	快適な室内環境を整えるための知識を活用する。
第23回	住生活 快適な室内環境② 〈実習〉	快適な室内環境を整えるための知識を活用する。
第24回	住生活 快適な室内環境③ 〈実習〉	快適な室内環境を整えるための知識を活用する。
第25回	住生活 住まいの維持と管理 〈実習〉	清掃の方法・手順・使用する道具等について考える。
第26回	住生活 防犯と防災	居室の高齢者が被害に遭わないための手立てを考える。
第27回	日本の生活文化 衣食住に関する日本の文様・色彩	ひとつひとつに意味を持つ日本の文様について理解し、生活に活用する。
第28回	“介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト”作成 〈実習〉	利用者の日常生活に工夫を凝らしながら支援する方途を考える。
第29回	“介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト”作成 〈実習〉	利用者の日常生活に工夫を凝らしながら支援する方途を考える。
第30回	“介護を必要とする人の生活を豊かにするためのプロジェクト”作成 〈実習〉	利用者の日常生活に工夫を凝らしながら支援する方途を考える。

■履修上の注意

講義は各自メモを取りながら聴き、学んだ項目について教科書を読み復習すること。
実習はグループ学習の形態をとるので、メンバーと協力して真剣に取り組むこと。
期限を過ぎて提出されたレポート・作品等は一切評価の対象とはならない。

■評価方法

授業への参加態度(60%)、提出物(20%)、小テスト(20%)を総合して評価するが、出席を第一義とする。

■教科書

中川英子編『福祉のための家政学』（建帛社）

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術V (総合)		担当教員 (単位認定者)	小林 康子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

生活、生活形成のプロセス、生活経営、マネジメント、生活支援の考え方を学ぶ。

■授業の概要

この授業では、介護福祉士が利用者及びその家族等への生活を支援するために修得しておかなければならない、個々人の尊厳を保持し、その人らしい生活とは何かを学ぶ。「起きる」、「食事をとる」、「身じたくを整える」、「入浴」、「睡眠」などの一連の活動の中身を細かく見ていくと、一つひとつの活動が、その人らしい「生活」を形作っていることが理解できる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション・ガイダンス	予習
第2回	生活支援とは何か・ICFの活用	テキストP1～P12
第3回	生活の定義・全体像・施設での生活	テキストP1～P12
第4回	生活支援の基本的な考え方	テキストP13～P25
第5回	生活支援とリハビリテーション	テキストP26～P39
第6回	生活支援と介護予防	テキストP40～P49
第7回	生活支援と福祉用具の活用	テキストP50～P65
第8回	自立に向けた身じたくの介護・意義と目的	テキストP68～P120
第9回	自立に向けた身じたくの介護・整容	テキストP16～P83
第10回	自立に向けた身じたくの介護・口腔ケア	テキストP16～P83
第11回	介護技術・移動介助	テキストP88～P183
第12回	介護技術・排泄介助	テキストP262～P311
第13回	介護技術・食事介助	テキストP184～P210
第14回	介護技術・総合	復習
第15回	まとめ	まとめ

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業修了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

「新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術I・II」2009年 中央法規出版社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	生活支援技術V (総合)		担当教員 (単位認定者)	小林 康子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

生活、生活形成のプロセス、生活経営、マネジメント、生活支援の考え方を学ぶ。

■授業の概要

この授業では、介護福祉士が利用者及びその家族等への生活を支援するために修得しておかなければならない、個々人の尊厳を保持し、その人らしい生活とは何かを学ぶ。「起きる」、「食事をとる」、「身じたくを整える」、「入浴」、「睡眠」などの一連の活動の中身を細かく見ていくと、一つひとつの活動が、その人らしい「生活」を形作っていることが理解できる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	居住環境の整備・意義と目的	テキストP 68～P 83
第17回	視覚障害を持っている人への介助方法	ビデオ参照
第18回	バリアフリーの体験	テキストP 84～P 120
第19回	安心して快適な生活の場づくり	テキストP 84～P 120
第20回	家庭生活にかかわる基本知識	テキストP 122～P 199
第21回	家庭生活の理解	テキストP 122～P 199
第22回	家庭生活の営み	テキストP 122～P 199
第23回	家事の介護・意義と目的	テキストP 202～P 209
第24回	家事支援における介護技術	テキストP 210～P 224
第25回	家の清掃・利用者の心理を考える	テキストP 225～P 255
第26回	他職種の役割と協働	テキストP 256～P 261
第27回	施設・在宅での他職種の役割と協働	テキストP 256～P 261
第28回	緊急時対応の知識と技術	テキストP 264～P 276
第29回	応急処置・緊急時対応の実際	テキストP 264～P 276
第30回	まとめ	まとめ

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。ジャージを必ず着用すること。物品の整理整頓をすること。授業修了後、豆テストを実施する。

■評価方法

筆記試験・実技試験またはレポート(70%)、授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

■教科書

「新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」2009年 中央法規出版社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護過程の展開I(1)			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久 熊谷 瞳	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

他の科目で身につけた知識や技術を統合し、介護過程が展開できる。介護過程の展開におけるプロセスを理解し、適切なサービスの提供ができる能力を養う。また、介護過程の展開をケアに活かすことの意味を理解できる。

■授業の概要

全てのケアの方法や手順には意味と理由があり、ケアの実施についてはその根拠を説明できなくてはならない。個別のニーズを的確に把握し、計画的に介護が実践できるように知識と技術を統合する。さらに、利用者の能力に合わせて応用させ、達成すべき課題に向けて支援する能力を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	授業時に指示
第2回	「介護過程」の意義・目的 ①	授業時に指示
第3回	「介護過程」の意義・目的 ②	授業時に指示
第4回	個人の全体像を捉える ①	授業時に指示
第5回	個人の全体像を捉える ②	授業時に指示
第6回	ICFの理解	授業時に指示
第7回	展開の基本視点 ①	授業時に指示
第8回	展開の基本視点 ②	授業時に指示
第9回	情報とは	授業時に指示
第10回	情報収集(アセスメントツール)	授業時に指示
第11回	情報の解釈とは ①	授業時に指示
第12回	情報の解釈とは ②	授業時に指示
第13回	情報の統合とは ①	授業時に指示
第14回	情報の統合とは ②	授業時に指示
第15回	前期まとめ	授業時に指示

■履修上の注意

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習(課題)を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問し解決すること。
- ・この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不足となった場合、定期試験の受験は出来ず未習得となる。出席不足には注意すること。

■評価方法

定期試験70%、提出物と出席率を含む授業態度30%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	介護過程の展開I(1)			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久 熊谷 瞳	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

他の科目で身につけた知識や技術を統合し、介護過程が展開できる。介護過程の展開におけるプロセスを理解し、適切なサービスの提供ができる能力を養う。また、介護過程の展開をケアに活かすことの意味を理解できる。

■授業の概要

全てのケアの方法や手順には意味と理由があり、ケアの実施についてはその根拠を説明できなくてはならない。個別のニーズを的確に把握し、計画的に介護が実践できるように知識と技術を統合する。さらに、利用者の能力に合わせて応用させ、達成すべき課題に向けて支援する能力を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	実習後の振り返り ①	授業時に指示
第17回	実習後の振り返り ②	授業時に指示
第18回	課題とは ①	授業時に指示
第19回	課題とは ②	授業時に指示
第20回	目標とは(短期目標と長期目標)①	授業時に指示
第21回	目標とは(短期目標と長期目標)②	授業時に指示
第22回	具体的な支援内容とは ①	授業時に指示
第23回	具体的な支援内容とは ②	授業時に指示
第24回	実施とは	授業時に指示
第25回	評価とは ①	授業時に指示
第26回	評価とは ②	授業時に指示
第27回	モニタリングとは ①	授業時に指示
第28回	モニタリングとは ②	授業時に指示
第29回	再アセスメントと計画修正	授業時に指示
第30回	後期まとめ	授業時に指示

■履修上の注意

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習(課題)を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問し解決すること。
- ・この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不足となった場合、定期試験の受験は出来ず未習得となる。出席不足には注意すること。

■評価方法

定期試験70%、提出物と出席率を含む授業態度30%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	介護過程の展開Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久 熊谷 瞳	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1年次の学びと実習をふまえて、介護専門職として実践的なスキルを身につける。介護過程での学びは、実習との相互性を活かし実施されることで、利用者支援と他職種連携の核となる実践的思考が理解できる。介護過程の展開を学ぶにあたって、他職種連携を意識し、介護福祉士の役割を自覚することができる。

■授業の概要

現場では、他職種との連携が求められる。その中で、より専門性の高い介護を提供するために、介護過程を展開する場合の思考プロセスやスキルが重要である。また、事例検討や模擬カンファレンスを実施、介護実習との相互性を生かし、実践的思考とスキルの習得を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	授業時に指示
第2回	1年次の振り返り	授業時に指示
第3回	ICFの視点に立ったアセスメント	授業時に指示
第4回	情報収集(全体像を捉える)	授業時に指示
第5回	情報の解釈と統合(アセスメント)	授業時に指示
第6回	計画の立案	授業時に指示
第7回	評価・モニタリング	授業時に指示
第8回	実習前の総括	授業時に指示
第9回	実習の振り返り①(アセスメントを振り返る)	授業時に指示
第10回	実習の振り返り②(アセスメントを振り返る)	授業時に指示
第11回	実習の振り返り③(介護過程の展開を振り返る)	授業時に指示
第12回	実習の振り返り④(介護過程の展開を振り返る)	授業時に指示
第13回	実習の振り返り⑤(評価・モニタリング)	授業時に指示
第14回	実習の振り返り⑥(評価・モニタリング)	授業時に指示
第15回	前期まとめ	授業時に指示

■履修上の注意

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習(課題)を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問し解決すること。
- ・この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不足となった場合、定期試験の受験は出来ず未習得となる。出席不足には注意すること。

■評価方法

定期試験60%、提出物30%、出席率を含む授業態度10%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	介護過程の展開Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久 熊谷 瞳	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1年次の学びと実習をふまえて、介護専門職として実践的なスキルを身につける。介護過程での学びは、実習との相互性を活かし実施されることで、利用者支援と他職種連携の核となる実践的思考が理解できる。介護過程の展開を学ぶにあたって、他職種連携を意識し、介護福祉士の役割を自覚することができる。

■授業の概要

現場では、他職種との連携が求められる。その中で、より専門性の高い介護を提供するために、介護過程を展開する場合の思考プロセスやスキルが重要である。また、事例検討や模擬カンファレンスを実施、介護実習との相互性を生かし、実践的思考とスキルの習得を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	アセスメントツールの活用 ①	授業時に指示
第17回	アセスメントツールの活用 ②	授業時に指示
第18回	アセスメントツールを活用した介護過程の展開 ①	授業時に指示
第19回	アセスメントツールを活用した介護過程の展開 ②	授業時に指示
第20回	介護計画の立案と実施	授業時に指示
第21回	介護計画の評価とモニタリング	授業時に指示
第22回	本人を中心とした生活を継続するための介護過程の展開	授業時に指示
第23回	事例検討①(施設)	授業時に指示
第24回	事例検討②(施設)	授業時に指示
第25回	事例検討③(在宅)	授業時に指示
第26回	事例検討④(在宅)	授業時に指示
第27回	事例検討⑤(地域)	授業時に指示
第28回	事例検討⑥(地域)	授業時に指示
第29回	他職種連携(介護福祉士の専門性)	授業時に指示
第30回	後期まとめ	授業時に指示

■履修上の注意

- ・介護過程の展開は、介護福祉士の専門性と他職種連携を支える重要な思考プロセスやスキルである。したがって、予習・復習(課題)を繰り返す。授業内容が理解できるように積極的に授業に参加すること。分からない場合は、質問し解決すること。
- ・この授業は、利用者支援と直接結びつく内容であるため、真剣に誠実な態度で受講すること。
- ・遅刻、欠席、早退の場合は、理由を申し出ること。遅刻者は、授業の妨げにならないように、静かに着席すること。
- ・出席不足となった場合、定期試験の受験は出来ず未習得となる。出席不足には注意すること。

■評価方法

定期試験60%、提出物30%、出席率を含む授業態度10%

■教科書

新・介護福祉士養成講座 「介護過程の展開」 中央法規

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	介護総合演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・期待される学習効果・介護福祉士の活動の場である介護施設の理解、そこを利用する要介護者の理解、介護の実践の場の理解を目指す。

■授業の概要

・それまでのイメージの外を出ない「介護施設」について、実際にその場に赴いての学びとなる介護実習である。介護総合演習は、学生が実習に赴くまでの環境を調整すること、必要な知識を習得することなどを目的とする科目である。開講される1コマ1コマが重要な意味を持つ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	授業科目オリエンテーション	教科書p2～
第2回	介護実習とは何か	教科書p14～
第3回	介護活動の場と介護の特性	教科書p35～
第4回	施設の理解① 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	教科書p82～
第5回	施設の理解② 介護老人保健施設	教科書p88～
第6回	施設の理解③ 身体障害者支援施設(身体障害者療護施設)、重症心身障害児施設	教科書p111～
第7回	施設の理解④ 小規模多機能施設、ケアハウス、グループホーム	教科書p95～
第8回	施設の理解⑤ 訪問介護サービス	教科書p72～
第9回	施設の理解⑥ デイサービス	教科書p78～
第10回	介護実習Ⅰのねらい	教科書p122～、手引き
第11回	実習記録について①	手引き “実習記録”
第12回	実習記録について②	手引き “実習記録”
第13回	実習記録について③	手引き “実習記録”
第14回	個人票の記入方法・介護実習施設の希望調査	手引き “実習記録”
第15回	介護実習Ⅰ壮行会～実習目標の発表、実習への決意～	実習目標の再確認、教科書p127～

■履修上の注意

・介護総合演習は介護実習と対となる科目である。よって、介護総合演習の単位取得の修了とで双方の単位取得となる。
・欠席5回で実験資格を与えない。遅刻は3回で1回の欠席として扱う。

■評価方法

・出席30%、授業態度20%、提出物50% これらを総合的に評価し単位認定する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規
介護実習の手引き

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護総合演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・期待される学習効果・介護福祉士の活動の場である介護施設の理解、そこを利用する要介護者の理解、介護の実践の場の理解を目指す。

■授業の概要

・それまでのイメージの外を出ない「介護施設」について、実際にその場に赴いての学びとなる介護実習である。介護総合演習は、学生が実習に赴くまでの環境を調整すること、必要な知識を習得することなどを目的とする科目である。開講される1コマ1コマが重要な意味を持つ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	介護実習Ⅰの総括と報告	教科書p148～
第17回	実習モデル①～利用者の状態観察～	教科書p152
第18回	実習モデル②～利用者の生活の不自由さを理解する～	教科書p152～
第19回	実習モデル③～安全性と快適さに配慮した介護サービス～	教科書p153
第20回	実習モデル④～対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる～	教科書p154
第21回	食事の場面における支援技術の展開	教科書p157～
第22回	整容の場面における支援技術の展開	教科書p158～
第23回	入浴の場面における支援技術の展開	教科書p159～
第24回	排泄場面における支援技術の展開	教科書p160～
第25回	認知症への支援技術の展開	教科書p161～
第26回	介護実習Ⅱ施設希望調査	手引き“実習記録”一覧”
第27回	介護実習Ⅱのねらい	教科書p180～
第28回	個人票・実習計画書の作成	教科書p183～
第29回	実習記録等についての再確認	手引き“実習記録”
第30回	介護総合演習Ⅰのまとめ	教科書p203～

■履修上の注意

・介護総合演習は介護実習と対となる科目である。よって、介護総合演習の単位取得の修了とで双方の単位取得となる。
・欠席5回で実験資格を与えない。遅刻は3回で1回の欠席として扱う。

■評価方法

・出席30%、授業態度20%、提出物50% これらを総合的に評価し単位認定する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規
介護実習の手引き

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護総合演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・介護実習施設の役割と機能、施設利用者とその家族の生活ニーズを理解できる。利用者、家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確に出来る。

■授業の概要

・介護実習Ⅰにおいて明確化した課題改善にむけ、校内学習との統合を図りながら、介護福祉士に必要な知識・技術の向上をめざした授業展開をする。介護実習Ⅰの事後指導、次段階の実習事前指導、多職種協働・連携、緊急時の対応等を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	介護実習Ⅰの総括と報告	配布資料参照
第2回	介護実習Ⅰ報告会	配布資料参照し、発表の準備をする
第3回	介護実習Ⅰ事後指導～介護実習記録の再検討～	手引き“実習記録”
第4回	介護実習Ⅰ事後指導～困難事例の検討～	教科書p163～
第5回	介護実習Ⅱ・Ⅲ事前指導～障害の種類と利用者の生活像～	教科書p192～
第6回	介護実習Ⅱ・Ⅲ事前指導～利用者の個性～	教科書p193～
第7回	介護実習Ⅱ・Ⅲ事前指導～介護過程の展開：情報収集の目的と活用～	教科書p183～
第8回	介護実習Ⅱ・Ⅲ事前指導～介護過程の展開：情報のアセスメント～	教科書p183～
第9回	介護実習Ⅱ・Ⅲ事前指導～介護過程の展開：介護計画の立案①～	教科書p180～
第10回	介護実習Ⅱ・Ⅲ事前指導～介護過程の展開：介護計画の立案②～	教科書p182～
第11回	介護実習Ⅱ事前指導～個人票、介護実習計画書の作成～	教科書p182～
第12回	介護実習Ⅱ事前指導～実習関連記録の作成・確認～	手引き“実習記録”
第13回	多職種協働・連携～チームケア～	レジメ①参照
第14回	共感的、受容的に接する技術～バイステックの法則、プロセスレコード～	レジメ②参照
第15回	緊急時の対応～緊急時の対応に求められること～	レジメ③参照

■履修上の注意

・介護総合演習は介護実習と対となる科目である。よって、介護総合演習の単位取得の修了とで双方の単位取得となる。
・欠席5回で実験資格を与えない。遅刻は3回で1回の欠席として扱う。

■評価方法

・出席30%、授業態度20%、提出物50% これらを総合的に評価し単位認定する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規
新・介護福祉士養成講座「介護過程の展開」中央法規

■参考書

介護実習の手引き、印刷資料等

科目名	介護総合演習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

・介護実習施設の役割と機能、施設利用者とその家族の生活ニーズを理解できる。利用者、家族のニーズに対する介護福祉士の役割と自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解できる。授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確に出来る。

■授業の概要

・介護実習Ⅰにおいて明確化した課題改善にむけ、校内学習との統合を図りながら、介護福祉士に必要な知識・技術の向上をめざした授業展開をする。介護実習Ⅰの事後指導、次段階の実習事前指導、多職種協働・連携、緊急時の対応等を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	介護実習Ⅱ壮行会～実習目標の発表、実習への決意～	実習目標の再確認、教科書p181～
第17回	介護実習Ⅱの総括と報告	教科書p200～
第18回	介護実習Ⅱ報告会介護実習	教科書p200～
第19回	介護実習Ⅲ事前指導～個人票、介護実習計画書の作成～	教科書p182～
第20回	介護実習Ⅲ事前指導～実習関連記録の作成・確認～	手引き“実習記録”
第21回	介護実習Ⅲ壮行会～実習目標の発表、実習への決意～	実習目標の再確認、教科書p181～
第22回	介護実習Ⅲの総括と報告	教科書p203～
第23回	事例研究発表会について～事例のまとめ方～	レジメ参照
第24回	事例研究発表準備①	個別学習・個別指導
第25回	事例研究発表準備②	個別学習・個別指導
第26回	事例研究発表準備③	個別学習・個別指導
第27回	事例研究発表準備④	個別学習・個別指導
第28回	事例研究発表準備⑤	個別学習・個別指導
第29回	事例研究発表会	個別学習・個別指導
第30回	事例研究発表会・介護実習の振り返り	個別学習・個別指導

■履修上の注意

・介護総合演習は介護実習と対となる科目である。よって、介護総合演習の単位取得の修了とで双方の単位取得となる。
・欠席5回で実験資格を与えない。遅刻は3回で1回の欠席として扱う。

■評価方法

・出席30%、授業態度20%、提出物50% これらを総合的に評価し単位認定する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規
新・介護福祉士養成講座「介護過程の展開」中央法規

■参考書

介護実習の手引き、印刷資料等

科目名	認知症の理解と介護		担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①認知症の医学的理解
- ②認知症における行動・心理症状の理解
- ③認知症の症状に悩む「人」と「生活」の理解

■授業の概要

認知症の中核症状とそこから派生する認知症高齢者の行動・心理症状(BPSD)の機序を理解し、認知症の症状に悩む本人及び介護者(家族等)に提供するケアの具体策を体系的に学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	認知症の人の体験の理解①認知症の介護について	授業時に指示
第2回	認知症の人の体験の理解②本人本位の介護	授業時に指示
第3回	認知症の人の体験の理解③認知症の人の体験	授業時に指示
第4回	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史と現状① 認知症ケアの歴史	授業時に指示
第5回	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史と現状② 認知症ケアの理念と視点	授業時に指示
第6回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解① 認知症とは?(1)	授業時に指示
第7回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解② 認知症とは?(2)	授業時に指示
第8回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解③ 認知症の診断	授業時に指示
第9回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解④ 認知症の原因疾患と治療(1)	授業時に指示
第10回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解⑤ 認知症の原因疾患と治療(2)	授業時に指示
第11回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解⑥ 認知症の予防	授業時に指示
第12回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解⑦ 認知症の人の行動・心理症状(1)	授業時に指示
第13回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解⑧ 認知症の人の行動・心理症状(2)	授業時に指示
第14回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解⑨ 認知症の人の行動・心理症状(3)	授業時に指示
第15回	認知症の人の医学面・行動面・心理面の理解⑩ 認知症の人の心理的理解	授業時に指示

■履修上の注意

「認知症の理解と介護」は難解な専門用語、医学、心理学、行動学からのアプローチが中心となる広い範囲を持つ学びである。介護福祉士の専門性を支える根幹の1つであるので、授業には知的好奇心をもって臨むこと。また、毎回小テストを実施する。

■評価方法

定期試験60%、出欠20%、小テスト20%の結果により評定を行なう。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会 『認知症の理解』 中央法規出版

■参考書

介護スタッフ・介護学生のための「なぜ?どうして?⑤ 認知症と介護」メディックメディア

科目名	認知症の理解と介護		担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①認知症の医学的理解
- ②認知症における行動・心理症状の理解
- ③認知症の症状に悩む「人」と「生活」の理解

■授業の概要

認知症の中核症状とそこから派生する認知症高齢者の行動・心理症状(BPSD)の機序を理解し、認知症の症状に悩む本人及び介護者(家族等)に提供するケアの具体策を体系的に学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	認知症の人の生活理解①認知機能の変化が生活に及ぼす影響	授業時に指示
第17回	認知症の人の生活理解②認知症の症状と環境の関係	授業時に指示
第18回	認知症の人の生活理解③認知症の人の生活課題	授業時に指示
第19回	認知症の人の介護①ケア(かかわり)の基本	授業時に指示
第20回	認知症の人の介護②認知症という病気への気付き	授業時に指示
第21回	認知症の人の介護③認知症の進行に応じた介護	授業時に指示
第22回	認知症の人の介護④人を支えるということ	授業時に指示
第23回	地域で支える認知症ケア 連携と協働① 地域におけるサポート体制	授業時に指示
第24回	地域で支える認知症ケア 連携と協働② チームアプローチ	授業時に指示
第25回	家族による認知症介護①家族介護の現状と課題	授業時に指示
第26回	家族による認知症介護②レスパイトケア	授業時に指示
第27回	家族による認知症介護③エンパワメント	授業時に指示
第28回	家族による認知症介護④家族会と介護教室	授業時に指示
第29回	認知症に関する制度①認知症対策と介護保険制度	授業時に指示
第30回	認知症に関する制度②その他の施策	授業時に指示

■履修上の注意

「認知症の理解と介護」は難解な専門用語、医学、心理学、行動学からのアプローチが中心となる広い範囲を持つ学びである。介護福祉士の専門性を支える根幹の1つであるので、授業には知的好奇心をもって臨むこと。また、毎回小テストを実施する。

■評価方法

定期試験60%、出欠20%、小テスト20%の結果により評定を行なう。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会 『認知症の理解』 中央法規出版

■参考書

介護スタッフ・介護学生のための「なぜ?どうして?⑤ 認知症と介護」メディックメディア

科目名	障害の理解と介護			担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得することで、他者に共感し介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる力を身につける。

■授業の概要

障害についての医学的側面の理解を進め、障害の基礎的理解を促す。また、連携と協働について、多職種協働やチームアプローチの必要性を体験的に学習し、チームに参画する意義を体験する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業の概要について理解しておく
第2回	障害の概念 ICIDHとICF	ICIDHとICFについて予習・復習する
第3回	障害者福祉の基本理念【ノーマライゼーション】	ノーマライゼーションについて予習・復習する
第4回	障害者福祉の基本理念【リハビリテーション】	リハビリテーションについて予習・復習する
第5回	障害者福祉の基本理念	インクルージョン・エンパワメントについて予習・復習する
第6回	障害のある人の生活の理解【視覚障害者①】	視覚障害者について予習・復習する
第7回	障害のある人の生活の理解【視覚障害者②】	視覚障害者について予習・復習する
第8回	障害のある人の生活の理解【聴覚障害者①】	聴覚障害者について予習・復習する
第9回	障害のある人の生活の理解【聴覚障害者②】	聴覚障害者について予習・復習する
第10回	障害のある人の生活の理解【運動機能障害①】	運動機能障害について予習・復習する
第11回	障害のある人の生活の理解【運動機能障害②】	運動機能障害について予習・復習する
第12回	障害のある人の生活の理解【内部障害①】	内部障害について予習・復習する
第13回	障害のある人の生活の理解【内部障害②】	内部障害について予習・復習する
第14回	障害のある人の生活の理解【知的障害】	知的障害について予習・復習する
第15回	障害のある人の生活の理解【精神障害】	精神障害について予習・復習する

■履修上の注意

参加型の授業を展開するため、事前に予習を必ず行うこと。
また、毎回小テストを実施するため、復習を徹底すること。

■評価方法

試験60%、出席状況・受講態度20%、小テスト20%

■教科書

「新・介護福祉士養成講座 障害の理解」中央法規

■参考書

授業の中で適宜紹介する

科目名	障害の理解と介護		担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	4
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得することで、他者に共感し介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる力を身につける。

■授業の概要

障害についての医学的側面の理解を進め、障害の基礎的理解を促す。また、連携と協働について、多職種協働やチームアプローチの必要性を体験的に学習し、チームに参画する意義を体験する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	障害のある人の生活の理解【高次脳機能障害①】	高次脳機能障害について予習・復習する
第17回	障害のある人の生活の理解【高次脳機能障害②】	高次脳機能障害について予習・復習する
第18回	障害のある人の生活の理解【発達障害①】	発達障害について予習・復習する
第19回	障害のある人の生活の理解【発達障害②】	発達障害について予習・復習する
第20回	障害のある人の生活の理解【重症心身障害】	重症心身障害について予習・復習する
第21回	障害のある人の生活の理解【難病】	難病について予習・復習する
第22回	障害のある人への介護	基本的視点について予習・復習する
第23回	障害のある人への介護	ニーズとアセスメントについて予習・復習する
第24回	障害のある人への介護【社会資源の活用】	社会資源について予習・復習する
第25回	家族への支援【障害受容と家族】	障害受容について予習・復習する
第26回	家族への支援【家族介護の状況・介護負担】	介護負担について予習・復習する
第27回	地域におけるサポート体制の確立【多職種】	多職種との連携について予習・復習する
第28回	地域におけるサポート体制の確立【行政・地域自立支援協会】	行政の役割・地域自立支援協会について予習・復習する
第29回	地域におけるサポート体制の確立【インフォーマルサービス】	インフォーマルサービスについて予習・復習する
第30回	まとめ	自分が住んでいる地域資源について調べる

■履修上の注意

参加型の授業を展開するため、事前に予習を必ず行うこと。
また、毎回小テストを実施するため、復習を徹底すること。

■評価方法

試験60%、出席状況・受講態度20%、小テスト20%

■教科書

「新・介護福祉士養成講座 障害の理解」中央法規

■参考書

授業の中で適宜紹介する

科目名	こころとからだのしくみI(1)			担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人体の構造と機能を説明することができる。
- ②生活習慣病について説明することができる。
- ③高齢者に多くみられる疾患の症状、特徴について説明することができる。
- ④障害者医療の特徴について説明することができる。

■授業の概要

介護現場において、介護福祉士はさまざまな医療専門職と連携して介護に従事する。医学・医療に関する基礎知識・技術を学び、医療専門職と十分な意思疎通を図り、より良い介護を提供できる。人体の仕組み、高齢者に多発する疾患、障害者の疾患の特徴について学習し、理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	今週と来週の授業内容
第2回	人体の区分	今週と来週の授業内容
第3回	細胞と組織	今週と来週の授業内容
第4回	調節系	今週と来週の授業内容
第5回	呼吸・循環器系	今週と来週の授業内容
第6回	消化器系・代謝系	今週と来週の授業内容
第7回	泌尿器系・皮膚・骨格系・筋系	今週と来週の授業内容
第8回	特殊感覚系	今週と来週の授業内容
第9回	生殖器系・免疫系	今週と来週の授業内容
第10回	貧血、出血傾向、チアノーゼ、ショック	今週と来週の授業内容
第11回	咳・喀痰、呼吸困難、排便困難、排尿困難	今週と来週の授業内容
第12回	悪心・嘔吐、食欲不振、嚥下障害、黄疸	今週と来週の授業内容
第13回	脱水、浮腫、発熱、痛み、けいれん	今週と来週の授業内容
第14回	知覚障害、めまい、意識障害	今週の授業内容
第15回	前期のまとめ、国家試験対策	前期の授業内容

■履修上の注意

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。

■評価方法

受講態度(20%)と期末試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

テキスト：最新介護福祉全書 別巻1 医学一般 メヂカルフレンド社

■参考書

からだの地図帳 講談社編 監修・解説：高橋長雄 講談社

科目名	こころとからだのしくみI(1)			担当教員 (単位認定者)	李 英姿	単位数	4
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人体の構造と機能を説明することができる。
- ②生活習慣病について説明することができる。
- ③高齢者に多くみられる疾患の症状、特徴について説明することができる。
- ④障害者医療の特徴について説明することができる。

■授業の概要

介護現場において、介護福祉士はさまざまな医療専門職と連携して介護に従事する。医学・医療に関する基礎知識・技術を学び、医療専門職と十分な意思疎通を図り、より良い介護を提供できる。人体の仕組み、高齢者に多発する疾患、障害者の疾患の特徴について学習し、理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	呼吸器疾患	今週と来週の授業内容
第17回	循環器疾患	今週と来週の授業内容
第18回	腎・泌尿器疾患	今週と来週の授業内容
第19回	消化器疾患	今週と来週の授業内容
第20回	神経・筋疾患	今週と来週の授業内容
第21回	血液・造血器疾患	今週と来週の授業内容
第22回	内分泌・代謝性疾患	今週と来週の授業内容
第23回	感染症	今週と来週の授業内容
第24回	膠原病	今週と来週の授業内容
第25回	精神疾患	今週と来週の授業内容
第26回	運動器疾患	今週と来週の授業内容
第27回	感覚器疾患	今週と来週の授業内容
第28回	皮膚疾患	今週と来週の授業内容
第29回	口腔疾患	今週の授業内容
第30回	後期のまとめ、国家試験対策	後期の授業内容

■履修上の注意

教科書を中心として、プリント、スライド、ビデオ、DVDを使用して講義をする。ノートをきちんととること。

■評価方法

受講態度(20%)と期末試験(80%)を総合して評価する。

■教科書

テキスト：最新介護福祉全書 別巻1 医学一般 メヂカルフレンド社

■参考書

からだの地図帳 講談社編 監修・解説：高橋長雄 講談社

科目名	人間の尊厳と自立		担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

哲学には物事の合理的認識と人の徳を探究することが含まれる。それら人間性の探究と我が身の人生観について学んでゆくものである。

■授業の概要

哲学字の訳語は江戸後期の西周の訳語とされている。それまでは宋学における性理学の概念をもって認識していた。性理学の根拠、伝承、学統を時間の許す限りテキスト外の資料とともに講義、紹介してゆく。東西の両洋の哲学の要を論じてゆく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	哲学字、及び性理学の伝統、総合を見てゆく	テキスト 序文
第2回	儒教及び儒学の哲学思想について	テキスト 1頁
第3回	孔子と代々の儒学者について	テキスト 7頁
第4回	仁について	テキスト 56頁
第5回	義・礼・智・信について	テキスト 57頁
第6回	孔門の十哲等を中心として	テキスト 90頁～107頁
第7回	日本儒教について	テキスト 114頁～118頁
第8回	儒教哲学の本旨について	テキスト 137頁～153頁
第9回	儒学における有徳者(君子)の称を論じて論語章句に説き及ぶ	テキスト 153頁～156頁
第10回	儒学における根本思想(仁・礼)の指摘	テキスト 156頁～161頁
第11回	儒家の哲学と道家の哲学の異同	テキスト 162頁～173頁
第12回	「西田哲学」の主張について	テキスト 174頁～179頁
第13回	儒教哲学における実践(家庭編)	テキスト 180頁～192頁
第14回	(承前) (地域社会編く一))	テキスト 193頁～203頁
第15回	(承前) (地域社会編く二))	テキスト 204頁～210頁

■履修上の注意

出席は重視する。理由なく欠席・遅刻の多い者(3回以上)の者は成績評価を受ける資格を失う。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退室を命ずる。再試は一回のみ。小テストを実施する。

■評価方法

成績評価は、筆記試験(60%)、レポート(20%)、出席状況(20%)等を総合して評価する。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究一修訂版」明治書院発行

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	人間関係とコミュニケーション			担当教員 (単位認定者)	鈴木 靖弘 柳澤 充	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

利用者や家族に対して、あるいは多職種（他職種）協同で進めるチームケアにおいて重要となる、円滑なコミュニケーションを図るための基本的なコミュニケーション能力を養う。

■授業の概要

対人援助において、コミュニケーション能力の有無は極めて重要な要素である。そこで、本講義においては、「コミュニケーション」における概要説明はもちろんのこと、演習等を通じてその能力の向上を図ることを目的に授業を展開していく。また、グループワークを通じて、他者との価値観の相違や自己覚知について、グループで意見をまとめ発表すること、などを学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	「コミュニケーション」の意味を事前に調べる。
第2回	メッセージを共有する意欲を高める	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第3回	言語と非言語でメッセージを共有する	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第4回	利用者満足度を高めるメッセージを学ぶ	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第5回	きき方を身につける	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第6回	メッセージを受け取る能力を高める	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第7回	テクニックをスキルとして使いこなす	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第8回	初心者をリードする方法を学ぶ	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第9回	成長させるアドバイスの方法を学ぶ	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第10回	自己決定の引き出し方を学ぶ	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第11回	振り返りによるスキルアップ	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第12回	職場の人間関係の基本を学ぶ	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第13回	五つの心を知る。明るい雰囲気をつくる	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第14回	理性的・合理的に話し合う	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。
第15回	自分を知り、相手を知る	授業で学んだ内容をリアクションペーパーにまとめ提出する。

■履修上の注意

- ・グループワークにおいては普段の友人関係とは違うグループを意図的に設定するため、学生一人ひとりが積極的に授業に参加する姿勢が必要である。また、グループワークにおいては、全ての学生が発言できるように工夫して運営することが望まれる。
- ・対人援助にあたって基本的な姿勢を身につけると共に他者の理解やコミュニケーションの必要性を理解する。
- ・遅刻や私語等に注意し、積極的に受講すること。
- ・毎時間小テスト（確認テスト）を実施する。

■評価方法

出欠状況10%、授業態度・リアクションペーパー 30%、定期試験（レポート等）60%とする。

■教科書

諏訪茂樹編著 『介護福祉士養成テキスト2 人間関係とコミュニケーション（体験型ワークブック）』建帛社（最新版）

■参考書

適宜、紹介する

科目名	社会福祉概論			担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉に関する法律、諸施策の概要の把握に努め、各論を学ぶ上での基礎を習得する。また、生活保護と介護保険制度との関係など、卒業時共通試験を見据えた授業展開を図っていく。

■授業の概要

社会福祉に関する法律、諸施策の概要の把握に努め、各論を学ぶ上での基礎を習得する。また、生活保護と介護保険制度との関係など、卒業時共通試験を見据えた授業展開を図っていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業時に指示
第2回	現代社会と社会福祉 ①	授業時に指示
第3回	現代社会と社会福祉 ②	授業時に指示
第4回	社会福祉の主体	授業時に指示
第5回	社会福祉の史的展開 (日本・海外)	授業時に指示
第6回	社会福祉の法制	授業時に指示
第7回	社会保障及び関係制度の概要 ①	授業時に指示
第8回	社会保障及び関係制度の概要 ②	授業時に指示
第9回	社会保障及び関係制度の概要 ③	授業時に指示
第10回	社会福祉援助の意味・形態	授業時に指示
第11回	社会福祉の援助方法 ①	授業時に指示
第12回	社会福祉の援助方法 ②	授業時に指示
第13回	社会福祉援助の専門性	授業時に指示
第14回	福祉士法の概要	授業時に指示
第15回	総括	授業時に指示

■履修上の注意

私語をせず、積極的に受講すること。なお、卒業時共通試験対策として、授業のなかで確認テスト(小テスト)を毎回実施する。

■評価方法

定期試験70%、確認テスト(小テスト)20%、出席状況10%、それに授業態度を考慮のうえ評価する。

■教科書

新・介護福祉士養成講座2 『社会と制度の理解』(中央法規出版)

■参考書

『なぜ?どうして?社会と制度①』(メディックメディア) ・ 社会福祉小六法

科目名	老人福祉論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢者を取り巻く生活環境問題を理解し、それに係わる法・諸施策の把握に努める。

■授業の概要

高齢化の進展にともない、介護保険制度をはじめとした法制度を把握しておくことは、極めて重要なことである。そこで、介護福祉士としておさえておくべき下記事項を中心に概説していく。また、卒業年次に受験する「卒業時共通試験」に関する情報も適宜、提供していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業時に指示する
第2回	少子高齢社会と社会問題	授業時に指示する
第3回	介護保険制度 ①	授業時に指示する
第4回	介護保険制度 ②	授業時に指示する
第5回	居宅サービス	授業時に指示する
第6回	施設サービス	授業時に指示する
第7回	地域密着型サービス・介護予防サービス	授業時に指示する
第8回	老人福祉法 ①	授業時に指示する
第9回	老人福祉法 ②	授業時に指示する
第10回	高齢者虐待防止法 ①	授業時に指示する
第11回	高齢者虐待防止法 ②	授業時に指示する
第12回	高齢者の医療の確保に関する法律	授業時に指示する
第13回	高齢者支援の方法(ケアマネジメント)①	授業時に指示する
第14回	高齢者支援の方法(ケアマネジメント)②	授業時に指示する
第15回	総括	授業時に指示する

■履修上の注意

私語をせず、積極的に受講すること。なお、卒業時共通試験対策として、授業のなかで確認テスト(小テスト)を毎回実施する。高齢福祉コースは必修、障害福祉コース・福祉総合コースは選択

■評価方法

定期試験70%、確認テスト(小テスト)20%、出欠状況10%、それに授業態度を考慮のうえ評価する。

■教科書

新・社会福祉士養成講座13 『高齢者に対する支援と介護保険制度(第2版)』(中央法規出版)

■参考書

社会福祉小六法

科目名	老人福祉論Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	鈴木 育三	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢者を一人の人間として理解するために多角的 (baio/social/historicai/spiritual) 視点から考察し人間理解を深める。
高齢者のライフ・ステージ、ライフ・ヒストリーを通して人間存在の実存的意義について気づきを深める。

■授業の概要

『古い』は、人間のライフサイクルにおいて誰もが経験する出来事であり、老いの旅路に同伴する者として高齢者のケアについて考察する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	参考書を学習すること。
第2回	I) 人間理解総論	参考書を学習すること。
第3回	1、「いのち」について	参考書を学習すること。
第4回	2、自然環境と人間	参考書を学習すること。
第5回	3、社会的存在としての人間	参考書を学習すること。
第6回	II) Aging (老いゆく過程) 総論	参考書を学習すること。
第7回	1、ライフサイクルとライフステージ	参考書を学習すること。
第8回	2、喪失体験としての老い	参考書を学習すること。
第9回	3、死の臨床 (Death&Dying)	参考書を学習すること。
第10回	III) ケアの思想総論	参考書を学習すること。
第11回	1、社会福祉の歴史	参考書を学習すること。
第12回	2、人権の思想	参考書を学習すること。
第13回	3、生存権の思想	参考書を学習すること。
第14回	IV) 老人福祉論総括	参考書を学習すること。
第15回	最終レポート作成	参考書を学習すること。

■履修上の注意

授業ごとにリアクションペーパーを提出すること

■評価方法

リアクションペーパー 50点及び中間レポート20点、論文 (エッセイ) 30点

■教科書

随時参考文献を紹介する

■参考書

『ケアの社会学』上野千鶴子著、太田出版・『生命の環 季節の環』鈴木育三著、聖公会出版・『老いの泉』(上・下) ベティ・フリーダン著、山本博子/寺澤恵美子訳、西村書店、『生命の倫理』中村元著、春秋社 その他

科目名	障害者福祉論Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	飯塚 登久次	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

障害者福祉政策の理論を支柱とした介護福祉士
その他ソーシャルワーカーに!!

■授業の概要

- ・ 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態
- ・ 障害者にかかわる法体系
- ・ 障害者自立支援制度①
- ・ 障害者自立支援制度②
- ・ 組織機関の役割
- ・ 専門職の役割と実際
- ・ 多職種連携、ネットワーキング

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	教科書を学習すること。
第2回	障害者を取り巻く社会情勢 障害者の生活実態	教科書を学習すること。
第3回	障害とは(障害の概念)	教科書を学習すること。
第4回	障害者にかかわる法(障害者基本法)	教科書を学習すること。
第5回	〃 身体・知的・精神障害者法	教科書を学習すること。
第6回	〃	教科書を学習すること。
第7回	〃 各省庁の障害者施策	教科書を学習すること。
第8回	障害者自立支援制度・理念・考え方	教科書を学習すること。
第9回	〃 自立支援給付・支給決定プロセス	教科書を学習すること。
第10回	地域生活支援事業	教科書を学習すること。
第11回	障害児に対する支援	教科書を学習すること。
第12回	組織機関の役割(行政・事業者等)	教科書を学習すること。
第13回	専門職の役割	教科書を学習すること。
第14回	各職種連携とネットワーク	教科書を学習すること。
第15回	科目の総括	教科書を学習すること。

■履修上の注意

ソーシャルワーカーを目指している自覚の下に履修のこと。

■評価方法

履修態度・ペーパーテスト(おおむねテスト70%、履修態度30%)

■教科書

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

■参考書

社会福祉小六法(必携!!)

科目名	障害者福祉論Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

障害者を取り巻く社会情勢及び障害者福祉制度の発展過程を学び、障害者に関する制度等を学んでいく。また、それらを通して介護現場における相談援助の基盤を身につける。

■授業の概要

講義や演習を通して、障害者の生活について理解を深め、制度との関連について理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	障害者福祉について理解を深める
第2回	障害についての理解—医学モデルと社会モデルについて—	医学モデル・社会モデルについて予習・復習する
第3回	障害についての理解—ICFについて—	ICFについて予習・復習する
第4回	ICFの実践—障害種別の理解—	各自障害を調べ、それについての理解を深める
第5回	ケアデザインについて①	障害者の生活における援助について理解を深める
第6回	ケアデザインについて②	障害者の生活における援助について理解を深める
第7回	障害者に関わる法体系①	障害者に関する法律について予習・復習する
第8回	障害者に関わる法体系②	障害者に関する法律について予習・復習する
第9回	障害者自立支援法①	障害者自立支援法について予習・復習する
第10回	障害者自立支援法②	障害者自立支援法について予習・復習する
第11回	組織・機関の役割について①	行政機関等の役割について予習・復習する
第12回	組織・機関の役割について②	労働機関等の役割について予習・復習する
第13回	専門職の役割と実際	障害者に係る専門職について予習・復習する
第14回	多職種連携の役割と実際	多職種連携の意味について予習・復習する
第15回	まとめ	障害者福祉について復習する

■履修上の注意

演習も行うため、遅刻や欠席をしないように注意すること。
また、原則として毎回小テストを行うため、予習・復習を徹底すること。

■評価方法

試験60%、出席・受講態度30%、小テスト10%

■教科書

よくわかる障害者福祉 やわらかアカデミズム・わかるシリーズ

■参考書

講義の中で適宜紹介していく

科目名	社会調査			担当教員 (単位認定者)	河内 和直	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学び、実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに、将来、介護福祉士のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける。

■授業の概要

本講義では、種々の社会現象（ex. 社会問題、流行）について調べ、解明するための理論と統計的方法について解説を行う。講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の2本立てから成るが、単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく、適宜、多様な具体例を提示しながら、事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	イントロダクション 社会調査を学ぶにあたって	社会調査の意義について考える
第2回	社会調査の目的 社会調査と社会福祉調査	社会調査と福祉実践の関係を考える
第3回	社会調査のプロセス 社会調査研究の手順とプレゼンテーション	社会調査の手順について振り返る
第4回	社会調査の種類 「社会調査」の歴史の変遷とその大別	社会調査の歴史を知る
第5回	標本抽出法Ⅰ 無作為標本抽出法と有意抽出法	確率論の基礎を振り返る
第6回	標本抽出法Ⅱ 無作為標本抽出法の演習	標本抽出法の考え方について振り返る
第7回	データの収集法 質問紙調査法、参与観察法、生活史法 ほか	データの種類について振り返る
第8回	質問紙調査票（アンケート）の作成方法 質問項目の執筆における留意点を中心に	アンケートの作成手順について振り返る
第9回	データの処理・集計 データの数値化、単純集計・クロス集計	データ整理の基本について振り返る
第10回	統計分析Ⅰ 基本統計量（代表値、散布度、分布型）	1変数の記述統計量について振り返る
第11回	統計分析Ⅱ ピアソンの積率相関係数	2変数の記述統計量について振り返る
第12回	統計分析Ⅲ 統計的検定とは	検定の基本について振り返る
第13回	統計分析Ⅳ カイ2乗検定の実際	カイ2乗検定について振り返る
第14回	統計的知識と日常 Hypatiaの哲学に学ぶ情報判断の視点	科学的理性とは何かについて自分の考えをまとめる
第15回	総括	定期試験に向けた復習

■履修上の注意

「社会調査」とは、より平易に表現すれば「世の中を知るために調べること」です。世の中（社会）をちょっと違った角度から眺めてみたい・・・そんな好奇心あふれる受講生を望みます。また、受講にあたっては恒常的に出席すること。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

定期試験（60％）・課題レポート（20％）の結果に、平常点（20％）（出席率及び受講態度）を加味した総合評価を行います。

■教科書

黒田宣代・東 巧（著）「新版 よくわかる社会調査法 -基礎から統計分析まで-」 大学教育出版，2008年

■参考書

社会福祉士養成講座編集委員会（編）「新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎 第2版」中央法規出版，2010年
ほか適宜紹介

科目名	障害者スポーツ論		担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

障害者が豊かな社会生活を送るために、障害者スポーツや文化・芸術活動の果たす役割は大きい。障害者スポーツでは、重度障害者の参加にも考慮しつつ、生活の中で楽しむことができるスポーツ、さらには、競技としてのスポーツを、積極的に推進すべきであり、障害者スポーツ振興の理解と、その援助法を中心に習得する。

■授業の概要

障害者を取り巻く地域社会での福祉施策やスポーツ心理・レクリエーションの意義、障害区分とスポーツ活動やスポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障害者スポーツの実施と障害者のために工夫されたスポーツを学習する。(財)日本障害者スポーツ協会「初級障害者スポーツ指導員」の資格取得をおこなう。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション: 社会福祉・障害者福祉施策の概念	社会福祉・障害者福祉施策を予習しておく。
第2回	障害の概念と実態・障害者スポーツの現状	障害者スポーツの現状を予習しておく。
第3回	スポーツの動機づけ・精神的社会的意義	自信のスポーツ経験をまとめておく。
第4回	障害の理解(身体障害)	身体障害を予習しておく。
第5回	障害の理解(知的障害・精神障害)	知的・精神障害を予習しておく。
第6回	リハビリテーションの概念とスポーツの役割	リハビリテーションについて予習しておく。
第7回	レクリエーション概念とレク活動	自身のレク活動についてまとめておく。
第8回	健康・体力の理解、効果的なスポーツ	自身のスポーツ体験についてまとめておく。
第9回	全国障害者スポーツ大会における障害区分	障害者スポーツ大会ボラについてまとめておく。
第10回	知的障害者とスポーツ指導(フライングディスク)	フライングディスクについて調べておく。
第11回	障害者の運動と安全管理	安全管理について予習しておく。
第12回	障害者のスポーツ①(シッティングバレー)	下肢障害について調べておく。
第13回	障害者のスポーツ②(サウンドテーブルテニス)	視覚障害について調べておく。
第14回	生活におけるスポーツの必要性和支援	障害者のスポーツライフについて調べておく。
第15回	まとめ	学習内容の確認。

■履修上の注意

- ①障害者の生活支援を常に念頭に置き、真摯な態度で受講する。
- ②障害者スポーツ実技は体育着を着用。

■評価方法

出席態度30%、課題レポート20%、試験50%により総合評価をおこなう。

■教科書

(財)日本障害者スポーツ協会編集「障害者のスポーツ指導の手引き」ぎょうせい

■参考書

授業の中で紹介する。

科目名	生活支援技術Ⅲ (栄養調理)		担当教員 (単位認定者)	梅山 節子 熊谷 瞳	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・(実習)	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

高齢な方々の身体に合った食事の理論と実践を学び、そういった方々へよりよいケアが出来る人になる。

■授業の概要

食事は人の営みの重要な位置をしめる。そのため、献立のたて方、調理理論を学びグループで役割分担をして作っていく。
(1回の授業は2コマ連続である。)

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を読む・ノート整理
第2回	調理の基本	教科書を読む・ノート整理
第3回	和風献立(魚)	教科書を読む・ノート整理
第4回	洋風献立(肉)	教科書を読む・ノート整理
第5回	調味について 減塩	教科書を読む・ノート整理
第6回	軟かい食事①	教科書を読む・ノート整理
第7回	軟かい食事②	教科書を読む・ノート整理
第8回	軟かい食事③	教科書を読む・ノート整理
第9回	主食が麺の献立	教科書を読む・ノート整理
第10回	主食がパンの献立	教科書を読む・ノート整理
第11回	手軽なおやつ	教科書を読む・ノート整理
第12回	季節に合った献立	教科書を読む・ノート整理
第13回	献立作成(条件にあうもの)	教科書を読む・ノート整理
第14回	糖尿病のための献立	教科書を読む・ノート整理
第15回	自分達で作った献立を実際作ってみる	ノート整理・まとめ

■履修上の注意

清潔で安全な行動を求めます。またおしゃべりは控えて下さい。
エプロン、三角布は必須です。毎回小テストを実施します。

■評価方法

授業態度50点。ノート内容50点。ノートはコピーでは認めません。

■教科書

介護福祉士のための調理 (建帛社)

■参考書

1800kcalの食事 (上毛新聞社)

科目名	介護過程の展開I(2)			担当教員 (単位認定者)	白井 幸久	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護過程を継続した生活の一場面としてとらえることの意味を踏まえて、介護過程の展開が「情報収集→計画→実施→評価」の繰り返しであること、それぞれの段階ごとに支援者として果たすべき役割を理解する。

■授業の概要

介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護の在り方を個別に考察し計画を立案、実施、評価していく一連の流れを演習を通じて理解する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション: 演習方法等	1年の介護過程の展開を振り返り、課題をまとめる。
第2回	介護過程の実践的展開①	介護過程とは何かをまとめる。
第3回	介護過程の実践的展開②	アセスメント等とは何かをまとめる。
第4回	介護過程の実践的展開③	アセスメントツールとは何かをまとめる。
第5回	介護過程の実践的展開④	ICFを視点としたアセスメントツールをまとめる。
第6回	介護過程の実践的展開⑤	ICFを視点としたアセスメントツールをまとめる。
第7回	介護過程の実践的展開のまとめ	介護過程の展開を振り返りまとめる。
第8回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開①	プリント事例の読み込み
第9回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開②	プリント事例の読み込み
第10回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開③	作業のチェック①
第11回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開④	作業のチェック②
第12回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開⑤	作業のチェック③
第13回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開⑥	介護過程の展開を振り返りまとめる。
第14回	本人を中心とした生活を継続する介護過程の展開⑦	介護過程の展開を振り返りまとめる。
第15回	まとめ	重要ポイントのまとめ。

■履修上の注意

この授業は参加型で展開されるので主体的に参加すること。

■評価方法

定期試験 60%、提出物及び出席 40%

■教科書

介護過程 中央法規出版

■参考書

プリント等を配布する。

科目名	介護実習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・ 実習	必修・選択		一覧表参照	

■実習の目的または到達目標

- ①介護を必要とする対象者の自立支援に係る技術と知識を介護の現場で基本的理解ができる。
- ②実習施設の役割と介護を必要とする利用者の基本的理解ができる。
- ③介護福祉士として求められる必要な資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

■実習履修資格者

- 本学の介護実習における実習履修資格者は、原則として次に掲げる者とする。
- ①介護福祉士に必要な学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認める者であること。
 - ②1年次の履修において、全科目の欠席が僅少であること。
 - ③1年次開講科目「介護総合演習Ⅰ」「介護過程の展開Ⅰ・Ⅱ」「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」の担当教員が介護実習の履修を認めた者であること。
 - ④12月に実施される介護実習実施前試験に合格していること。
 - ⑤実習に関する書類を期限内に提出していること。
 - ⑥その他介護実習Ⅰ担当教員の定める要件を満たしていること。

■実習時期及び実習日数・時間

実習Ⅰは1年次において実施する。
実習は12日以上かつ90時間以上とする。

■実習上の注意

実習マニュアル(学生用)を参照し、遵守すること。

【実習中止の措置】

以下の場合には実習を中止する。

実習生に起因する事柄によって実習継続が困難と判断される事態

- ①重大なルール違反(就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反)を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑦その他介護実習Ⅰ担当教員が定めるルールに違反したとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価(50%)
- ②巡回及び帰学日での指導状況及び実習態度(10%)
- ③実習ノート(10%)
- ④実習のまとめ(10%)
- ⑤実習報告書(10%)
- ⑥その他提出物の提出状況(10%)

※実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※介護総合演習Ⅰの単位を同一年度において習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	介護実習Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■実習の目的または到達目標

- ①介護を必要とする対象者の自立支援に係る技術と知識を介護の現場で理解ができる。
- ②実習施設の役割と介護を必要とする利用者の理解ができる。
- ③介護福祉士として求められる必要な資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④介護過程の展開に必要な事柄について基本的な理解ができる。

■実習履修資格者

- 本学の介護実習における実習履修資格者は、原則として次に掲げる者とする。
- ①介護福祉士に必要な学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認める者であること。
 - ②1年次の履修において、全科目の欠席が僅少であること。
 - ③1年次開講科目「介護総合演習Ⅱ」「介護過程の展開Ⅱ」「生活支援技術Ⅴ」の担当教員が介護実習の履修を認めた者であること。
 - ④5月に実施される介護実習実施前試験に合格していること(実習Ⅲと合同試験)。
 - ⑤実習に関する書類を期限内に提出していること。
 - ⑥その他介護実習Ⅱ担当教員の定める要件を満たしていること。

■実習時期及び実習日数・時間

実習Ⅱは2年次において実施する。
実習は24日以上かつ180時間以上とする。

■実習上の注意

実習マニュアル(学生用)を参照し、遵守すること。

【実習中止の措置】

以下の場合には実習を中止する。

実習生に起因する事柄によって実習継続が困難と判断される事態

- ①重大なルール違反(就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反)を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑦その他介護実習Ⅱ担当教員が定めるルールに違反したとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価(50%)
- ②巡回及び帰学日での指導状況及び実習態度(10%)
- ③実習ノート(10%)
- ④実習のまとめ(10%)
- ⑤実習報告書(10%)
- ⑥その他提出物の提出状況(10%)

※実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※介護総合演習Ⅱの単位を同一年度において習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	介護実習Ⅲ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・ 実習	必修・選択		一覧表参照	

■実習の目的または到達目標

- ①介護を必要とする対象者の自立支援に係る技術と知識を介護の現場で理解できる。
- ②実習施設の役割と介護を必要とする利用者の理解ができる。
- ③介護福祉士として求められる必要な資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④介護過程の展開を理解し、必要な情報収集ののち、個別援助計画の立案から実施、評価、見直しができる。

■実習履修資格者

- 本学の介護実習における実習履修資格者は、原則として次に掲げる者とする。
- ①介護福祉士に必要な学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認める者であること。
 - ②1年次の履修において、全科目の欠席が僅少であること。
 - ③1年次開講科目「介護総合演習Ⅱ」「介護過程の展開Ⅱ」「生活支援技術Ⅴ」の担当教員が介護実習Ⅲの履修を認めた者であること。
 - ④5月に実施される介護実習実施前試験に合格していること(介護実習Ⅱと合同試験)。
 - ⑤実習に関する書類を期限内に提出していること。
 - ⑥その他介護実習Ⅲ担当教員の定める要件を満たしていること。

■実習時期及び実習日数・時間

実習Ⅱは2年次において実施する。
実習は24日以上かつ180時間以上とする。

■実習上の注意

実習マニュアル(学生用)を参照し、遵守すること。

【実習中止の措置】

以下の場合には実習を中止する。

実習生に起因する事柄によって実習継続が困難と判断される事態

- ①重大なルール違反(就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反)を行ったとき。
- ②利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき。
- ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。
- ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。
- ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
- ⑦その他介護実習Ⅲ担当教員が定めるルールに違反したとき。

■評価方法

- ①実習施設による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価(50%)
- ②巡回及び帰学日での指導状況及び実習態度(10%)
- ③実習ノート(10%)
- ④実習のまとめ(10%)
- ⑤実習報告書(10%)
- ⑥その他提出物の提出状況(10%)

※実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は実習の単位を認定しない。
※介護総合演習Ⅱの単位を同一年度において習得出来なかった場合は単位を認定しない。

科目名	発達と老化の理解 I (高齢者)		担当教員 (単位認定者)	小林 康子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

■授業の概要

発達とは誕生から死に至るまでの連続的な変化としてとらえられている。本講義では加齢が及ぼす心理的影響について論じるとともに、高齢者の心理を中心に発達現象を総合的に考察する。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 → 老化とその心理的影響 → 高齢者への対応という道筋で、高齢者への心理面の援助アプローチ」という道筋で、高齢者への心理的支援のアプローチについて考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	人間の成長と発達	「発達」あるいは「老化」問う言葉の意味を考えておくこと
第2回	発達理論と発達段階	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第3回	社会からみた老年期	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第4回	日本人の老年観	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第5回	ライフサイクルと老年期	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第6回	高齢者と死	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第7回	高齢者と家族、家族の形態と機能	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第8回	心身機能の加齢性変化 身体的変化	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第9回	心身機能の加齢性変化 知的機能の変化	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第10回	心身機能の加齢性変化 パーソナリティと適応1	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第11回	心身機能の加齢性変化 パーソナリティと適応2	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第12回	高齢者の身体的特徴	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第13回	高齢者と異常心理	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第14回	認知症高齢者の心理的特徴	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第15回	総括	総復習

■履修上の注意

- ・この科目は「復習」が重要となる。必ず授業終了後に教科書を一読すること。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすることが望まれる。
- ・積極的に授業に参加すること。また、予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。
- ・毎回小テストを実施する。

■評価方法

- ①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題・小テスト等)(40%)
 - ②学期末試験(60%)
- ・①～②を総合的に評価する

■教科書

林泰史 長田久雄編著 「発達と老化の理解」 メヂカルフレンド社 2009年 2310円

■参考書

小林芳郎編著 「高齢者のための心理学」 保育出版社 2008年 2477円

科目名	発達と老化の理解Ⅱ (障害者)		担当教員 (単位認定者)	小林 康子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。そのなかで、「人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 障害とその心理的影響 ⇒ 障害者への対応」という道筋で、障害者への心理面の援助アプローチについて考える。

■授業の概要

発達とは誕生から死に至るまでの連続的な変化としてとらえられている。本講義では障害が及ぼす心理的影響について論じるとともに、障害者の心理を中心に発達現象を総合的に考察する。そのなかで、人間の成長発達と心理的理解 ⇒ 障害とその心理的影響 ⇒ 障害者への対応という道筋で、障害者への心理面の援助アプローチについて考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	障害とは何か、障害の及ぼす影響	「発達と老化の理解Ⅰ」の復習
第2回	障害の受容	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第3回	障害の受容と家族の問題	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第4回	運動障害と心理的特徴	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第5回	視覚障害と心理的特性	「心理学」の「感覚・知覚」の復習
第6回	聴覚障害と心理特性	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第7回	コミュニケーションの障害と心理的特徴	「心理学」の「対人関係とコミュニケーション」の復習
第8回	精神の障害と心理的特徴	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第9回	発達の障害と心理的特徴	「発達」の概念について復習
第10回	障害者の理解とその方法1	「心理学」の「見立て・面接。心理療法」の復習
第11回	障害者の理解とその方法2	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第12回	リハビリテーションと心理的援助	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第13回	人的環境と心理的援助	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第14回	社会的環境と心理的援助	前回授業の復習・テキストと各自のノートの照合
第15回	総括	総復習

■履修上の注意

- ・この科目は「復習」が重要となる。必ず授業終了後に教科書を一読すること。
- ・授業ノート作成が重要であるので工夫をすることが望まれる。
- ・積極的に授業に参加すること。また、予習、復習をしっかりと行い、授業への理解度を高めること。
- ・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておくこと。
- ・毎回小テストを実施する。

■評価方法

- ①平常点(授業への取り組み、授業時に課す課題・小テスト等)(40%)
 - ②学期末試験(60%)
- ・①～②を総合的に評価する

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

和田和弘、福屋靖子編「障害者の心理と援助」 メヂカルフレンド社 1997年 1900円

科目名	発達と老化の理解Ⅲ		担当教員 (単位認定者)	塚越 康子	単位数	2
対象学年	1・2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ① 人間の成長・発達について学ぶ。
- ② 人間の成長・発達過程における、精神疾患について学ぶ。
- ③ 精神障害者について学び理解をする。
- ④ 介護福祉士としての自己覚知を学ぶ。
- ⑤ 介護福祉士として他者理解の方法を学ぶ。

■授業の概要

人間の成長・発達の過程を理解し、人間の精神保健のライフサイクルの中でどのような精神疾患や精神保健分野での関わりがあるのかを理解して、介護福祉士として利用者およびその家族を支援することができるような援助方法や関わり方を考える。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	講義オリエンテーション 講義の進め方および対人援助職における自己覚知①	授業レポートの作成
第2回	精神保健(メンタルヘルス)とは何か ①	〃
第3回	精神保健(メンタルヘルス)とは何か ②	〃
第4回	精神保健(メンタルヘルス)とは何か ③	〃
第5回	ライフサイクルの中の精神保健 ① 乳幼児期から児童期	〃
第6回	ライフサイクルの中の精神保健 ② 乳幼児期から児童期	〃
第7回	ライフサイクルの中の精神保健 ③ 思春期から青年期	〃
第8回	ライフサイクルの中の精神保健 ④ 思春期から青年期	〃
第9回	ライフサイクルの中の精神保健 ⑤ 成人期	〃
第10回	ライフサイクルの中の精神保健 ⑥ 成人期	〃
第11回	ライフサイクルの中の精神保健 ⑦ 老人期	〃
第12回	ライフサイクルの中の精神保健 ⑧ 老人期	〃
第13回	ライフサイクルの中の精神保健 ⑨ 代表的な精神疾患	〃
第14回	ライフサイクルの中の精神保健 ⑩ 代表的な精神疾患	〃
第15回	全体のまとめ	〃

■履修上の注意

- ・介護福祉士資格取得に関わる講義のため、授業出席及び受講態度を重視します。
 - ・自ら具体的に考え、工夫し、現場に出た際に精神保健についての視点が持てることを目標に積極的な授業参加を期待します。
 - ・講義中の居眠り、私語等慎み、課題指示の確認を自ら行なうこと。
 - ・提出期日の指定を厳守すること。提出期限を過ぎたものに関しては評価の対象になりません。
- 以上のことを各自でしっかりと考えながら本講義に臨んで下さい。

■評価方法

- ①講義の出席状況(時間厳守、遅刻及び欠席に注意すること) 25% ②日常の授業態度(授業内での参加状況を含む) 25%
③提出物(通常提出物の提出状況及び内容) 30% ④定期試験及び課題レポート 20% ①から④までを総合的に判断して評価を行う。

■教科書

新・介護福祉士養成講座 11「発達と老化の理解」 編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2009

■参考書

その他参考書は講義内で適宜指示します。

科目名	こころとからだのしくみI(2)		担当教員 (単位認定者)	小林 康子	単位数	2
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護実践の際の基本的な根拠となる人体の構造や機能・生理を学ぶことにより、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮を理解し、他者に共感し相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。

■授業の概要

こころのしくみ及びからだのしくみ(構造・機能)と生活支援技術との関連を学ぶ。こころのしくみの理解、からだのしくみの理解、みじたく・移動・食事・入浴清潔保持・排泄・睡眠に関連したこころとからだのしくみ、死にゆく人のこころとからだのしくみについて学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	こころとからだのしくみを学ぶ意義	序章
第2回	人間の基本的欲求と尊厳の理解	第1章第1節
第3回	自己実現と生きがい	第1章第2節
第4回	こころのしくみに関する基礎的概念と理論	第1章第3節
第5回	介護実践と適応	健常高齢者と認知症高齢者の記憶の違いについて調べる
第6回	からだのしくみ①	第2章第1節
第7回	からだのしくみ②	第2章第3節
第8回	移動に関連したこころとからだのしくみ	第4章
第9回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	第3章
第10回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	第6章
第11回	排泄に関連したこころとからだのしくみ	第7章
第12回	食事に関連したこころとからだのしくみ	第5章
第13回	睡眠に関連したこころとからだのしくみ	第8章
第14回	死にゆく人のこころとからだのしくみ	第9章
第15回	こころとからだのしくみの総まとめ	自分自身の価値観と自己実現について考えてくる

■履修上の注意

この授業は参加型で展開されるので主体的に参加すること、なお第1回目の授業で授業の詳細について説明するが、予習復習欄に記載されているテキストの箇所を授業の前後に必ず読んでおくこと。また、授業終了時に、介護福祉士国家試験で過去に出題された問題に即した形で、まめテスト行うのでそのつもりで受講されたい。

出欠席について

- ・やむを得ず、遅刻早退欠席する場合は、その理由を申し出る。
- ・遅刻者は、授業の妨げにならないよう、静かに後部座席に着席し授業に参加する。
- ・ゆえに授業開始時には最後部席を空席にしておく必要がある。
- ・出席不足となった場合、未習得となる。
出席不足を補うことはできないので注意する必要がある。

■評価方法

出席率を含む受講態度20%、提出物30%、定期試験50%

■教科書

新・介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」中央法規

■参考書

授業の中で適宜紹介する。

科目名	こころとからだのしくみⅡ		担当教員 (単位認定者)	小林 康子	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士として身に付けるべき各疾患の特徴について理解し、それぞれにあったリハビリテーション介護を考えることができる。

■授業の概要

本講義では、私達が普通に営んでいる生活を回復したり、築いていく活動の総体であるリハビリテーションについて理解を深めることをねらいとする。また、自立支援およびQOLの向上を介護の目標とし、リハビリテーションの視点から考察できる力を培っていきたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	リハビリテーションに関わるスタッフ、プロセス リハビリテーションの中での介護福祉士の役割	障害の分類について復習すること
第2回	地域リハビリテーションとケアマネジメント ニーズ・評価・ゴール	ニーズ・評価・ゴールについて復習すること
第3回	老年期のリハビリテーション	廃用症候群について予習すること
第4回	認知高齢者のリハビリテーション	認知症について予習すること
第5回	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中の疾患について予習すること
第6回	小児のリハビリテーション	脳性麻痺について予習すること
第7回	慢性関節リウマチのリハビリテーション	慢性関節リウマチについて予習すること
第8回	パーキンソン病のリハビリテーション	パーキンソン病について予習すること
第9回	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄について予習すること
第10回	心疾患のリハビリテーション	心臓の働きについて予習すること
第11回	呼吸器の疾患のリハビリテーション	呼吸機能について予習すること
第12回	実技（ROMなど）	配布プリントを復習すること
第13回	実技（起居動作の介助方法、腰痛体操）	腰痛の原因について予習すること
第14回	住宅改造・福祉用具	配布プリントを復習すること
第15回	社会リハビリテーションの実際	1回～14回までの復習をすること

■履修上の注意

本講義は、解剖学、生理学を基本とし、各疾患の特徴を整理しながらリハビリテーション介護について学んでいく。疑問・質問はその都度受けるので、実際の臨床現場での対象者を想像しながら積極的に受講してほしい。また、毎回小テストを実施する。

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	アクティビティ・サービス援助技術			担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉サービス(老人ホーム、障害者施設、医療機関等)利用者の心身と生活の活性化を援助するための知識と技術を身につけるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を身につけるようにし、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指す。

■授業の概要

近年、福祉分野で使われるようになってきた「アクティビティ」という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、「人間の尊厳の保持」「自立支援/自律支援」の視点から実践的な知識と技術を身につけるために、講義と演習による授業を展開する。特に、レクリエーションとアクティビティの違いについて実習体験やボランティア活動体験などの話し合いを通して、福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション：履修上の確認。授業の進め方と授業の受け方	レクリエーション活動の復習とシラバスの読み方の復習をする
第2回	垣内理論の成り立ち：「レクリエーションからアクティビティ・サービスへ」	レクリエーションの意味を理解し福祉分野での誤解を考える
第3回	「生活の快論」と社会福祉	高齢者の生活を考え、残り少ない人生を支えるとは何かを考える
第4回	ワークショップ：お年寄りと自分の人生の比較	学習者と高齢者との世代のギャップについて考える
第5回	アクティビティ・サービスとは何か	福祉施設における実情から考える
第6回	日常生活支援とコミュニケーション・ワーク：挨拶と相槌	生活の中でのコミュニケーションとはどういうことか考える
第7回	アクティビティ・サービスの効果：アクティビティ・サービスの5つの側面	心理的や文化的な5つの側面におけるアクティビティの効果を考える
第8回	ワークショップ：日本の文化と高齢者の常識	言葉遊びと生活道具について理解する
第9回	アクティビティ・ワーカーの資質：専門職に求められる性格・能力・責任	専門職のあり方と利用者の権利の保障について考える
第10回	援助の体系と連携：援助のための専門職種間の連携	専門職間の連携とは上下関係でなく同じ平面での関係を理解する
第11回	援助のための人間理解：高齢者とは？	高齢者とはどのような人を指すのか事例を上げて考える
第12回	ワークショップ：高齢者のこども時代の映像を見る	昭和初期の生活と太平洋戦争について考える
第13回	高齢者を理解する：心理的側面から理解する	様々な側面から見ることにより、援助者の誤解について考える
第14回	高齢者を理解する：身体的側面・社会的側面から理解する	肉体的老化現象と社交性や趣味の多様性について考える
第15回	生活支援技術としてのアクティビティ・サービスについてまとめる	レクリエーションとアクティビティ・サービスの違いなどを再確認する

■履修上の注意

出席を重視し、授業態度を評価するので積極的な授業態度を期待する。

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出・小テストなど20%で評価する。

■教科書

アクティビティ・サービス協議会編『アクティビティ・サービス』中央法規出版(2008年7月)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	アクティビティ・サービス援助技術			担当教員 (単位認定者)	廣池 利邦	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉サービス(老人ホーム、障害者施設、医療機関等)利用者の心身と生活の活性化を援助するための知識と技術を身につけるとともに、社会人としての人間性の向上と知識、教養を身につけるようにし、アクティビティ・ワーカーの資格取得を目指す。

■授業の概要

近年、福祉分野で使われるようになってきた「アクティビティ」という言葉の正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、「人間の尊厳の保持」「自立支援/自律支援」の視点から実践的な知識と技術を身につけるために、講義と演習による授業を展開する。特に、レクリエーションとアクティビティの違いについて実習体験やボランティア活動体験などの話し合いを通して、福祉サービスとは何かを教授する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	前期の振り返り：理論から実践的技術についてのガイダンス	生活支援技術の具体例を考える
第17回	生活環境の全体整備とは何か	自分の生活環境を考えながら人間関係の構築について理解する
第18回	「衣・食・住」の話題	衣食住の身近な話題を出し合い、自分の生活を考える
第19回	ワークショップ：生活の知恵や知識	昔からの言い伝えや地域の民話、高齢者の知恵を考える
第20回	情報の提供の意味	個人情報について調べるとともに情報の意味について考える
第21回	施設における情報の提供方法：アクティビティ・カレンダーの書き方	施設の生活を基にして計画を人に知らせる意味や内容を考える
第22回	生活援助の中の安全管理	「ひやりはっと」の事例を書き出しながらリスクマネジメントを考える
第23回	ワークショップ：『死』に関する詩や映画を鑑賞する	死と向き合うとはどういうことかを考えながら、未知の世界を想像する
第24回	快い旅立ちへの援助：グリーフ・ケアの考え方	身近な人の死について考えてみる
第25回	高齢者が残すものとは：家族・家の文化伝達や地域の伝統	自分の家の伝統や地域の特徴を考える
第26回	アクティビティ・サービス計画論：提供すべきプログラムの実際	施設ではどのようなプログラムが展開されているか考える
第27回	ワークショップ：計画作成について話し合ってみる	自分が提供されたいサービスプログラムを考える
第28回	リアリティ・オリエンテーション：認知症の理解	認知症の周辺症状から中核症状までの流れを理解する
第29回	アクティビティ・サービスの資料の使い方	資料のCD-ROMの使い方を理解し、自分でやってみる
第30回	まとめの講義：アクティビティ・サービスの基本理念の確認	卒後にアクティビティ・サービスをどう生かすかについて考える

■履修上の注意

出席を重視し、授業態度を評価するので積極的な授業態度を期待する。

■評価方法

定期試験60%、授業態度・出席日数20%、レポート提出・小テストなど20%で評価する。

■教科書

アクティビティ・サービス協議会編『アクティビティ・サービス』中央法規出版(2008年7月)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	予防介護演習			担当教員 (単位認定者)	今井 あゆみ	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

健康管理士一般指導員に必要な正しい知識を身につけ、指導やアドバイスの方法について学ぶ。

■授業の概要

- ・生活習慣病の予防、指導方法について学ぶ。
- ・心の健康管理、栄養学、環境問題等について学び、指導やアドバイスの方法を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	健康管理士一般指導員とはどのような資格なのかについて理解する。
第2回	健康の概念/保健統計 テキスト1(pp1-29)	健康の概念について学ぶ。
第3回	ライフスタイルと健康づくり テキスト1(pp30-69)	ライフスタイル別の健康について学ぶ
第4回	健康なときの心がけ/医療施設の選択 テキスト1(pp70-127)	健康管理において普段注意すべきことについて理解する。
第5回	生活習慣病についての知識/がん テキスト2(pp1-63)	生活習慣病の基礎的な部分について学ぶ。
第6回	健康及び生活習慣病について	今まで学んだ部分の理解度を確かめる。
第7回	グループワーク1	生活習慣病について調べる。
第8回	グループワーク2	生活習慣病について調べる。
第9回	発表1	自身が調べたことについて発表し、理解度へつなげる。
第10回	発表2	自身が調べたことについて発表し、理解度へつなげる。
第11回	メボリックシンドローム/糖尿病 テキスト2(pp64-91)	メボリックシンドローム及び糖尿病の実際について理解する。
第12回	脂質異常症/高血圧 テキスト2(pp92-193)	脂質異常症及び高血圧の実際について理解する。
第13回	資格上の心構え/メンタルヘルス/ストレス ストレス3(pp1-21)	心の病気の対応について理解する。
第14回	年代における心の病気/解消法/心身医学 テキスト3(pp49-107)	心の病気の対応について理解する。
第15回	生活習慣病及びメンタルヘルスについて	今まで学んだ部分の理解度を確かめる。

■履修上の注意

前回の講義の理解度を確かめるために、毎回小テストを実施する。そのため、前回学んだ部分の復習を必ず実施する。また、講義中にグループワークを行うため、遅刻や欠席をしないよう注意すること。

■評価方法

試験70%、出席状況・受講態度10%、小テスト20%

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

印刷資料等

科目名	予防介護演習			担当教員 (単位認定者)	今井 あゆみ	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

健康管理士一般指導員に必要な正しい知識を身につけ、指導やアドバイスの方法について学ぶ。

■授業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防、指導方法について学ぶ。 心の健康管理、栄養学、環境問題等について学び、指導やアドバイスの方法を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	栄養と健康/栄養素と食事摂取基準/代謝のしくみ テキスト4 (pp1-59)	栄養の基礎について理解する。
第17回	年代別の健康/病気と健康 テキスト4 (pp60-125)	年代別での違いや栄養と病気の関連について理解する。
第18回	食育/食の安全性 テキスト4 (pp126-162)	職における安全性等について理解する。
第19回	人体と環境/物理環境と健康(空気へ気圧条件) テキスト5 (pp1-34)	環境がどのようにして健康に影響するのかについて理解する。
第20回	物理的環境と健康(気象へ悪臭)/環境問題 テキスト5 (pp34-80)	環境問題について理解し、今後の対策について考えることができる。
第21回	健康管理の方法(地域社会・母子) テキスト5 (pp85-113)	地域社会及び母子分野における健康管理について理解する。
第22回	健康管理の方法(学校・職場・高齢者) テキスト5 (pp114-158)	学校、職場及び高齢者分野での健康管理について理解する。
第23回	介護法/薬剤学/東洋医学 テキスト6 (pp1-58)	各分野における健康との関わりについて理解する。
第24回	運動と健康 テキスト6 (pp59-131)	健康と運動との関連について理解する。
第25回	地域での健康管理について①	自身の地域における健康活動について調査する。
第26回	地域での健康管理について②	自身の地域における健康活動について調査する。
第27回	発表1	自身が調べたことについて発表し、理解度へつなげる。
第28回	発表2	自身が調べたことについて発表し、理解度へつなげる。
第29回	健康管理について	今まで学んだ部分の理解度を確かめる。
第30回	総復習	健康管理士一般指導員における知識について確認する。

■履修上の注意

<p>前回の講義の理解度を確かめるために、毎回小テストを実施する。そのため、前回学んだ部分の復習を必ず実施する。また、講義中にグループワークを行うため、遅刻や欠席をしないよう注意すること。</p>
--

■評価方法

試験70%、出席状況・受講態度10%、小テスト20%

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

印刷資料等

科目名	相談援助の基盤と専門職		担当教員 (単位認定者)	松永 尚樹	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士や他職種の役割を学び、相談援助の概念や包括的な援助、他職種連携について理解することを本講義の目標とする。

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため、社会福祉士の国家試験を受験することを想定し、国家試験に関わる内容も授業に取り入れて行く。

■授業の概要

社会福祉士の役割と意義、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの形成過程を時代背景を体系的に学ぶ。総合的かつ包括的な相談援助について、講義を中心として授業を進める。

单元ごとに小テストを行う。

基本的に教科書及び配布プリントをもとに、授業を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を準備し、目を通しておく。 シラバスを読んだ上で出席すること。
第2回	社会福祉士の役割と意義①(社会福祉士及び介護福祉士法)	社会福祉士の役割と意義について教科書を読む。小六法を見ておくこと。
第3回	社会福祉士の役割と意義②(他職種との連携 訪問介護を含む)	社会福祉士の役割と意義について教科書を読む。他職種について調べる。
第4回	社会福祉士の役割と意義③(現代社会における地域生活と実際)	社会福祉士の役割と意義について教科書を読む。【小テスト】
第5回	相談援助の定義と構成要素①(ソーシャルワークの概念)	相談援助の定義と構成要素について教科書を読む。
第6回	相談援助の定義と構成要素②(ソーシャルワークの定義)	相談援助の定義と構成要素について教科書を読む。ソーシャルワークの定義に目を通しておく。
第7回	相談援助の定義と構成要素③(クライアントシステムとニーズ)	相談援助の定義と構成要素について教科書を読む。
第8回	相談援助の定義と構成要素④(社会資源)	相談援助の定義と構成要素について教科書を読む。【小テスト】
第9回	相談援助の形成過程①(ソーシャルワークの源流)	相談援助の形成過程について教科書を読む。
第10回	相談援助の形成過程②(ソーシャルワークの発展期)	相談援助の形成過程について教科書を読む。
第11回	相談援助の形成過程③(ソーシャルワークの展開期)	相談援助の形成過程について教科書を読む。【小テスト】
第12回	相談援助の理念①(ソーシャルワーカーと価値)	相談援助の理念について教科書を読む。ソーシャルワーカーと価値について考える。
第13回	相談援助の理念②(ソーシャルワーク実践と価値)	相談援助の理念について教科書を読む。
第14回	相談援助の理念③(ソーシャルワーク実践と権利擁護)	相談援助の理念について教科書を読む。権利擁護について調べること。【小テスト】
第15回	まとめ	小テストを振り返る。

■履修上の注意

(1) 履修上の注意 遅刻・欠席厳禁 提出物等の不届厳守

(2) 学習上の助言 社会福祉専門職として包括的かつ総合的な援助に必要な実践力の習得するために、自ら考え、理論を知識として吸収することが重要である。

(3) 予備知識や技能 介護福祉士の科目とも深い関係がある。介護福祉士と社会福祉士の専門職としての共通点などを復習することが望まれる。

■評価方法

定期試験 40% 单元ごと的小テスト 20% 出席状況(リアクションペーパー) 30% 受講態度・提出物の提出状況等 10% 单元ごと的小テストに理由もなく休んだ場合はその小テストは0点として評価するので注意してもらいたい。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職 (2010 中央法規出版)

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	相談援助の基盤と専門職			担当教員 (単位認定者)	松永 尚樹	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士や他職種の役割を学び、相談援助の概念や包括的な援助、他職種連携について理解することを本講義の目標とする。

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため、社会福祉士の国家試験を受験することを想定し、国家試験に関わる内容も授業に取り入れて行く。

■授業の概要

社会福祉士の役割と意義、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの形成過程を時代背景を体系的に学ぶ。総合的かつ包括的な相談援助について、講義を中心として授業を進める。

单元ごとに小テストを行う。

基本的に教科書及び配布プリントをもとに、授業を行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	専門職倫理と倫理的ジレンマ①	専門職倫理と倫理的ジレンマについて教科書を読む。
第17回	専門職倫理と倫理的ジレンマ②	専門職倫理と倫理的ジレンマについて教科書を読む。
第18回	専門職倫理と倫理的ジレンマ③	専門職倫理と倫理的ジレンマについて教科書を読む。【小テスト】
第19回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	総合的かつ包括的な相談援助の全体像について教科書を読む。
第20回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像②	総合的かつ包括的な相談援助の全体像について教科書を読む。
第21回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像③	総合的かつ包括的な相談援助の全体像について教科書を読む。
第22回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論①	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論について教科書を読む。【小テスト】
第23回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論②	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論について教科書を読む。
第24回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	相談援助にかかる専門職の概念と範囲について教科書を読む。
第25回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②	相談援助にかかる専門職の概念と範囲について教科書を読む。
第26回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲③	相談援助にかかる専門職の概念と範囲について教科書を読む。【小テスト】
第27回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能①	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能について教科書を読む。
第28回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能について教科書を読む。
第29回	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能③	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能について教科書を読む。【小テスト】
第30回	まとめ	小テストを振り返る。

■履修上の注意

(1) 履修上の注意 遅刻・欠席厳禁 提出物等の不届厳守

(2) 学習上の助言 社会福祉専門職として包括的かつ総合的な援助に必要な実践力の習得するために、自ら考え、理論を知識として吸収することが重要である。

(3) 予備知識や技能 介護福祉士の科目とも深い関係がある。介護福祉士と社会福祉士の専門職としての共通点などを復習することが望まれる。

■評価方法

定期試験 40% 单元ごと的小テスト 20% 出席状況(リアクションペーパー) 30% 受講態度・提出物の提出状況等 10% 单元ごと的小テストに理由もなく休んだ場合はその小テストは0点として評価するので注意してもらいたい。

■教科書

新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職 (2010 中央法規出版)

■参考書

社会福祉小六法 社会福祉用語辞典(出版社は指定しないが、最新版のもの)

科目名	社会保障			担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉専門職に従事する者として求められる社会保障に関する知識を習得することを到達目標とする。また社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを到達目標とする。

■授業の概要

まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行う。さらに社会福祉士の社会保障の過去問を中心に問題演習も行う。問題演習では具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の概要について学習することも試みる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	教科書の通読
第2回	国民年金(1)	国民年金の概要
第3回	国民年金(2)	国民年金の内容
第4回	厚生年金	厚生年金の内容
第5回	医療保険	医療保険の内容
第6回	まとめ	配布プリント
第7回	演習問題	配布プリント
第8回	演習問題解説	演習問題の復習
第9回	介護保険(1)	介護保険の概要
第10回	介護保険(2)	介護保険の内容
第11回	障害者と社会保障制度(1)	障害者と雇用
第12回	社会保障の統計	ホームページのデータ
第13回	まとめ	配布プリント
第14回	演習問題	配布プリント
第15回	演習問題解説	演習問題の復習

■履修上の注意

必要とされる予備知識は、日本の保険制度の全体の概要についての事前の知識である。社会保障は社会福祉士の試験の中でも重要な科目であり、かつ難解な科目であるため、苦手科目にしないことが社会福祉士の受験対策上重要である。社会保障は具体的な事例を想定しながら、制度を学習すると理解しやすく、かつ暗記が容易となる。復習する際には、各自で具体的な事例を想定しながら学習することを求める。

本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会保障」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	社会保障			担当教員 (単位認定者)	白石 憲一	単位数	4
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

福祉専門職に従事する者として求められる社会保障に関する知識を習得することを到達目標とする。また社会福祉士の受験科目でもあるため、合格水準に達することを到達目標とする。

■授業の概要

まず社会保障の全体像について学習し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について学習する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行う。さらに社会福祉士の社会保障の過去問を中心に問題演習も行う。問題演習では具体的な事例を想定しながら、社会保障制度の概要について学習することも試みる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	科目オリエンテーション	教科書の通読
第17回	生活保護制度(1)	生活保護制度の概要
第18回	生活保護制度(2)	生活保護制度の内容
第19回	障害者と社会保障制度(2)	障害者自立支援制度
第20回	雇用保険	雇用保険の内容
第21回	まとめ	配布プリント
第22回	演習問題	配布プリント
第23回	演習問題解説	演習問題の復習
第24回	労働者災害補償保険	労働者災害補償保険の内容
第25回	諸外国の社会保障制度	諸外国の社会保障制度の実態
第26回	介護保険とその実態(1)	社会福祉士の過去問題
第27回	介護保険とその実態(2)	人間科学について調べる
第28回	まとめ	配布プリント
第29回	演習問題	配布プリント
第30回	演習問題解説	演習問題の復習

■履修上の注意

必要とされる予備知識は、日本の保険制度の全体の概要についての事前の知識である。社会保障は社会福祉士の試験の中でも重要な科目であり、かつ難解な科目であるため、苦手科目にしないことが社会福祉士の受験対策上重要である。社会保障は具体的な事例を想定しながら、制度を学習すると理解しやすく、かつ暗記が容易となる。復習する際には、各自で具体的な事例を想定しながら学習することを求める。

本講義では出席を重視する。また積極的に授業に参加すること。毎回小テストを実施する。

■評価方法

試験(60%)、授業中の課題(40%)を総合して評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会「社会保障」中央法規出版株式会社

■参考書

授業の中で案内する。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		担当教員 (単位認定者)	橋本 好広	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童福祉の歴史と展開を中心に、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

児童福祉の歴史から始まり、その意義と課題を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	指定テキストの目次を読んでおく。年間計画を立てる。
第2回	少子高齢社会と次世代育成支援	少子高齢化対策の流れを理解する。
第3回	現代社会と子ども家庭の問題	子育て環境の変化を理解する。
第4回	子どもの育ち、子育てのニーズ	子どもに対する社会の価値観の変化を知る。
第5回	子どものための福祉の原理	子ども、児童という用語の定義を理解する。
第6回	子ども家庭福祉の理念	子ども家庭福祉の定義を理解する。
第7回	子どもと家庭の権利保障	子どもと家庭の権利について理解する。
第8回	児童福祉の発展	児童福祉の歴史を学ぶ。
第9回	子ども家庭福祉の法体系	子ども家庭福祉の法体系を理解する。
第10回	子ども家庭福祉の実施体制	子ども家庭福祉の実施体制を理解する。
第11回	子ども家庭福祉の財政	子ども家庭福祉の財政状況を理解する。
第12回	子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉に関係する専門職について理解する。
第13回	苦情解決と権利擁護	苦情解決と権利擁護システムについて理解する。
第14回	母子家庭	母子家庭の現状について理解する。
第15回	前期まとめ	中間テストを行う

■履修上の注意

児童福祉及び児童・家庭に対する支援は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を70%、ミニテストを20%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉』新・社会福祉士養成講座、中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度		担当教員 (単位認定者)	橋本 好広	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修	選択
					一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

児童福祉の歴史と展開を中心に、社会福祉士国家試験等の合格点に達することができる程度の知識をつける。

■授業の概要

児童福祉の歴史から始まり、その意義と課題を基礎用語から1年をかけて少しずつ理解していく。理解の補助のために可能な限りレジュメを配布するので復習や予習に役立ててもらいたい。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	障害・難病のある子どもと家庭への支援	障害児・難病児童や家庭に対する支援を理解する。
第17回	児童健全育成	児童の健全育成について理解する。
第18回	保育	保育制度について理解する。
第19回	子育て支援	子育て支援システムについて理解する。
第20回	ひとり親家庭の福祉	ひとり親家庭の現状と支援について理解する。
第21回	児童の社会的擁護サービス	児童に対する社会的擁護サービスについて理解する。
第22回	非行児童・情緒障害児への支援	非行児童・情緒障害児への支援について理解する。
第23回	児童虐待対策1	児童虐待の現状について理解する。
第24回	児童虐待対策2	児童虐待の対策について理解する。
第25回	子どもと家庭に関わる女性福祉	子どもと家庭にかかわる女性への支援について理解する。
第26回	子ども家庭への相談援助活動	子ども家庭への相談援助活動について理解する。
第27回	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動	施設ケアについて理解する。
第28回	地域援助活動とネットワーク	地域支援活動について理解する。
第29回	後期のまとめ1	基本用語のミニテスト
第30回	後期のまとめ2	期末テスト

■履修上の注意

児童福祉及び児童・家庭に対する支援は広範な内容であり、理解するためには基礎知識の積み重ねが重要となる。毎回出席は言うまでもない。講義中に紹介した文献等は後で必ず読んだり、見たりしておくこと。また、社会福祉に関係した新聞報道等のニュースは常に見ておくこと。必要に応じて理解補助のための資料・プリントを配布する。第2回以降毎回終了時にミニテストを実施。

■評価方法

出席点(受講態度含む)を10%、期末試験を70%、ミニテストを20%とし、総合的に評価する。遅刻3回を欠席1回とする。年間欠席回数11回以上は単位を与えない。私語等は厳禁。指示に従わないものは退出させる。

■教科書

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉』新・社会福祉士養成講座、中央法規

■参考書

講義の中で適宜紹介する。

科目名	社会福祉特講Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	1
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①社会福祉士指定科目の概要をつかめる。
- ②社会福祉士指定科目の基礎を理解できる。
- ③社会福祉士国家試験に対する理解ができる。

■授業の概要

大学に編入し社会福祉士を目指す福祉総合コースの学生に対して、社会福祉士指定科目の幅広い範囲を概説的に指導することを目的とし、学び方の基礎を身につけることも視野に入れている。毎時間確認テストを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	社会福祉士指定科目を調べておくこと。
第2回	社会理論と社会システム①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第3回	社会理論と社会システム②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第4回	現代社会と福祉①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第5回	現代社会と福祉②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第6回	相談援助の基盤と専門職①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第7回	相談援助の基盤と専門職②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第8回	相談援助の理論と方法①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第9回	相談援助の理論と方法②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第10回	福祉行財政と福祉計画①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第11回	福祉行財政と福祉計画②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第12回	福祉サービスの組織と経営①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第13回	福祉サービスの組織と経営②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第14回	社会保障①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第15回	前期のまとめ	前期で学んだことを復習しておくこと。

■履修上の注意

遅刻3回で1回の欠席として扱う。私語は厳禁。

■評価方法

定期試験70%、授業態度及び確認テスト30%

■教科書

クエスチョンバンク「社会福祉士(最新版)」メディックメディア

■参考書

社会福祉用語辞典(出版社は問わない)

科目名	社会福祉特講Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①社会福祉士指定科目の概要をつかめる。
- ②社会福祉士指定科目の基礎を理解できる。
- ③社会福祉士国家試験に対する理解ができる。

■授業の概要

大学に編入し社会福祉士を目指す福祉総合コースの学生に対して、社会福祉士指定科目の幅広い範囲を概説的に指導することを目的とし、学び方の基礎を身につけることも視野に入れている。毎時間確認テストを行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	オリエンテーション	前期で学んだことを復習しておくこと。
第17回	社会保障②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第18回	高齢者に対する支援と介護保険①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第19回	高齢者に対する支援と介護保険②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第20回	障害者に対する支援と障害者自立支援法①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第21回	障害者に対する支援と障害者自立支援法②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第22回	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第23回	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第24回	低所得者に対する支援と生活保護制度①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第25回	低所得者に対する支援と生活保護制度②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第26回	権利擁護と成年後見制度①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第27回	権利擁護と成年後見制度②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第28回	更生保護制度①	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第29回	更生保護制度②	指定範囲の問題を予め解くこと。わからない用語などは調べておくこと。
第30回	後期のまとめ	後期で学んだことを復習しておくこと。

■履修上の注意

遅刻3回で1回の欠席として扱う。私語は厳禁。

■評価方法

定期試験70%、授業態度及び確認テスト30%

■教科書

クエスチョンバンク「社会福祉士(最新版)」メディックメディア

■参考書

社会福祉用語辞典(出版社は問わない)

科目名	社会福祉特講Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	1
対象学年	2	授業方法	(講義)・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士指定科目の基礎を理解できる

■授業の概要

編入後の学びが円滑に進むように位置づける

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	社会福祉士の国家資格について理解する
第2回	社会理論と社会システム①	社会理論と社会システムについて予習・復習する
第3回	社会理論と社会システム②	社会理論と社会システムについて予習・復習する
第4回	現代社会と福祉①	現代社会と福祉について予習・復習する
第5回	現代社会と福祉②	現代社会と福祉について予習・復習する
第6回	相談援助の基盤と専門職①	相談援助の基盤と専門職について予習・復習する
第7回	相談援助の基盤と専門職②	相談援助の基盤と専門職について予習・復習する
第8回	相談援助の理論と方法①	相談援助の理論と方法について予習・復習する
第9回	相談援助の理論と方法②	相談援助の理論と方法について予習・復習する
第10回	地域福祉の理論と方法①	地域福祉の理論と方法について予習・復習する
第11回	地域福祉の理論と方法②	地域福祉の理論と方法について予習・復習する
第12回	福祉行財政と福祉計画①	福祉行財政と福祉計画について予習・復習する
第13回	福祉行財政と福祉計画②	福祉行財政と福祉計画について予習・復習する
第14回	福祉サービスの組織と経営①	福祉サービスの組織と経営について予習・復習する
第15回	福祉サービスの組織と経営②	福祉サービスの組織と経営について予習・復習する

■履修上の注意

社会福祉士国家試験の対策講義のため、必ず予習・復習を行う また、毎回小テストを実施する
--

■評価方法

試験60%、出席状況・受講態度20%、小テスト20%

■教科書

クエスチョンバンク「社会福祉士2013」メディックメディア

■参考書

授業の中で適宜紹介する

科目名	社会福祉特講Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	川口 真実	単位数	1
対象学年	2	授業方法	(講義)・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会福祉士指定科目の基礎を理解できる

■授業の概要

編入後の学びが円滑に進むように位置づける

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	社会保障①	社会保障について予習・復習する
第17回	社会保障②	社会保障について予習・復習する
第18回	高齢者に対する支援と介護保険①	高齢者に対する支援と介護保険について予習・復習する
第19回	高齢者に対する支援と介護保険②	高齢者に対する支援と介護保険について予習・復習する
第20回	障害者に対する支援と障害者自立支援法①	障害者に対する支援と障害者自立支援法について予習・復習する
第21回	障害者に対する支援と障害者自立支援法②	障害者に対する支援と障害者自立支援法について予習・復習する
第22回	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度①	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度について予習・復習する
第23回	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度②	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度について予習・復習する
第24回	低所得者に対する支援と生活保護制度①	低所得者に対する支援と生活保護制度について予習・復習する
第25回	低所得者に対する支援と生活保護制度②	低所得者に対する支援と生活保護制度について予習・復習する
第26回	権利擁護と成年後見人制度①	権利擁護と成年後見人制度について予習・復習する
第27回	権利擁護と成年後見人制度②	権利擁護と成年後見人制度について予習・復習する
第28回	更生保護法①	更生保護法について予習・復習する
第29回	更生保護法②	更生保護法について予習・復習する
第30回	まとめ	全範囲について予習・復習する

■履修上の注意

社会福祉士国家試験の対策講義のため、必ず予習・復習を行う
また、毎回小テストを実施する

■評価方法

試験60%、出席状況・受講態度20%、小テスト20%

■教科書

クエスチョンバンク「社会福祉士2012」メディックメディア

■参考書

授業の中で適宜紹介する

科目名	レクリエーション活動援助法			担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

レクリエーション活動の社会的意義の理解を図り、福祉現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術の体験を通し福祉社会の支援者として、良好な人間関係を構築できる能力を身につける。

■授業の概要

レクリエーション活動援助者として必要な、理論と技術の習得のため、レクリエーション・ワークの演習を通し、レクリエーションの広義な意味を理解し基礎的な技術を学ぶことを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業の進め方及び自己紹介
第2回	コミュニケーション・ワーク ホスピタリティ・トレーニング	良好な人間交流術を考える
第3回	序章 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割	福祉現場でのレクリエーション活動の位置づけを理解する
第4回	生活のレクリの「良循環」	楽しく生きがいの感じられる生活のサービスの向上を考える
第5回	第1章 レクリエーションのもつ意味	レクリエーションの生いたち、歴史を考える
第6回	福祉領域でのレクリエーションの意味	誰もが遊ぶ権利をもっていることを理解する
第7回	第2章 レクリエーションと社会福祉	制度面の変化のなかでのレクリエーションの役割について考える
第8回	生活とレクリエーションの関係	日常生活の三領域の望ましい援助について考える
第9回	第3章 レクリエーションの利用者と援助者	援助する者の基本的スタンスを確認し理解する
第10回	個別性とグループ活用	グループや家族の活用のシステム整備を考える
第11回	ソーシャルグループ・ワークとの関係	家族介護教室や閉じこもり予防教室とレク活動との関連を理解する
第12回	地域支援事業の展開	地域で実施される各種事業について考える
第13回	グループ・ワーク（閉じこもり予防プログラム）の立案	グループで協力し合いプログラムづくりを経験する
第14回	プログラム発表	他グループの発表を真摯な態度で聴き、考える
第15回	まとめ(評価・ふりかえり)	第2回から第14回までの復習

■履修上の注意

講義は教科書に沿って行うが、補足など多面的に進め、一方的な講義でなくグループ・ワークを取り入れ、自発的な学習を進めたい。
真摯な態度での受講を求めます。

■評価方法

試験70% 学習態度20% 課題提出10%を総合して評価する(遅刻3回を欠席1回とカウントする)

■教科書

新版 介護福祉士養成講座6第3版 レクリエーション活動援助法 中央法規

■参考書

必要に応じ適宜紹介する。

科目名	レクリエーション活動援助法			担当教員 (単位認定者)	高橋 良枝	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

レクリエーション活動の社会的意義の理解を図り、福祉現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術の体験を通し福祉社会の支援者として、良好な人間関係を構築できる能力を身につける。

■授業の概要

レクリエーション活動援助者として必要な、理論と技術の習得のため、レクリエーション・ワークの演習を通し、レクリエーションの広義な意味を理解し基礎的な技術を学ぶことを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	第4章 レクリエーション計画の作成と実行・評価	マズローの欲求5段階説を理解する
第17回	利用者のレクリエーション・ニーズの把握(アセスメント)	アセスメントの三つの形態について考える
第18回	レクリエーション計画の方法と実際	レクリエーション援助課程(A-PIE)プロセスを理解する
第19回	第5章 レクリエーション援助活動の実際	組織と環境づくりと地域資源の活用を考える
第20回	楽しく安全なレクリエーションの実現	計画段階での安全管理の必要性を考える
第21回	危機管理を視野に入れた活動計画	危機管理体制の確立を図り研修の必要性を考える
第22回	第6章 レクリエーション援助者の役割	援助者はどのようなポリシーをもって援助するべきかを考える
第23回	援助者の具体的業務	専門職としてのレクリエーション援助の業務内容を考える
第24回	第7章 治療的意味合いを含めたレクリエーション	治療・リハビリ現場で活用するレクリエーション療法を理解する
第25回	セラピューティック・レクリエーション	利用者のレクリエーション活動自立を目指すことを考える
第26回	第8章 レクリエーション援助の展開例(高齢者援助)	事例学習を通し最近の高齢者の傾向を考える
第27回	レクリエーション援助の展開例(障害者援助)	レク活動を通し社会参加することで地域との交流を深めるよう考える
第28回	福祉レクリエーション財とアレンジの展開	レクリエーションの生活化の大切さを考える
第29回	アレンジの実際・発表	学んだことを生かし対象に合ったアレンジに取り組む
第30回	一年間のまとめ(評価・ふりかえり)	一年間の復習

■履修上の注意

講義は教科書に沿って行うが、補足など多面的に進め、一方的な講義でなくグループ・ワークを取り入れ、自発的な学習を進めたい。
真摯な態度での受講を求めます。

■評価方法

試験70% 学習態度20% 課題提出10%を総合して評価する(遅刻3回を欠席1回とカウントする)

■教科書

新版 介護福祉士養成講座6第3版 レクリエーション活動援助法 中央法規

■参考書

必要に応じ適宜紹介する。

科目名	介護福祉特講 I		担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	1
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①介護福祉士指定科目の概要をつかめる。
- ②介護福祉士指定科目の基礎を理解できる。
- ③介護福祉士国家試験及び卒業時共通試験に合格する実力が身につく。

■授業の概要

この介護福祉特講 I は、介護福祉分野の学びをより確実なものにするために、介護福祉士指定科目の広い範囲を概説的に指導する。このことで介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける授業である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	社会と制度 ①	授業時に指示
第2回	社会と制度 ②	授業時に指示
第3回	社会と制度 ③	授業時に指示
第4回	社会と制度 ④	授業時に指示
第5回	社会と制度 ⑤	授業時に指示
第6回	社会と制度 ⑥	授業時に指示
第7回	社会と制度 ⑦	授業時に指示
第8回	社会と制度 ⑧	授業時に指示
第9回	社会と制度 ⑨	授業時に指示
第10回	社会と制度 ⑩	授業時に指示
第11回	加齢による変化 ①	授業時に指示
第12回	加齢による変化 ②	授業時に指示
第13回	加齢による変化 ③	授業時に指示
第14回	加齢による変化 ④	授業時に指示
第15回	加齢による変化 ⑤	授業時に指示

■履修上の注意

介護福祉士国家試験を合格する実力をみにつけるための授業なので、毎回の予習と復習を確実に行うこと。

■評価方法

定期試験100%

■教科書

介護スタッフ・介護学生のための「なぜ?どうして?①～⑤」メディックメディア

■参考書

クエスチョンバンク「介護福祉士2011」メディックメディア

科目名	介護福祉特講 I			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	1
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①介護福祉士指定科目の概要をつかめる。
 ②介護福祉士指定科目の基礎を理解できる。
 ③介護福祉士国家試験及び卒業時共通試験に合格する実力が身につく。

■授業の概要

この介護福祉特講 I は、介護福祉分野の学びをより確実なものにするために、介護福祉士指定科目の広い範囲を概説的に指導する。このことで介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける授業である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	加齢による変化 ⑥	授業時に指示
第17回	加齢による変化 ⑦	授業時に指示
第18回	加齢による変化 ⑧	授業時に指示
第19回	加齢による変化 ⑨	授業時に指示
第20回	加齢による変化 ⑩	授業時に指示
第21回	障害と介護 ①	授業時に指示
第22回	障害と介護 ②	授業時に指示
第23回	障害と介護 ③	授業時に指示
第24回	障害と介護 ④	授業時に指示
第25回	障害と介護 ⑤	授業時に指示
第26回	障害と介護 ⑥	授業時に指示
第27回	障害と介護 ⑦	授業時に指示
第28回	障害と介護 ⑧	授業時に指示
第29回	障害と介護 ⑨	授業時に指示
第30回	障害と介護 ⑩	授業時に指示

■履修上の注意

介護福祉士国家試験を合格する実力をみにつけるための授業なので、毎回の予習と復習を確実に行うこと。

■評価方法

定期試験100%

■教科書

介護スタッフ・介護学生のための「なぜ?どうして?①～⑤」メディックメディア

■参考書

クエスチョンバンク「介護福祉士2011」メディックメディア

科目名	介護福祉特講Ⅱ		担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	1
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①介護福祉士指定科目の概要を理解する。
②介護福祉士国家試験(卒業時共通試験)に合格できる実力を身につける。

■授業の概要

介護福祉特講Ⅰに引き続き、介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける授業である。特に後期においては卒業時共通試験に対する試験対策に力点を置く。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	疾病の理解 ①	授業時に指示
第2回	疾病の理解 ②	授業時に指示
第3回	疾病の理解 ③	授業時に指示
第4回	疾病の理解 ④	授業時に指示
第5回	疾病の理解 ⑤	授業時に指示
第6回	疾病の理解 ⑥	授業時に指示
第7回	疾病の理解 ⑦	授業時に指示
第8回	疾病の理解 ⑧	授業時に指示
第9回	疾病の理解 ⑨	授業時に指示
第10回	疾病の理解 ⑩	授業時に指示
第11回	認知症と介護 ①	授業時に指示
第12回	認知症と介護 ②	授業時に指示
第13回	認知症と介護 ③	授業時に指示
第14回	認知症と介護 ④	授業時に指示
第15回	認知症と介護 ⑤	授業時に指示

■履修上の注意

介護福祉士国家試験を合格する実力を身につけるための授業なので、毎回の予習と復習を確実に行うこと。

■評価方法

定期試験100%

■教科書

介護スタッフ・介護学生のための「なぜ?どうして?①～⑤」メディックメディア

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	介護福祉特講Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	1
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①介護福祉士指定科目の概要を理解する。
 ②介護福祉士国家試験(卒業時共通試験)に合格できる実力を身につける。

■授業の概要

介護福祉特講Ⅰに引き続き、介護福祉士指定科目、国家試験及び卒業時共通試験に対する学習支援として位置付ける授業である。特に後期においては卒業時共通試験に対する試験対策に力点を置く。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	認知症と介護 ⑥	授業時に指示
第17回	認知症と介護 ⑦	授業時に指示
第18回	認知症と介護 ⑧	授業時に指示
第19回	認知症と介護 ⑨	授業時に指示
第20回	認知症と介護 ⑩	授業時に指示
第21回	小テスト ①	授業時に指示
第22回	小テスト ②	授業時に指示
第23回	小テスト ③	授業時に指示
第24回	小テスト ④	授業時に指示
第25回	小テスト ⑤	授業時に指示
第26回	小テスト ⑥	授業時に指示
第27回	小テスト ⑦	授業時に指示
第28回	小テスト ⑧	授業時に指示
第29回	小テスト ⑨	授業時に指示
第30回	小テスト ⑩	授業時に指示

■履修上の注意

介護福祉士国家試験を合格する実力を身につけるための授業なので、毎回の予習と復習を確実に行うこと。

■評価方法

定期試験100%

■教科書

介護スタッフ・介護学生のための「なぜ?どうして?①～⑤」メディックメディア

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

短期大学生として見つけるべき通念上の知識・技術（学士力）を身につけられる。

■授業の概要

演習の中でガイダンスやオリエンテーションを経てプレゼンテーションやそれにかかわる調査方法などの実践を行う。また、専門分野の講師や卒業生の講話を講座形式でマナーや一般常識（基礎学力テスト、日本語能力テスト）、介護福祉士の知識を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション	授業時に指示
第2回	図書館利用ガイダンス	授業時に指示
第3回	ボランティアについて	授業時に指示
第4回	環境美化活動について	授業時に指示
第5回	建学の精神について	授業時に指示
第6回	介護福祉士の役割について①	授業時に指示
第7回	介護福祉士の役割について②	授業時に指示
第8回	レポート、論文の書き方①	授業時に指示
第9回	レポート、論文の書き方②	授業時に指示
第10回	レポート、論文の書き方③	授業時に指示
第11回	プレゼンテーション①	授業時に指示
第12回	プレゼンテーション②	授業時に指示
第13回	プレゼンテーション③	授業時に指示
第14回	プレゼンテーション④	授業時に指示
第15回	プレゼンテーション⑤	授業時に指示

■履修上の注意

短期大学生、介護福祉士を目指す学生として、自身の考えや意見を明確に提示できる能力を身につけて、群馬医療福祉大学短期大学部の学生としての姿勢を身につける。

■評価方法

提示された課題の提出60%、授業態度20%、出欠20%の結果により評定を行なう。

■教科書

授業中に示す資料等

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	基礎演習			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

短期大学生として見つけるべき通念上の知識・技術（学士力）を身につけられる。

■授業の概要

演習の中でガイダンスやオリエンテーションを経てプレゼンテーションやそれにかかわる調査方法などの実践を行う。また、専門分野の講師や卒業生の講話を講座形式でマナーや一般常識（基礎学力テスト、日本語能力テスト）、介護福祉士の知識を身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション	授業時に指示
第17回	トレーニングテスト（一般常識①）	授業時に指示
第18回	就職ガイダンス① キャリアサポートセンター	授業時に指示
第19回	介護福祉活動の理解①	授業時に指示
第20回	トレーニングテスト（一般常識②）	授業時に指示
第21回	マナー講座①	授業時に指示
第22回	介護福祉活動の理解②	授業時に指示
第23回	施設職員（施設長、介護リーダー）講話	授業時に指示
第24回	トレーニングテスト（一般常識③）	授業時に指示
第25回	マナー講座②	授業時に指示
第26回	トレーニングテスト（日本語能力テスト）	授業時に指示
第27回	就職ガイダンス② 卒業生講話	授業時に指示
第28回	マナー講座③	授業時に指示
第29回	トレーニングテスト（介護福祉士国家試験模擬テスト）	授業時に指示
第30回	就職ガイダンス（進路希望調査、内定者体験談）	授業時に指示

■履修上の注意

短期大学生、介護福祉士を目指す学生として、自身の考えや意見を明確に提示できる能力を身につけて、群馬医療福祉大学短期大学部の学生としての姿勢を身につける。

■評価方法

提示された課題の提出60%、授業態度20%、出欠20%の結果により評定を行なう。

■教科書

授業中に示す資料等

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	総合演習			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

仁を念頭に介護福祉士の養成を目指し併せて専門職としての責任としての「知行合一」の精神を身につけさせることを重点に置く。また長期間にわたる実習を通して、学生自身の中の介護福祉士間を醸成させ、また社会人としてのあり方を学ぶことにより、希望の進路を進むことが出来るように指導する。加えてゼミでの演習を行うことにより自らの知見を広げより幅の広い視野をもつものとして社会に貢献できる人材となることを目的とする。

■授業の概要

「建学の精神」を深め、自分の介護観、人生観に影響することを学ぶ。そして人間としての基礎教養と問題解決能力を養えるよう、指導する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション	授業時に指示
第2回	クラスの役員交代 クラス目標、方針の確認	授業時に指示
第3回	建学の精神と実践教育プログラム ボランティア活動、環境美化活動、礼儀挨拶の関係について考える。雑巾の製作。	授業時に指示
第4回	中田勝先生の特別講演 「伝統の建学精神」	授業時に指示
第5回	建学の精神と実践教育プログラム 「咸有一徳」の読みあわせと実践	授業時に指示
第6回	建学の精神と実践教育プログラム 「咸有一徳」の読みあわせと実践	授業時に指示
第7回	就職一般常識トレーニング	授業時に指示
第8回	親睦体育大会	授業時に指示
第9回	三者面談について	授業時に指示
第10回	実習事前指導 施設の現場から、卒業生よりの講和	授業時に指示
第11回	実習事前指導 個人票、実習計画書の作成	授業時に指示
第12回	実習事前指導 実習関連記録の作成、確認	授業時に指示
第13回	実習事前指導 服装、態度、挨拶の確認	授業時に指示
第14回	実習事前指導 実習中のバリエーションの発生時の対応について	授業時に指示
第15回	総括 総括レポート	授業時に指示

■履修上の注意

欠席5回で受験資格を与えない。遅刻は3回で1回の欠席として扱う。

■評価方法

出席10% 課題レポート50% 授業参加40% これらを総合的に評価し単位認定する。

■教科書

授業時に示す資料等

■参考書

鈴木利定 中田勝「咸有一徳」中央法規

科目名	総合演習			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

仁を念頭に介護福祉士の養成を目指し併せて専門職としての責任としての「知行合一」の精神を身につけさせることを重点に置く。また長期間にわたる実習を通して、学生自身の中の介護福祉士間を醸成させ、また社会人としてのあり方を学ぶことにより、希望の進路を進むことが出来るように指導する。加えてゼミでの演習を行うことにより自らの知見を広げより幅の広い視野をもつものとして社会に貢献できる人材となることを目的とする。

■授業の概要

「建学の精神」を深め、自分の介護観、人生観に影響することを学ぶ。そして人間としての基礎教養と問題解決能力を養えるよう、指導する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	中田勝先生特別講演 「伝統の建学精神」	授業時に指示
第17回	就職一般常識トレーニング	授業時に指示
第18回	建学の精神と実践教育プログラム 実習事例を元にグループワーク	授業時に指示
第19回	建学の精神と実践教育プログラム 実習事例を元にグループワーク	授業時に指示
第20回	就職用模擬テスト	授業時に指示
第21回	事例研究準備	授業時に指示
第22回	事例研究発表会1.2年合同	授業時に指示
第23回	事例研究発表会1.2年合同	授業時に指示
第24回	模擬テスト	授業時に指示
第25回	建学の精神と実践教育プログラム 「咸有一徳」の読みあわせと実践	授業時に指示
第26回	模擬テスト	授業時に指示
第27回	建学の精神と実践教育プログラム 「咸有一徳」の読みあわせと実践	授業時に指示
第28回	卒業に向けて 介護福祉士登録、台帳作成、諸手続き	授業時に指示
第29回	卒業に向けて 卒業時共通試験について	授業時に指示
第30回	総括 総括レポート	授業時に指示

■履修上の注意

欠席5回で受験資格を与えない。遅刻は3回で1回の欠席として扱う。

■評価方法

出席10% 課題レポート50% 授業参加40% これらを総合的に評価し単位認定する。

■教科書

授業時に示す資料等

■参考書

鈴木利定 中田勝「咸有一徳」中央法規

科目名	ボランティア活動Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

目標としては、介護福祉施設、老人保健施設、ディサービス、グループホーム、等々でのボランティア活動を行うことにより、机上では学ぶことのできない施設の雰囲気や職員の業務内容・利用者とのコミュニケーションなどの体験を通して、本学の建学精神に則り、「心豊かな有為な人材を育てる」ことを目指す。

■授業の概要

介護福祉施設、老人保健施設、ディサービス、グループホーム等々でのボランティア活動をする。継続ボランティア、依頼ボランティア、社会貢献ボランティア活動を行う。その他に、クラス全員で近隣の施設での慰問や清掃等を実施する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	ボランティア・ハンドブック
第2回	建学精神・ボランティア活動とは何か	ボランティア・ハンドブック
第3回	建学精神・ボランティアとは意義と目標	ボランティア・ハンドブック
第4回	建学の精神 中田勝教授	咸有一徳
第5回	継続ボランティアの事前指導	ボランティア・ハンドブック
第6回	地域ボランティア活動について①	ボランティア・ハンドブック
第7回	地域ボランティア活動について②	ボランティア・ハンドブック
第8回	地域ボランティア活動について③	ボランティア・ハンドブック
第9回	地域ボランティア活動について④	ボランティア・ハンドブック
第10回	ボランティアフォーラム・卒業生からのエール	ボランティア・ハンドブック
第11回	校内の環境美化活動	ボランティア・ハンドブック
第12回	障害者スポーツ大会の事前指導①	ボランティア・ハンドブック
第13回	障害者スポーツ大会の事前指導②	ボランティア・ハンドブック
第14回	障害者スポーツ大会の事前指導③	ボランティア・ハンドブック
第15回	建学精神の確認・まとめ	ボランティア・ハンドブック

■履修上の注意

誠意を持って真剣に取り組むこと。個人及び施設の情報については、秘密を厳守すること。

■評価方法

レポート(20%)・ボランティア活動記録表(40%)・授業の参加態度(40%)にて総合的に評価する。基本的には欠席しないこと。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	ボランティア活動I			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	2
対象学年	1	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

目標としては、介護福祉施設、老人保健施設、ディサービス、グループホーム、等々でのボランティア活動を行うことにより、机上では学ぶことのできない施設の雰囲気や職員の業務内容・利用者とのコミュニケーションなどの体験を通して、本学の建学精神に則り、「心豊かな有為な人材を育てる」ことを目指す。

■授業の概要

介護福祉施設、老人保健施設、ディサービス、グループホーム等々でのボランティア活動をする。継続ボランティア、依頼ボランティア、社会貢献ボランティア活動を行う。その他に、クラス全員で近隣の施設での慰問や清掃等を実施する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	建学精神 講義・中田勝教授	咸有一徳
第17回	ボランティア活動記録の記入・確認	ボランティア・ハンドブック
第18回	あそか祭りボランティア事前指導①	ボランティア・ハンドブック
第19回	あそか祭りボランティア事前指導②	ボランティア・ハンドブック
第20回	あそか祭りボランティア事前指導③	ボランティア・ハンドブック
第21回	校内の環境美化活動	ボランティア・ハンドブック
第22回	ボランティアフォーラム	ボランティア・ハンドブック
第23回	地域ボランティア活動について⑤	ボランティア・ハンドブック
第24回	地域ボランティア活動について⑥	ボランティア・ハンドブック
第25回	地域ボランティア活動について⑦	ボランティア・ハンドブック
第26回	地域ボランティア活動について⑧	ボランティア・ハンドブック
第27回	地域ボランティア活動についての学び①	ボランティア・ハンドブック
第28回	地域ボランティア活動についての学び②	ボランティア・ハンドブック
第29回	ボランティア活動記録の記入・確認・提出	ボランティア・ハンドブック
第30回	建学精神の確認・まとめ	ボランティア・ハンドブック

■履修上の注意

誠意を持って真剣に取り組むこと。個人及び施設の情報については、秘密を厳守すること。

■評価方法

レポート(20%)・ボランティア活動記録表(40%)・授業の参加態度(40%)にて総合的に評価する。基本的には欠席しないこと。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	ボランティア活動Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代ほか	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

「ボランティア活動Ⅰ」の学習をふまえ、自ら福祉施設・老人保健施設・障害者施設等に出向き、積極的にボランティア活動を行う。各施設におけるニーズを把握し、実践に結びつけることができるようにする。

■授業の概要

介護福祉施設、老人保健施設、ディサービス、グループホーム等々でのボランティア活動を行う。継続ボランティア、依頼ボランティア、社会貢献ボランティア活動を行う。近隣の施設でのボランティア活動を立案し実践する。活動に対しての振り返りを行い、次の活動に展開していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	ボランティア・ハンドブック
第2回	建学精神・ボランティア活動とは何か	ボランティア・ハンドブック
第3回	建学精神・ボランティアとは意義と目標	ボランティア・ハンドブック
第4回	建学の精神 中田勝教授	咸有一徳
第5回	継続ボランティアの事前指導	ボランティア・ハンドブック
第6回	地域ボランティア活動について①	ボランティア・ハンドブック
第7回	地域ボランティア活動について②	ボランティア・ハンドブック
第8回	地域ボランティア活動について③	ボランティア・ハンドブック
第9回	地域ボランティア活動について④	ボランティア・ハンドブック
第10回	ボランティアフォーラム・卒業生からのエール	ボランティア・ハンドブック
第11回	校内の環境美化活動	ボランティア・ハンドブック
第12回	障害者スポーツ大会の事前指導①	ボランティア・ハンドブック
第13回	障害者スポーツ大会の事前指導②	ボランティア・ハンドブック
第14回	障害者スポーツ大会の事前指導③	ボランティア・ハンドブック
第15回	建学精神の確認・まとめ	ボランティア・ハンドブック

■履修上の注意

誠意を持って真剣に取り組むこと。個人及び施設の情報については、秘密を厳守すること。

■評価方法

レポート(20%)・ボランティア活動記録表(40%)・授業の参加態度(40%)にて総合的に評価する。基本的には欠席しないこと。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	ボランティア活動Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	関口 喜久代ほか	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

「ボランティア活動Ⅰ」の学習をふまえ、自ら福祉施設・老人保健施設・障害者施設等に出向き、積極的にボランティア活動を行う。各施設におけるニーズを把握し、実践に結びつけることができるようにする。

■授業の概要

介護福祉施設、老人保健施設、ディサービス、グループホーム等々でのボランティア活動を行う。継続ボランティア、依頼ボランティア、社会貢献ボランティア活動を行う。近隣の施設でのボランティア活動を立案し実践する。活動に対しての振り返りを行い、次の活動に展開していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	建学精神 講義・中田勝教授	咸有一徳
第17回	ボランティア活動記録の記入・確認	ボランティア・ハンドブック
第18回	あそか祭りボランティア事前指導①	ボランティア・ハンドブック
第19回	あそか祭りボランティア事前指導②	ボランティア・ハンドブック
第20回	あそか祭りボランティア事前指導③	ボランティア・ハンドブック
第21回	校内の環境美化活動	ボランティア・ハンドブック
第22回	ボランティアフォーラム	ボランティア・ハンドブック
第23回	地域ボランティア活動について⑤	ボランティア・ハンドブック
第24回	地域ボランティア活動について⑥	ボランティア・ハンドブック
第25回	地域ボランティア活動について⑦	ボランティア・ハンドブック
第26回	地域ボランティア活動について⑧	ボランティア・ハンドブック
第27回	地域ボランティア活動についての学び①	ボランティア・ハンドブック
第28回	地域ボランティア活動についての学び②	ボランティア・ハンドブック
第29回	ボランティア活動記録の記入・確認・提出	ボランティア・ハンドブック
第30回	建学精神の確認・まとめ	ボランティア・ハンドブック

■履修上の注意

誠意を持って真剣に取り組むこと。個人及び施設の情報については、秘密を厳守すること。

■評価方法

レポート(20%)・ボランティア活動記録表(40%)・授業の参加態度(40%)にて総合的に評価する。基本的には欠席しないこと。

■教科書

授業中に指示する。

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	医療事務実務			担当教員 (単位認定者)	清水 春代	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

医療保険制度の理解と資格取得

■授業の概要

テキストに沿って、医療保険制度を理解する。医療報酬の点数の計算方法を学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を学習する事
第2回	診察料の算定方法	教科書を学習する事
第3回	投薬の算定方法	教科書を学習する事
第4回	注射の手技料の算定方法	教科書を学習する事
第5回	処置費の算定方法	教科書を学習する事
第6回	手術料の算定方法	教科書を学習する事
第7回	検査料の算定方法	教科書を学習する事
第8回	入院費の算定方法	教科書を学習する事
第9回	医療保険制度	教科書を学習する事
第10回	レセプトの書き方・計算方法	教科書を学習する事
第11回	レセプトの書き方・計算方法	教科書を学習する事
第12回	レセプトの書き方・計算方法	教科書を学習する事
第13回	レセプトの書き方・計算方法	教科書を学習する事
第14回	総括の仕方	教科書を学習する事
第15回	模擬試験	教科書を学習する事

■履修上の注意

授業態度は真面目に取り組むこと。計算をするので、電卓を用意すること。テキストを必ず持参すること。
--

■評価方法

筆記試験（70%）、授業態度（30%）で評価する。提出物は期日までに提出すること。

■教科書

医療事務報酬制度テキスト

■参考書

印刷資料等を使用

科目名	整容技術演習			担当教員 (単位認定者)	黒澤 治美	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

社会人としての予備知識と自己を高める学習

■授業の概要

皮膚知識とメイク。 筆ペンで生活知識（金封）の書き方。 パーソナルカラー（自分のカラーを知ろう）

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	自己紹介、皮膚構造と外体代謝過程（オリエンテーション）	教科書を学習する事
第2回	紫外線、合成界面活性剤、化粧品のおそれについて	教科書を学習する事
第3回	メイク演習、男性メイク	教科書を学習する事
第4回	メイク演習	教科書を学習する事
第5回	メイク演習	教科書を学習する事
第6回	筆ペン、筆のあつかい、ひらがな、数字	教科書を学習する事
第7回	筆ペン、住所、氏名、地名等	教科書を学習する事
第8回	筆ペン、金封文字、年賀状の書き方	教科書を学習する事
第9回	筆ペン、冠婚葬祭用語、名前のバランス	教科書を学習する事
第10回	筆ペン、詩を書く、まとめ、提出	教科書を学習する事
第11回	パーソナルカラー とは 基礎	教科書を学習する事
第12回	パーソナルカラー 判断 診断	教科書を学習する事
第13回	パーソナルカラー 診断	教科書を学習する事
第14回	パーソナルカラー 診断	教科書を学習する事
第15回	まとめ レポート提出 学生アンケート	教科書を学習する事

■履修上の注意

実技を学ぶので、欠席はしないように心がけること。遅刻は3回で1回の欠席として扱う。

■評価方法

レポート提出 授業態度

■教科書

筆ペン教本、(用意いただく 筆ペン)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	福祉住環境論			担当教員 (単位認定者)	岡部 貴代	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①住環境整備がなされたときの利点を理解し、その必要性を説明することができる。
- ②高齢者・障害者の疾患・障害別に、住環境において必要な配慮・提案をすることができる。
- ③在宅生活において、生活行為別に住環境整備の提案をおこなうことができる。
- ④基本的な建築用語を理解でき、設計図面から基本的な情報を読み取ることができる。

■授業の概要

医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身につけ、住環境整備のあり方を理解し、実際に問題解決を提案できる能力を養う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・住環境整備の必要性と介護保険制度における住宅改修	教科書の該当範囲学習
第2回	バリアフリーとユニバーサルデザイン	教科書の該当範囲学習
第3回	小テスト①、高齢者の特性と住環境整備(1)	教科書の該当範囲学習・小テスト準備
第4回	高齢者の特性と住環境整備(2)	教科書の該当範囲学習
第5回	高齢者の特性と住環境整備(3)、障害者の特性と住環境整備(1)	教科書の該当範囲学習
第6回	小テスト②、障害者の特性と住環境整備(2)	教科書の該当範囲学習・小テスト準備
第7回	住宅建築の基礎知識(1)	教科書の該当範囲学習
第8回	住宅建築の基礎知識(2)	教科書の該当範囲学習
第9回	小テスト③、住環境整備の進め方	教科書の該当範囲学習・小テスト準備
第10回	住環境整備の共通基本技術(1)	教科書の該当範囲学習
第11回	住環境整備の共通基本技術(2)	教科書の該当範囲学習
第12回	生活行為別住環境整備の手法(1)	教科書の該当範囲学習
第13回	生活行為別住環境整備の手法(2)	教科書の該当範囲学習
第14回	生活行為別住環境整備の手法(3)	教科書の該当範囲学習
第15回	小テスト④、高齢者や障害者のための住宅設計の考え方・事例集	教科書の該当範囲学習・小テスト準備

■履修上の注意

講義中のノート筆記は必ず行う。
小テスト(教科書準拠・テスト前回の講義時に範囲を提示する)は必ず受ける。

■評価方法

講義中に実施する小テスト4回で40%、定期試験で50%、受講態度で10%の評価をする。

■教科書

福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂版 東京商工会議所編・出版

■参考書

授業中に随時紹介する

科目名	手話			担当教員 (単位認定者)	山田 希代子 栗原 まさ子	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習	必修	・ 選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

1. コミュニケーション手段としての基本的な手話を習得し、コミュニケーションの必要性や伝えることの大切さを学ぶ。
2. 聴覚障害者の生活、福祉等の歴史や現状を学び、外見では分かりにくい「障害」と社会的要因を理解する。

■授業の概要

目的達成に向け、教科書中心の講義に加え、健聴講師(手話通訳士)の経験を伝える。手話技術については、聴覚障害をもつ講師によって、生きた手話によるコミュニケーションを指導する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	ガイダンス (手話を学ぶにあたって) 実技一姓の表現・挨拶の手話	実技の復習練習
第2回	耳の役割・聞こえのしくみ 実技一指文字・挨拶と氏名の手話	〃
第3回	耳の障害 実技一数・家族の紹介	〃
第4回	補聴器・人口内耳 実技一趣味の紹介	〃
第5回	ことばの発達と獲得 実技一住所の紹介	〃
第6回	コミュニケーションと言語 実技一仕事の紹介	〃
第7回	聴覚障害者(ろう者)とコミュニケーション手段 実技一時制(1)	〃
第8回	手話の成立と発展(ろう教育) 実技一時制(2)	〃
第9回	聴覚障害者(ろう者)の生活<ビデオ活用> 実技一自己紹介の練習	〃
第10回	体験学習(ろう者との交流会)	〃
第11回	盲ろう者のコミュニケーションとサポート 実技一会話練習(教科書1・2・3講)	〃
第12回	聴覚障害者の介護と社会資源の利用(ビデオ活用) 実技一会話練習(4・5講)	〃
第13回	聴覚障害者とバリアフリー・関連福祉制度 実技一会話練習(6・7講)	〃
第14回	講義のまとめ 実技一手話の読み取り練習	〃
第15回	試験(筆記・実技)	〃

■履修上の注意

私語厳禁はもちろんですが、「手話は、見る言葉」であることから、実技については特に、聴覚障害をもつ講師への視線集中が大切であることを伝えたい。

■評価方法

筆記試験 — 60% ・ 実技試験(手話の読み取り) — 40%

■教科書

「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」 : 中央法規出版(株)

■参考書

「誇りを持って未来へ」 : 全日本ろうあ連盟出版局

科目名	点字			担当教員 (単位認定者)	岡田 記代	単位数	1
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

目 標：点字で手紙の読み書きができる程度まで収受する。
 学習効果：視覚障害者に対する理解を深め、思いやりの気持ちを育てる。

■授業の概要

点字の概要・視覚障害者について・点字の読み方・点字の書き方・分かち書きなど点字文法について

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	視覚障害者について・点字の歴史・点字の仕組み	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第2回	点字の仕組み(50音)	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第3回	点字の仕組み(濁音・拗音) 点字の書き方	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第4回	点字の仕組み(数字)	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第5回	仮名遣いについて(基本) 点字の仕組み(アルファベット)	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第6回	仮名遣いについて(応用)	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第7回	分かち書きについて(自立語と付属語)	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第8回	分かち書きについて(複合語)	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第9回	分かち書きについて(自立語内部)	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第10回	記号や富豪の書き方	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第11回	書き方の形式	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第12回	手紙を書く	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第13回	課題点訳	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第14回	視覚障害者の福祉について	事前学習(テキスト)及び課題の見直し
第15回	まとめ	事前学習(テキスト)及び課題の見直し

■履修上の注意

半年間と言う短い期間で点字の読み書きを習得するので、休まずに授業に出席して課題に取り組む事が最も重要である。

■評価方法

講義の課題を提出してもらい、その都度採点する。普段の課題及び授業態度、最終課題点訳及びまとめテストを総合して評価する。(おおむね課題・テスト70%、授業態度30%)

■教科書

THE 点字習得テキスト 初級練習帳 ジアース教育新社
 (東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル 電話0352827183) 発行

■参考書

--

科目名	相談援助演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

ジェネリックソーシャルワークの視点を養い、またその展開に必要な能力を獲得するための基礎知識・技術を習得する。

■授業の概要

相談援助実践においては、単なるサービス提供にとどまらず、利用者の全人理解、そしてストレングス・エンパワメントの視点を考慮した対応が要求される。演習を通じて、自己理解・他者理解、ソーシャルワークの価値と倫理等基本事項をおさえることで編入後、スムーズに相談演習Ⅱ・Ⅲに入っていけるよう展開していく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	授業時に指示する
第2回	社会福祉の定義・基本姿勢	授業時に指示する
第3回	社会資源の理解	授業時に指示する
第4回	自己理解・自己覚知①	授業時に指示する
第5回	自己理解・自己覚知②	授業時に指示する
第6回	自己概念及び自身の性格の把握	授業時に指示する
第7回	自己開示	授業時に指示する
第8回	他者理解	授業時に指示する
第9回	価値観の違い	授業時に指示する
第10回	上記事項小括・グループ討議	授業時に指示する
第11回	コミュニケーション技法 ①	授業時に指示する
第12回	コミュニケーション技法 ②	授業時に指示する
第13回	コミュニケーション技法 ③	授業時に指示する
第14回	コミュニケーション技法 ④	授業時に指示する
第15回	総括	授業時に指示する

■履修上の注意

グループワーク等に積極的に参加すること。
毎時間、確認テスト(小テスト)を実施する。

■評価方法

試験またはレポート90%、出欠状況10%、それに演習への参加態度を考慮し評価する。

■教科書

社会福祉士シリーズ21『相談援助演習』(弘文堂)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	地域福祉の理論と方法		担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修	選択
					一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

本科目の到達目標は地域福祉の理念や内容、コミュニティソーシャルワークを理解し、地域福祉推進のための課題と地域福祉の方向性について理解することである。

社会福祉専門職が所属する施設・機関は地域社会のなかにあり、社会福祉専門職には地域福祉の理念・推進方法などを理解し、地域住民主体のコミュニティソーシャルワークを展開していくことが求められる。よって、社会福祉専門職は地域福祉を体系的に理解し、必要な知識・技術を習得することで、コミュニティソーシャルワークを活用した支援を提供することが必要である。

■授業の概要

本科目ではソーシャルワーク実践にかかわる地域福祉の理念・価値・方法と、地域自立生活を支援するコミュニティソーシャルワークを展開できるシステム、ソーシャルワークに必要な条件整備等の領域を中心に学習する。また、テキストによる単純な知識の習得だけでなく、コミュニティソーシャルワークの具体的実践事例を活用しながら地域福祉を総合的に学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	地域福祉の用語について調べ理解する
第2回	地域福祉とコミュニティソーシャルワーク	地域福祉およびコミュニティワークとは何かを調べ理解する
第3回	地域福祉の理念と沿革①	地域福祉の歴史と理論について調べ理解する
第4回	地域福祉の理念と沿革②	社会福祉制度の変化、諸外国の歴史・概念について調べ理解する
第5回	社会福祉の現代的課題と地域福祉の新潮流	近年の社会福祉制度改革、ソーシャル・インクルージョンの概念について調べ理解する
第6回	住民参加と財源①	地域福祉における住民参加、NPOについて調べ理解する
第7回	住民参加と財源②	住民参加型福祉サービス、地域福祉の財源と税制について調べ理解する
第8回	地域福祉と計画	地域福祉計画、地域福祉支援計画、地域福祉活動計画について調べ理解する
第9回	自立を支援するサービス	在宅福祉サービス、権利擁護制度について調べ理解する
第10回	ユニバーサル・デザインのまちづくり	ユニバーサル・デザインについて調べ、身近にあるユニバーサル・デザインを理解する
第11回	地域福祉の推進機関①	地域福祉における福祉教育、ボランティア活動について調べ理解する
第12回	地域福祉の推進機関②	社会福祉協議会、民生・児童委員と地域福祉の専門職について調べ理解する
第13回	地域福祉の推進方法	コミュニティソーシャルワークについて調べ理解する
第14回	地域福祉事例研究	事例（配布資料）を通読し、わからない用語を調べ理解する
第15回	まとめ	振り返りおよびより深く学ぶべき項目を調べ復習する

■履修上の注意

積極的に授業に参加すること。本科目では出席点（出席による加点）はない。すなわち、出席を前提とした授業への参加態度（授業中、グループワークでの発言、プレゼンテーションなど）および定期試験を評価の素材とする。本科目では、毎回小テストを実施する。

■評価方法

- ①試験・小テスト（70%）
 ②受講態度（30%） ※①および②を総合的に評価する。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会 編（2010） 新・社会福祉士養成講座〈9〉 地域福祉の理論と方法—地域福祉論
 小林雅彦 編著（2010） 〈第二版〉 社会福祉の新潮流⑤ 地域福祉論—基本と事例 学文社

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	低所得者に対する 支援と生活保護制度		担当教員 (単位認定者)	土屋 昭雄	単位数	2
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習		必修	・ 選択 一覧表参照

■授業の到達目標・期待される学習効果

貧困・低所得階層の人々が直面している生活問題を学び、それを主体的に解決する「ちから」を獲得するための援助方法の工夫の仕方とそのための制度のあり方を理解する。

■授業の概要

現代の貧困・低所得と生活問題との関係、生活保護制度の理念・内容・仕組み・援助プログラムの作成方法・地域におけるセーフティネット作りなどを理解する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	教科書を学習する事
第2回	現代の貧困・低所得と生活問題	教科書を学習する事
第3回	公的扶助の歴史	教科書を学習する事
第4回	生活保護制度の目的と理念	教科書を学習する事
第5回	生活保護制度の給付内容	教科書を学習する事
第6回	生活保護制度の仕組みと財政	教科書を学習する事
第7回	生活保護制度の運営実施体制と他職種連携	教科書を学習する事
第8回	生活保護の争訟制度と権利擁護	教科書を学習する事
第9回	事例検討Ⅰ	教科書を学習する事
第10回	事例検討Ⅱ	教科書を学習する事
第11回	生活保護制度の動向Ⅰ	教科書を学習する事
第12回	生活保護制度の動向Ⅱ	教科書を学習する事
第13回	低所得者対策の動向Ⅰ	教科書を学習する事
第14回	低所得者対策の動向Ⅱ	教科書を学習する事
第15回	まとめ	教科書を学習する事

■履修上の注意

私語は他学生の存在を否定するものなので、かつソーシャルワーカーとしては失格であることを肝に銘じる。原則として毎回小テストを実施する。

■評価方法

出席点(30%)授業態度(20%)筆記試験・レポート等(50%)

■教科書

『公的扶助論～低所得者に対する支援と生活保護制度～』光生館

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	臨床心理学		担当教員 (単位認定者)	西村 昭徳	単位数	1
対象学年	1	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

介護福祉士や社会福祉士に求められる臨床心理学の基礎内容を理解する。こころの問題(異常心理)、臨床心理査定、心理療法の概要について理解し、国家試験に対応するための知識を習得する。特に、介護や福祉の現場でみられることの多いこころの問題について、臨床心理学の視点から理解し、その対応について考えることができるようになることを目標とする。

■授業の概要

臨床心理学は、こころの問題や様々な悩み・苦しみを抱える人々を理解し、支えていくための考え方や方法を研究する実践的な学問領域である。「こころの問題(異常心理)」、「臨床心理査定」、「心理療法」の3部構成で授業を進める。授業全体を通して、こころの問題への理解を中心に、臨床心理学の基礎となる内容を包括的に学習する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
第2回	臨床心理学とは： 臨床心理学の歴史	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第3回	こころの問題とは何か： 病理水準と分類、診断の意義、診断システム	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第4回	こころの問題①： 内因性疾患	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第5回	こころの問題②： 心因性疾患	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第6回	こころの問題③： 器質性精神疾患と高次脳機能障害	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第7回	こころの問題④： 発達障害	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第8回	臨床心理査定①： 査定の意義、査定の方法、査定における注意点	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第9回	臨床心理査定②： 各心理検査の種類と特徴	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第10回	臨床心理査定③： 心理検査の体験	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第11回	心理療法①： 心理療法の進め方と治療構造	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第12回	心理療法②： 来談者中心療法	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第13回	心理療法③： 力動的心理療法—フロイトとユング—	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第14回	心理療法④： 行動論的心理療法—行動療法、認知行動療法—	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる
第15回	まとめ： 臨床心理学の研究動向	教科書を読んでおくこと 授業内容の感想をまとめる

■履修上の注意

- ・受講希望者は、必ず初回授業で行う科目オリエンテーションに出席すること。やむを得ない理由で、欠席した場合、後日、報告に来ること。
- ・毎回、授業の最後に確認のための小テストを実施する。
- ・対人援助職を目指す学生として恥ずかしくない態度・姿勢で受講することを望む。

■評価方法

授業への参加態度を50%、定期試験を50%として、総合的に評価する。

■教科書

徳田英次 2010 「図解入門 よくわかる臨床心理学の基本としくみ」 秀和システム

■参考書

適宜紹介する

科目名	基礎学力養成講座			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	一
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

これからの資格試験・就職試験に向けて基礎学力の復習・向上を目指す。

■授業の概要

義務教育において身につけておくべき基礎学力の総復習。各自、各科目の弱点となる部分の発見と強化を行う。

■授業計画

回数	授業内容		予習・復習
第1回	数学 英語	文字式・式の計算 be動詞と一般動詞	テキストの練習問題のページを行う。
第2回	国語 数学	説明文・解説文の読み取り方 一次方程式・連立方程式	テキストの練習問題のページを行う。
第3回	英語 国語	現在進行形 説明文の読み取り方	テキストの練習問題のページを行う。
第4回	数学 英語	比例と反比例 助動詞	テキストの練習問題のページを行う。
第5回	国語 数学	随想文の読み取り方 一次関数	テキストの練習問題のページを行う。
第6回	英語 国語	名詞・代名詞 指示語・接続語のとらえ方	テキストの練習問題のページを行う。
第7回	数学 英語	方程式とグラフ 形容詞・副詞	テキストの練習問題のページを行う。
第8回	国語 数学	要点・文脈のとらえ方 平面図形・空間図形	テキストの練習問題のページを行う。
第9回	英語 国語	比較・命令文 要旨のとらえ方・要約のしかた	テキストの練習問題のページを行う。
第10回	数学 英語	図形の計量 命令文・付加疑問・間接疑問	テキストの練習問題のページを行う。
第11回	国語 数学	天声人語の要約 平行と合同	テキストの練習問題のページを行う。
第12回	英語 国語	不定詞 小説・物語の読み取り方	テキストの練習問題のページを行う。
第13回	数学 英語	三角形・四角形・円 動名詞・分詞	テキストの練習問題のページを行う。
第14回	国語 数学	随筆の読み取り方 確率	テキストの練習問題のページを行う。
第15回	英語 国語	受動態(1) 主語のとらえ方	テキストの練習問題のページを行う。

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。

■評価方法

単位認定外の講座であるが、受講態度・小テスト等は基礎演習の評価に反映される。

■教科書

「重点検討 国語・数学・英語」 教学研究社

■参考書

印刷教材等

科目名	基礎学力養成講座			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	一
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択	一覧表参照		

■授業の到達目標・期待される学習効果

これからの資格試験・就職試験に向けて基礎学力の復習・向上を目指す。

■授業の概要

義務教育において身につけておくべき基礎学力の総復習。各自、各科目の弱点となる部分の発見と強化を行う。

■授業計画

回数	授業内容		予習・復習
第16回	数学 英語	式の計算 受動態(2)	テキストの練習問題のページを行う。
第17回	国語 数学	詩の鑑賞の仕方 平方根	テキストの練習問題のページを行う。
第18回	英語 国語	現在完了(1) 短歌・俳句の鑑賞の仕方	テキストの練習問題のページを行う。
第19回	数学 英語	二次方程式 現在完了(2)	テキストの練習問題のページを行う。
第20回	国語 数学	古文の味わい方(1) 二次関数	テキストの練習問題のページを行う。
第21回	英語 国語	関係代名詞(1) 古文の味わい方(2)	テキストの練習問題のページを行う。
第22回	数学 英語	図形と相似 関係代名詞(2)	テキストの練習問題のページを行う。
第23回	国語 数学	漢詩・漢文の味わい方 三平方の定理(1)	テキストの練習問題のページを行う。
第24回	英語 国語	前置詞 漢詩・漢文の味わい方(2)	テキストの練習問題のページを行う。
第25回	数学 英語	三平方の定理(2) 接続詞	テキストの練習問題のページを行う。
第26回	国語 数学	日本文学の流れ 分野別応用問題(1)	テキストの練習問題のページを行う。
第27回	英語 国語	文の書き換え 分野別完成問題(1)	テキストの練習問題のページを行う。
第28回	数学 英語	分野別応用問題(2) 長文読解(1)	テキストの練習問題のページを行う。
第29回	国語 数学	分野別完成問題(2) 分野別応用問題(3)	テキストの練習問題のページを行う。
第30回	英語 国語	長文読解(2) 分野別完成問題(3)	テキストの練習問題のページを行う。

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。

■評価方法

単位認定外の講座であるが、受講態度・小テスト等は基礎演習の評価に反映される。

■教科書

「重点検討 国語・数学・英語」 教学研究社

■参考書

印刷教材等

科目名	共通試験対策講座			担当教員 (単位認定者)	片桐 幸司	単位数	—
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

卒業年度に実施される「卒業時共通試験」に対する学習の補完的授業として開講する。弱点克服を主眼として得点率の向上を目指す。

■授業の概要

自主参加形式の講座として開講する。必修科目の「介護福祉特講Ⅱ」と連携し、受験科目の小テストと解説を主に実施する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	人間の尊厳と自立	授業内容の事前学習
第2回	人間関係とコミュニケーション	授業内容の事前学習
第3回	社会の理解	授業内容の事前学習
第4回	介護の基本①	授業内容の事前学習
第5回	介護の基本②	授業内容の事前学習
第6回	コミュニケーション技術	授業内容の事前学習
第7回	生活支援技術①	授業内容の事前学習
第8回	生活支援技術②	授業内容の事前学習
第9回	介護過程	授業内容の事前学習
第10回	発達と老化の理解①	授業内容の事前学習
第11回	発達と老化の理解②	授業内容の事前学習
第12回	認知症の理解	授業内容の事前学習
第13回	障害の理解	授業内容の事前学習
第14回	こころとからだのしくみ①	授業内容の事前学習
第15回	こころとからだのしくみ②	授業内容の事前学習

■履修上の注意

自主参加型の講座であるが、共通試験の受験成績の向上を図るため、得点率の更なる向上を目指す者、なかなか向上しない者などについて、意欲的な参加（受講）を求める。また、火曜・2限以外に時間割の空き時間や放課後などの時間帯を使っても確認テスト等を実施（不定期）するので、開講告知に留意すること。

■評価方法

単位認定対象外の講座であるが、受講態度、小テスト等で総合的に評定する。

■教科書

「介護福祉士 新カリキュラム 学習ワークブック」中央法規

■参考書

印刷資料など

科目名	公務員試験対策講座Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	—
対象学年	1	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

地方公務員採用試験に向け、基本的な知識・解法を身につける。

■授業の概要

公務員採用試験において出題頻度の高い、判断推理・数的推理・政治経済を中心として基本事項の解説をしていく。また、適性試験対策として、様々な型の試験を毎回行い、正確さ・敏速さ・熟練度を養う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	判断推理 論理・集合	授業で行った単元の練習問題を解く。
第2回	数的推理 方程式・不等式	授業で行った単元の練習問題を解く。
第3回	判断推理 人数・暗号	授業で行った単元の練習問題を解く。
第4回	数的推理 整数(倍数・約数)	授業で行った単元の練習問題を解く。
第5回	政治経済 民主主義の基本原理と制度	授業で行った単元の練習問題を解く。
第6回	判断推理 対応関係・順序関係	授業で行った単元の練習問題を解く。
第7回	数的推理 整数(魔方陣・覆面算・虫くい算)	授業で行った単元の練習問題を解く。
第8回	判断推理 ウソつき問題・試合と勝敗	授業で行った単元の練習問題を解く。
第9回	数的推理 整数(合同式・n進法)	授業で行った単元の練習問題を解く。
第10回	政治経済 市場経済・国民経済の流れ	授業で行った単元の練習問題を解く。
第11回	判断推理 手順・位置関係	授業で行った単元の練習問題を解く。
第12回	数的推理 比・割合	授業で行った単元の練習問題を解く。
第13回	判断推理 道順・位相	授業で行った単元の練習問題を解く。
第14回	数的推理 速さ・時間・距離	授業で行った単元の練習問題を解く。
第15回	政治経済 日本国憲法(原理と基本的人権)	授業で行った単元の練習問題を解く。

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。

■評価方法

単位認定対象外の講座であるが、受講態度、小テスト等で総合的に評定する。

■教科書

初級スーパー過去問よくでる判断推理・数的推理・社会科学

■参考書

必要に応じて適宜指示する

科目名	公務員試験対策講座Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	古川 邦昭	単位数	—
対象学年	2	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

地方公務員採用試験に向け、実践的な知識・解法を身につける。

■授業の概要

公務員採用試験において出題頻度の高い、判断推理・数的推理・政治経済を中心として過去問の解説をしていく。また、適性試験対策として、実践形式の試験を毎回行う。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	判断推理 暗号・集合・命題	授業で行った単元の練習問題を解く。
第2回	数的推理 数と式の計算	授業で行った単元の練習問題を解く。
第3回	判断推理 文章で表された条件	授業で行った単元の練習問題を解く。
第4回	数的推理 方程式・不等式	授業で行った単元の練習問題を解く。
第5回	政治経済 憲法の基本原理と基本的人権	授業で行った単元の練習問題を解く。
第6回	判断推理 数量で表された条件	授業で行った単元の練習問題を解く。
第7回	数的推理 方程式・不等式の応用	授業で行った単元の練習問題を解く。
第8回	判断推理 方位と位置	授業で行った単元の練習問題を解く。
第9回	数的推理 場合の数・確率	授業で行った単元の練習問題を解く。
第10回	政治経済 需要・供給と市場経済	授業で行った単元の練習問題を解く。
第11回	判断推理 平面図形	授業で行った単元の練習問題を解く。
第12回	数的推理 三角形の性質・多角形	授業で行った単元の練習問題を解く。
第13回	判断推理 空間図形	授業で行った単元の練習問題を解く。
第14回	数的推理 円と扇形・最短距離	授業で行った単元の練習問題を解く。
第15回	政治経済 国際経済と日本経済	授業で行った単元の練習問題を解く。

■履修上の注意

誠意ある態度での受講を求めます。

■評価方法

単位認定対象外の講座であるが、受講態度、小テスト等で総合的に評定する。

■教科書

初級スーパー過去問よくでる判断推理・数的推理・社会科学

■参考書

初級スーパー過去問よくでる人文科学・自然科学・文章理解・資料解釈

科目名	就職指導			担当教員 (単位認定者)	長津 一博	単位数	—
対象学年	2	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	一覧表参照	

■授業の到達目標・期待される学習効果

自己の適性について理解を深め、望ましい職業観、社会人としての心構えや基本的なマナーを身につけ、就職に対する意識の高揚を図る。

■授業の概要

学生一人ひとりが、建学の精神やボランティア活動を踏まえた中で、実社会において自分の力を存分に発揮できる『適職』を見つけることができるような指導を行う。また社会に貢献できる能力を高めるために、大学生活をより深化するための計画化の徹底を図り、人間にとって職業が重要であることを踏まえた「職業に就くことを志す→職業を見つける→必要な訓練を行う→職業に適応していく」という個人の一連の過程全体を支援する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	オリエンテーション	現代社会に目を向け、何が必要とされ何が求められているか
第2回	就職に対する考え方・キャリアデザイン・指導年間計画・進路希望調査	『就職の手引き』第一部1～4
第3回	自己理解・志望先の決定	『就職の手引き』第一部5～8
第4回	応募から内定までの流れ・基本原則・就職関係書類	『就職の手引き』第一部9～12
第5回	求人票の見方・就職情報システム①	『就職の手引き』第一部14～16
第6回	求人票の見方・就職情報システム②	『就職の手引き』第一部14～16 (PC室・LL教室)
第7回	履歴書の書き方・応募書類の準備と提出①	『就職の手引き』第一部17～19
第8回	履歴書の書き方・応募書類の準備と提出②	『就職の手引き』第一部17～19
第9回	マナー指導	
第10回	履歴書作成	『就職の手引き』第一部17～19
第11回	応募の基本的事項(電話対応・求人依頼等)	『就職の手引き』第二部35～39
第12回	就職試験・採用側が望む人材とは	『就職の手引き』20～24
第13回	面接の基本・成功する面接	『就職の手引き』26～29 別紙添付
第14回	面接ロールプレイ	『就職の手引き』26～29 別紙添付
第15回	試験前日の心得・採用試験当日の心得・内定後の心得	『就職の手引き』25・30

■履修上の注意

- ・就職を希望する学生は全員必ず履修すること。
- ・すべての講義に出席すること。
- ・自分自身の適正について理解を深め積極的に就職活動を行う意識を高揚させ講義を受けること。

■評価方法

単位認定外の講座

■教科書

『就職の手引き』(群馬医療福祉大学キャリアサポートセンター発行)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。